

第4章 調査結果の分析

1 定住性

-
- (1) 居住年数
 - (2) 定住・転出意向
 - (3) 定住意向理由
 - (4) 転出意向理由
-

1 定住性

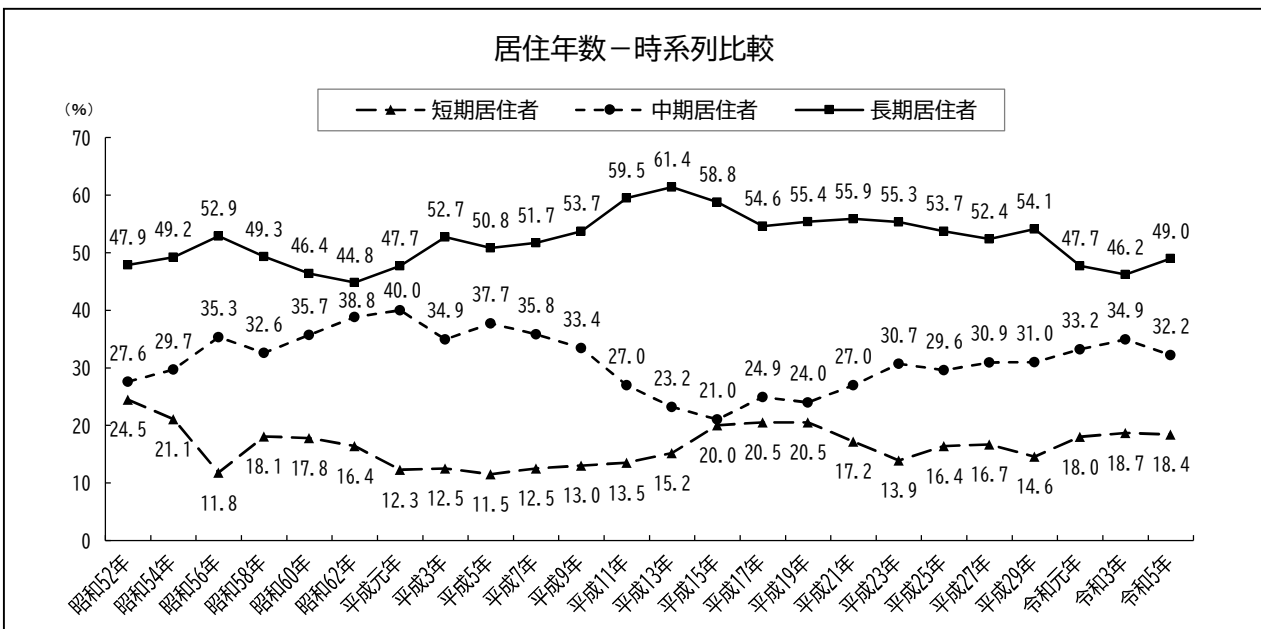
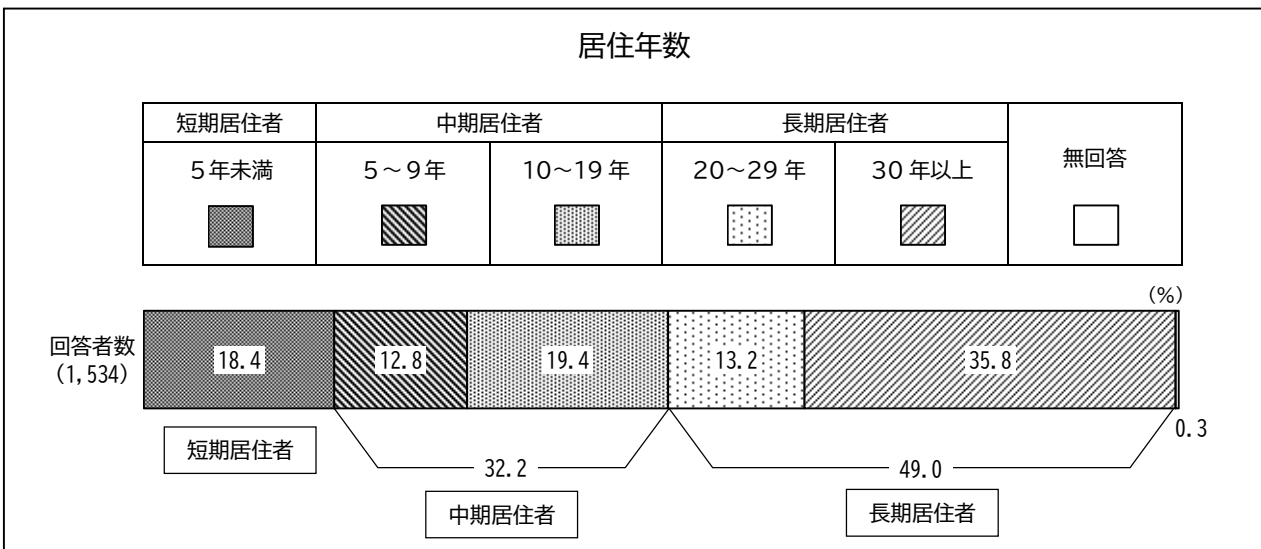
(1) 居住年数

◇「長期居住者」はほぼ5割

問1	あなたは、江東区に住んで何年になりますか。次の中から <u>1つだけ</u> 選んでください。 (回答者数=1,534)				
1	5年未満	18.4%	4	20~29年	13.2%
2	5~9年	12.8%	5	30年以上	35.8%
3	10~19年	19.4%		無回答	0.3%

居住年数については、「20~29年」(13.2%)と「30年以上」(35.8%)の2つを合わせた「長期居住者」(49.0%)がほぼ5割となっている。「5~9年」(12.8%)と「10~19年」(19.4%)の2つを合わせた「中期居住者」(32.2%)は3割を超え、「5年未満」の「短期居住者」(18.4%)は2割近くとなっている。

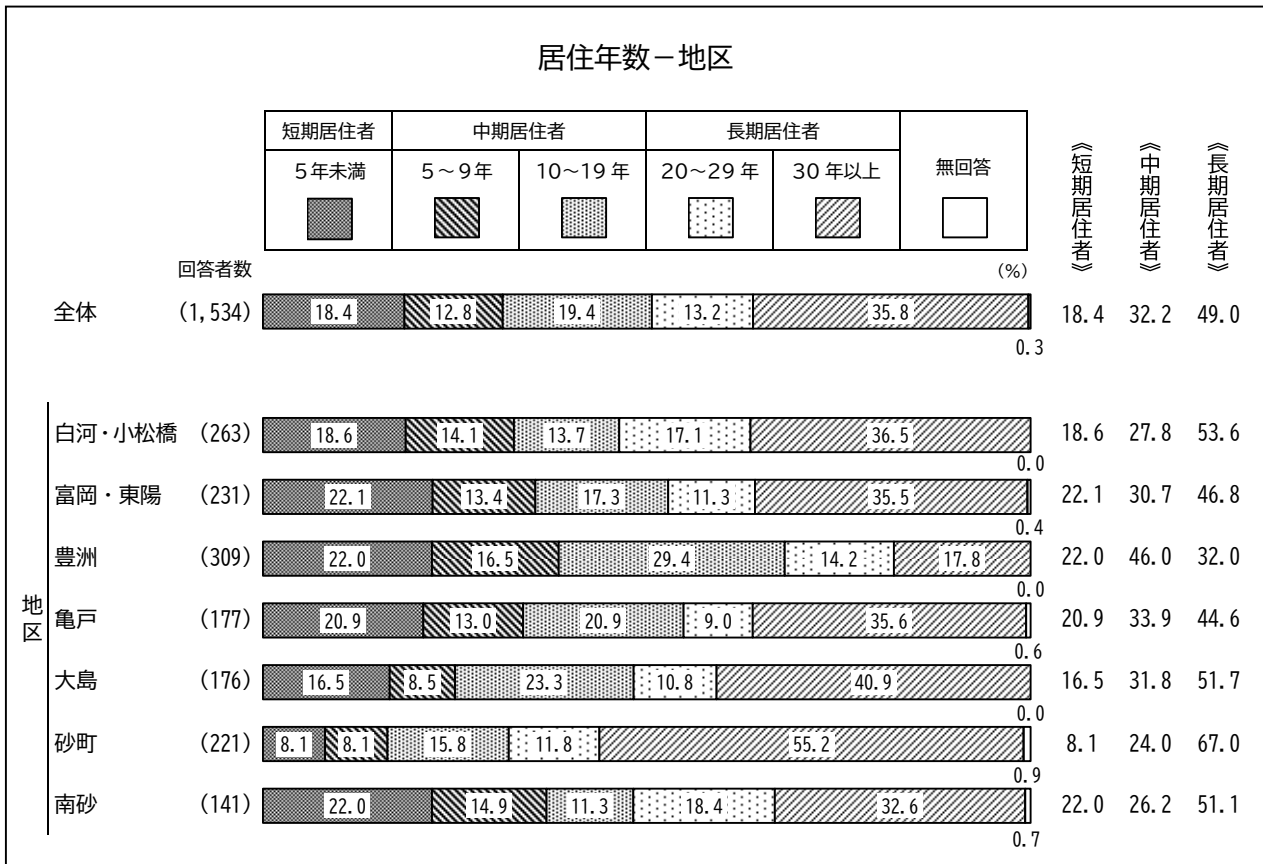
時系列の変化をみると、「中期居住者」は平成19年以降微増していたが、令和5年は減少している。「短期居住者」は令和元年以降横ばい、「長期居住者」は令和3年より増加している。



第4章 調査結果の分析〈1 定住性〉

居住年数－地区

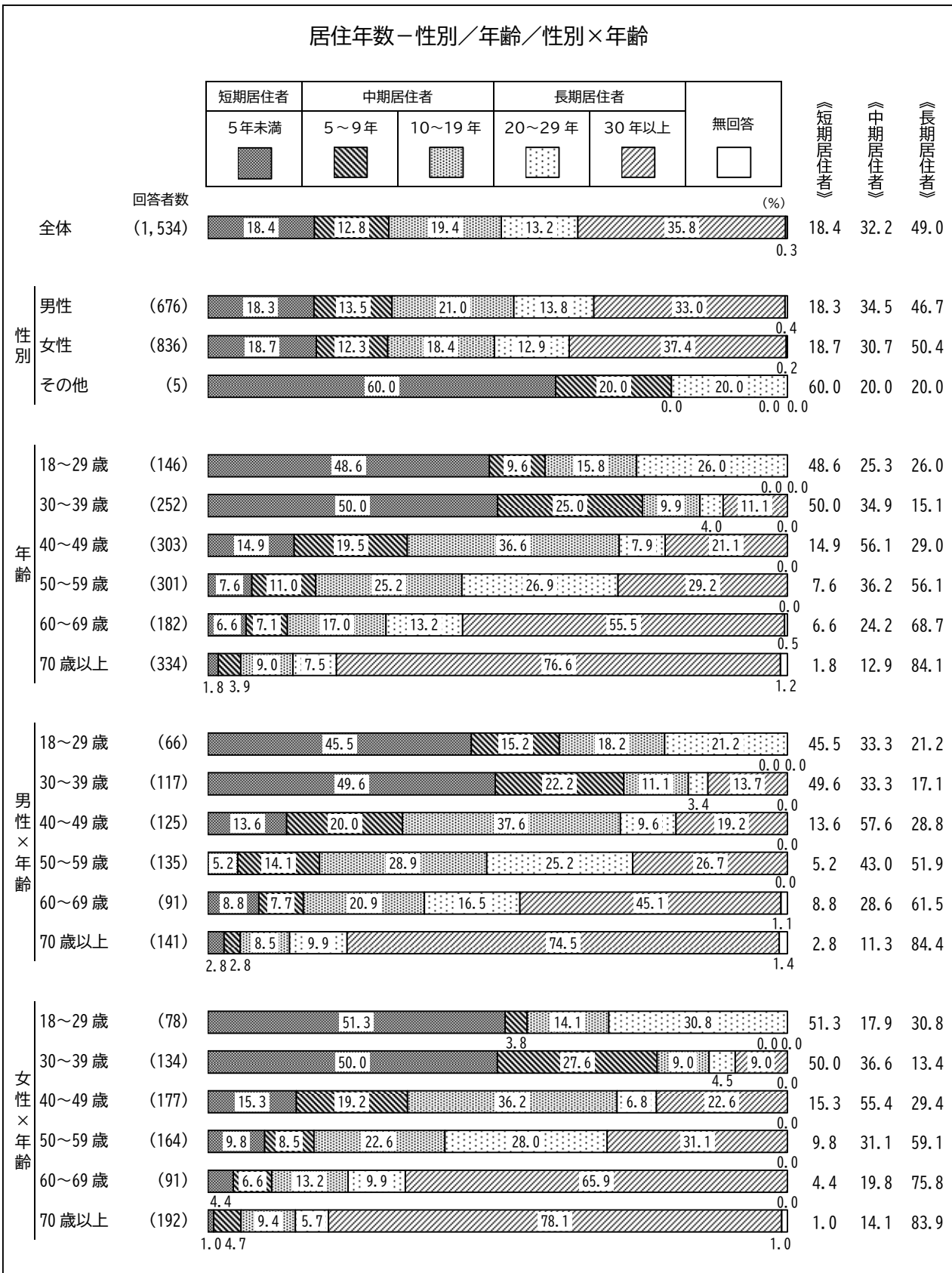
地区でみると、《長期居住者》は砂町地区で7割近くとなっている。《中期居住者》は豊洲地区で4割台半ば、《短期居住者》は富岡・東陽地区、豊洲地区、南砂地区で2割を超えている。



居住年数－性別／年齢／性別×年齢

性別で見ると、「長期居住者」は女性で5割、男性で5割近くとなっている。

性別×年齢で見ると、「短期居住者」は女性 18～29 歳で5割を超えている。「中期居住者」は男性 40～49 歳で6割近く、「長期居住者」は男性 70 歳以上で8割台半ばとなっている。



第4章
調査結果の分析
1 定住性

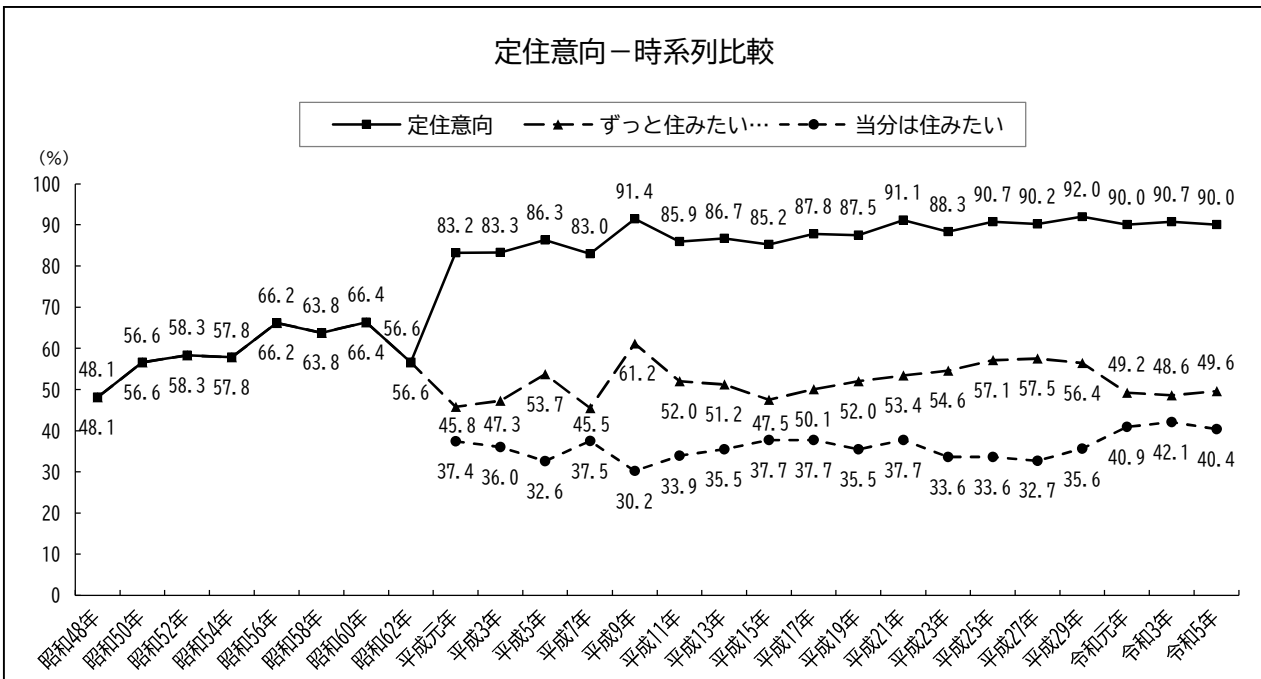
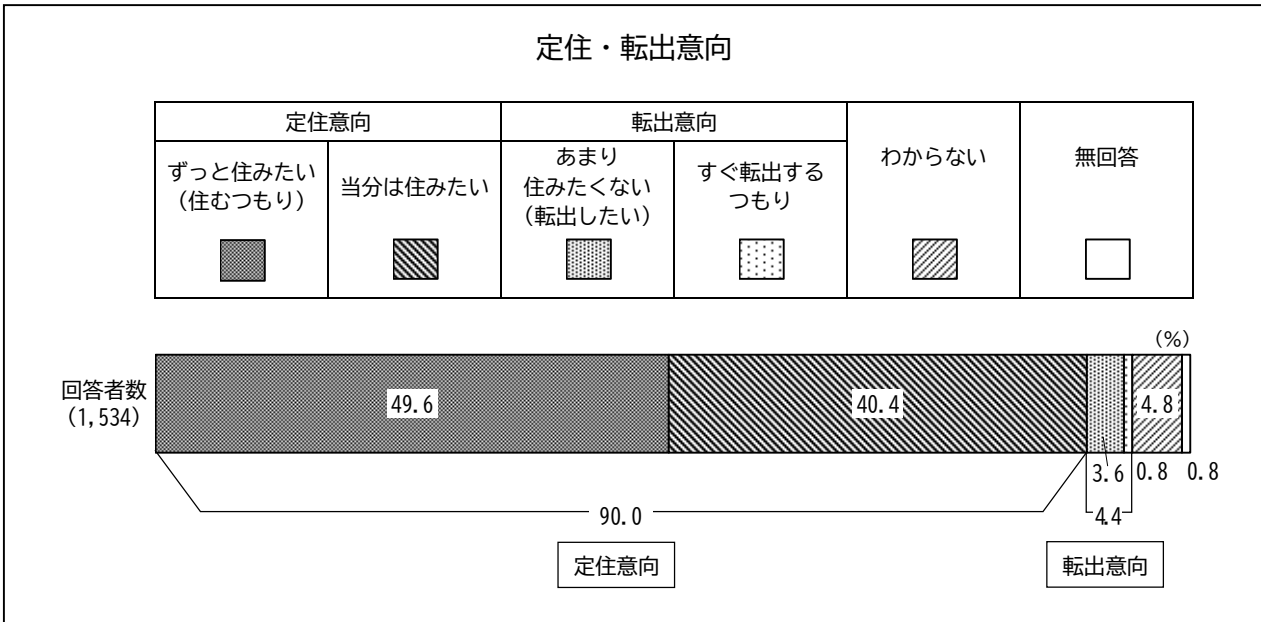
(2) 定住・転出意向

◇「定住意向」は9割

問2	あなたは、これからも江東区に住みたいと思いますか。次の中から1つだけ選んでください。 (回答者数=1,534)				
1	ずっと住みたい(住むつもり)	49.6%	4	すぐ転出するつもり	0.8%
2	当分は住みたい	40.4%	5	わからない	4.8%
3	あまり住みたくない(転出したい)	3.6%		無回答	0.8%

定住・転出意向については、「ずっと住みたい(住むつもり)」(49.6%)と「当分は住みたい」(40.4%)の2つを合わせた「定住意向」(90.0%)は9割となっている。一方、「あまり住みたくない(転出したい)」(3.6%)、「すぐ転出するつもり」(0.8%)はわずかである。

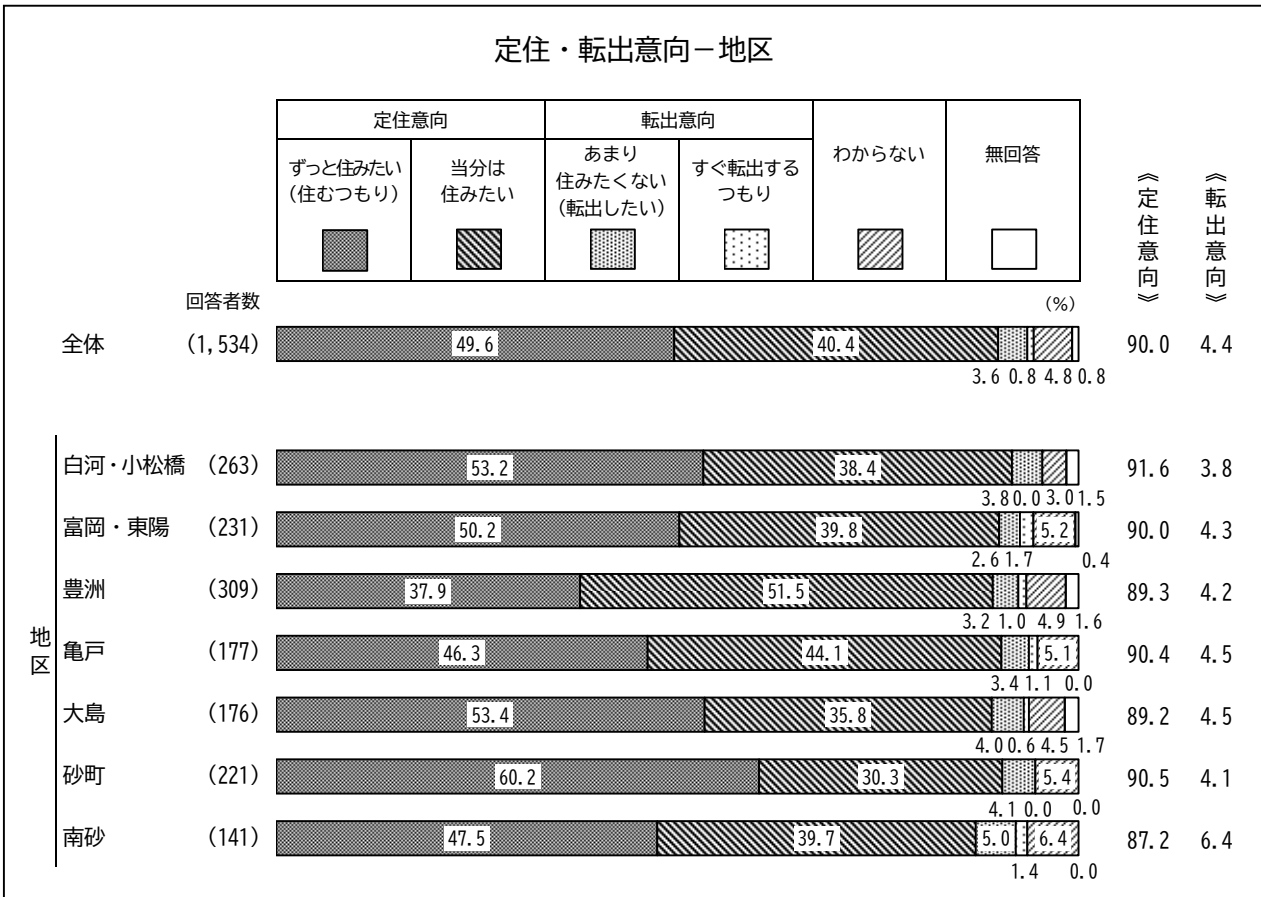
時系列の変化をみると、「定住意向」は平成25年以降9割以上となっている。



第4章 調査結果の分析 1 定住性

定住・転出意向－地区

地区でみると、《定住意向》は南砂地区が9割近く、その他の地区は9割前後となっている。一方、《転出意向》は最も多い南砂地区が1割未満、その他の地区はわずかとなっている。



第4章
調査結果の分析
1 定住性

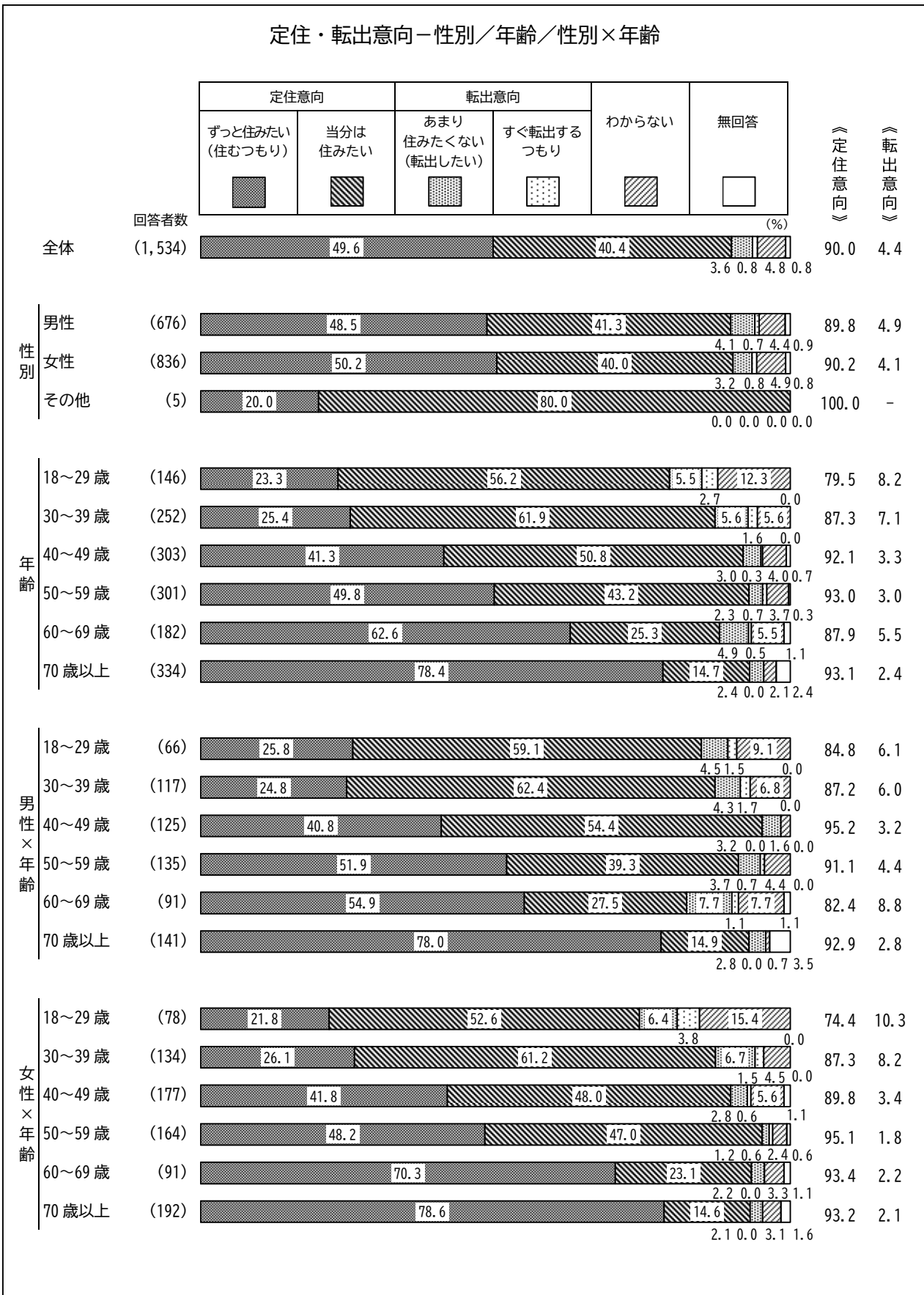
第4章 調査結果の分析〈1 定住性〉

定住・転出意向－性別／年齢／性別×年齢

性別で見ると、男性と女性で大きな差はみられない。

性別×年齢で見ると、「ずっと住みたい（住むつもり）」は男女ともおおむね高い年齢ほど割合が高く、男女とも70歳以上で8割近くとなっている。

第4章
調査結果の分析
1 定住性

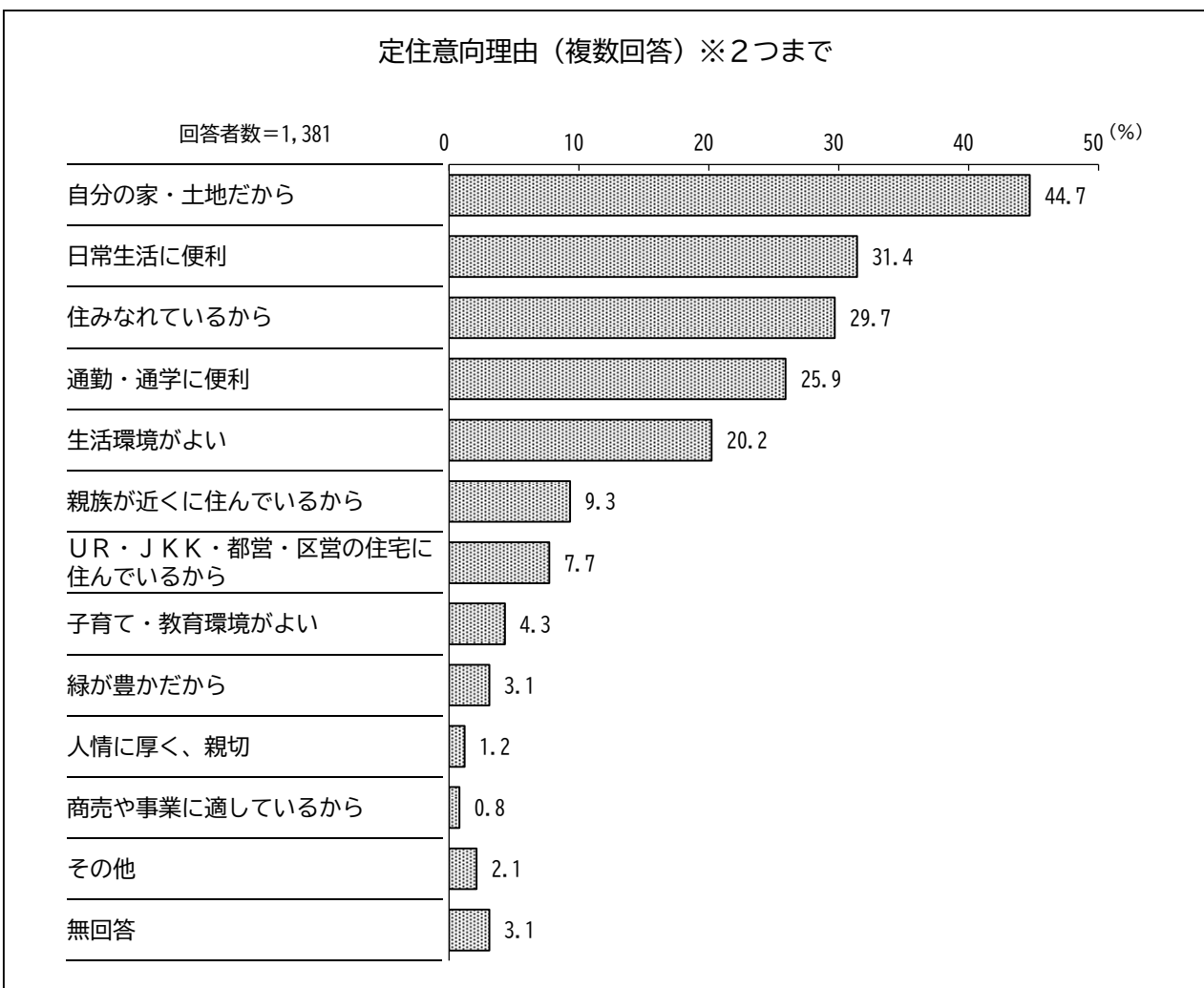


(3) 定住意向理由

◇「自分の家・土地だから」が4割台半ば

問2-1	(問2で、「1 ずっと住みたい(住むつもり)」か「2 当分は住みたい」とお答えの方に) あなたが、これからも江東区に住みたい理由は何ですか。次の中から2つまで選んでください。 (回答者数=1,381)				
1	自分の家・土地だから	44.7%	8	住みなれているから	29.7%
2	商売や事業に適しているから	0.8%	9	親族が近くに住んでいるから	9.3%
3	通勤・通学に便利	25.9%	10	緑が豊かだから	3.1%
4	生活環境がよい	20.2%	11	UR・JKK・都営・区営の住宅に住んでいるから	7.7%
5	子育て・教育環境がよい	4.3%	12	その他	2.1%
6	日常生活に便利	31.4%		無回答	3.1%
7	人情に厚く、親切	1.2%			

定住意向理由については、「自分の家・土地だから」(44.7%)が4割台半ばで最も多く、次いで「日常生活に便利」(31.4%)、「住みなれているから」(29.7%)と続いている。



第4章 調査結果の分析〈1 定住性〉

定住意向理由－地区

地区でみると、「自分の家・土地だから」はすべての地区で上位2位以内に入っている。「日常生活に便利」は南砂地区で4割を超え、亀戸地区で4割近くとなっている。「住みなれているから」は砂町地区で4割を超え、「通勤・通学に便利」は白河・小松橋地区、富岡・東陽地区で3割を超えている。

定住意向理由－地区（上位5項目）

(%)

	回答者数	1位	2位	3位	4位	5位
全体	1,381	自分の家・土地だから 44.7	日常生活に便利 31.4	住みなれているから 29.7	通勤・通学に便利 25.9	生活環境がよい 20.2
地区	白河・小松橋	自分の家・土地だから 48.5	通勤・通学に便利 32.0	日常生活に便利 29.9	住みなれているから 28.6	生活環境がよい 20.3
	富岡・東陽	自分の家・土地だから 50.0	日常生活に便利 32.2	通勤・通学に便利 31.3	生活環境がよい 23.1	住みなれているから 21.6
	豊洲	自分の家・土地だから 38.0	通勤・通学に便利 30.1	生活環境がよい 28.6	日常生活に便利／住みなれているから 25.0	
	亀戸	自分の家・土地だから 45.6	日常生活に便利 38.8	住みなれているから 30.6	通勤・通学に便利 19.4	生活環境がよい 18.1
	大島	自分の家・土地だから 49.7	日常生活に便利／住みなれているから 30.6		通勤・通学に便利 20.4	生活環境がよい 14.6
	砂町	住みなれているから 43.0	自分の家・土地だから 42.0	日常生活に便利 28.5	通勤・通学に便利 16.5	親族が近くに住んでいるから 15.0
	南砂	日常生活に便利 42.3	自分の家・土地だから 38.2	住みなれているから 29.3	通勤・通学に便利 28.5	生活環境がよい 19.5

定住意向理由－性別／年齢／性別×年齢

性別でみると、男性は「住みなれているから」と「通勤・通学に便利」が3割、女性は「日常生活に便利」が3割を超えている。

性別×年齢でみると、「自分の家・土地だから」は男女ともおおむね高い年齢ほど割合が高くなっている。「通勤・通学に便利」は男女とも39歳以下で第1位となっている。

定住意向理由－性別／年齢／性別×年齢（上位5項目）

		回答者数	1位	2位	3位	4位	5位
全体		1,381	自分の家・土地だから 44.7	日常生活に便利 31.4	住みなれているから 29.7	通勤・通学に便利 25.9	生活環境がよい 20.2
性別	男性	607	自分の家・土地だから 44.6	住みなれているから 30.1	通勤・通学に便利 30.0	日常生活に便利 29.3	生活環境がよい 20.9
	女性	754	自分の家・土地だから 45.0	日常生活に便利 33.0	住みなれているから 28.9	通勤・通学に便利 22.8	生活環境がよい 19.8
	その他	5	生活環境がよい 60.0	通勤・通学に便利 40.0	日常生活に便利／緑が豊かだから／UR・J K K・都営・区営の住宅に住んでいるから		20.0
年齢	18～29歳	116	通勤・通学に便利 53.4	日常生活に便利 27.6	住みなれているから 26.7	生活環境がよい 24.1	自分の家・土地だから 20.7
	30～39歳	220	通勤・通学に便利 42.3	日常生活に便利 28.2	自分の家・土地だから／生活環境がよい	27.7	住みなれているから 20.5
	40～49歳	279	自分の家・土地だから 44.4	通勤・通学に便利 28.0	日常生活に便利 26.9	住みなれているから 26.2	生活環境がよい 25.1
	50～59歳	280	自分の家・土地だから 48.6	住みなれているから 32.1	日常生活に便利 30.7	通勤・通学に便利 28.2	生活環境がよい 18.6
	60～69歳	160	自分の家・土地だから 63.8	日常生活に便利 36.3	住みなれているから 30.0	通勤・通学に便利／生活環境がよい	16.9
	70歳以上	311	自分の家・土地だから 52.1	日常生活に便利 37.0	住みなれているから 36.7	UR・J K K・都営・区営の住宅に住んでいるから 15.8	生活環境がよい 13.2
男性×年齢	18～29歳	56	通勤・通学に便利 48.2	生活環境がよい 30.4	日常生活に便利 26.8	住みなれているから 23.2	自分の家・土地だから 21.4
	30～39歳	102	通勤・通学に便利 52.0	自分の家・土地だから／日常生活に便利	32.4	生活環境がよい 22.5	住みなれているから 18.6
	40～49歳	119	自分の家・土地だから 42.9	通勤・通学に便利 31.9	住みなれているから 28.6	日常生活に便利 26.1	生活環境がよい 20.2
	50～59歳	123	自分の家・土地だから 47.2	通勤・通学に便利 33.3	住みなれているから 32.5	日常生活に便利 26.0	生活環境がよい 23.6
	60～69歳	75	自分の家・土地だから 60.0	日常生活に便利 36.0	住みなれているから 29.3	通勤・通学に便利／生活環境がよい	20.0
	70歳以上	131	自分の家・土地だから 54.2	住みなれているから 41.2	日常生活に便利 30.5	生活環境がよい／UR・J K K・都営・区営の住宅に住んでいるから	14.5
女性×年齢	18～29歳	58	通勤・通学に便利 56.9	住みなれているから 31.0	日常生活に便利 27.6	自分の家・土地だから 20.7	生活環境がよい 17.2
	30～39歳	117	通勤・通学に便利 34.2	生活環境がよい 31.6	日常生活に便利 24.8	自分の家・土地だから 23.9	住みなれているから 22.2
	40～49歳	159	自分の家・土地だから 45.9	生活環境がよい 28.3	日常生活に便利 27.7	通勤・通学に便利 25.2	住みなれているから 24.5
	50～59歳	156	自分の家・土地だから 50.0	日常生活に便利 34.6	住みなれているから 32.1	通勤・通学に便利 24.4	生活環境がよい 14.7
	60～69歳	85	自分の家・土地だから 67.1	日常生活に便利 36.5	住みなれているから 30.6	通勤・通学に便利／生活環境がよい	14.1
	70歳以上	179	自分の家・土地だから 50.8	日常生活に便利 41.9	住みなれているから 33.0	UR・J K K・都営・区営の住宅に住んでいるから 16.8	生活環境がよい 12.3

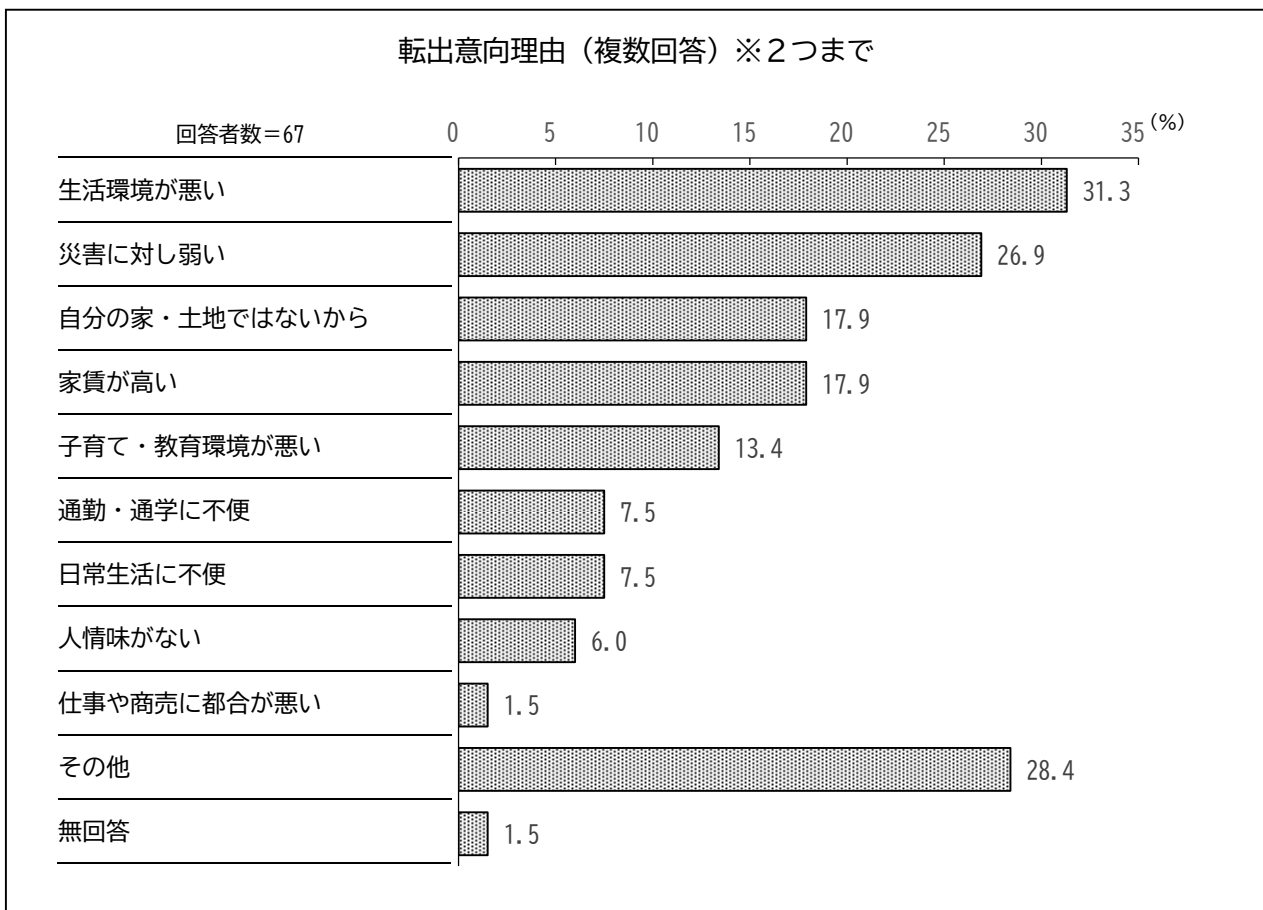
第4章
調査結果の分析
1 定住性

(4) 転出意向理由

◇「生活環境が悪い」が3割を超える

問2-2	(問2で、「3 あまり住みたくない(転出したい)」か「4 すぐ転出するつもり」とお答えの方に) あなたが、江東区に住みたくない理由は何ですか。 次の中から <u>2つ</u> まで選んでください。(回答者数=67)				
1	自分の家・土地ではないから	17.9%	6	日常生活に不便	7.5%
2	仕事や商売に都合が悪い	1.5%	7	人情味がない	6.0%
3	通勤・通学に不便	7.5%	8	災害に対し弱い	26.9%
4	生活環境が悪い	31.3%	9	家賃が高い	17.9%
5	子育て・教育環境が悪い	13.4%	10	その他	28.4%
				無回答	1.5%

転出意向理由としては、「生活環境が悪い」(31.3%)が3割を超えて最も多く、次いで「災害に対し弱い」(26.9%)、「自分の家・土地ではないから」(17.9%)、「家賃が高い」(17.9%)と続いている。



2 防災対策

-
- (1) 震災時の不安
 - (2) 大地震の際の防災対策への要望
 - (3) 大規模水害の際の防災対策への要望
 - (4) 家庭内で準備している防災用品・用具
 - (5) 在宅避難の備え
-

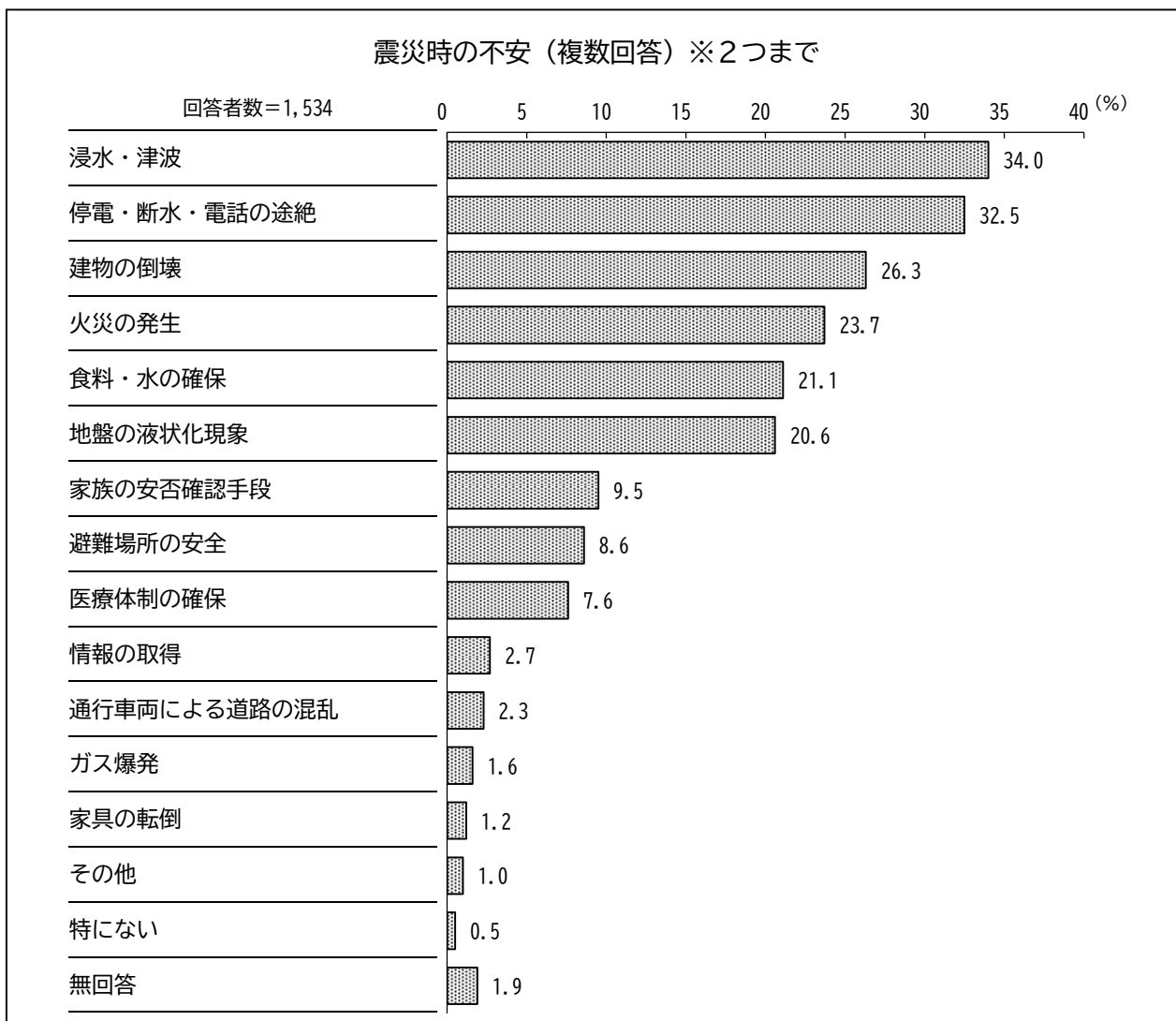
2 防災対策

(1) 震災時の不安

◇「浸水・津波」が3割台半ば

問3	今後、東京に大地震が発生した場合に、あなたが特に不安だと思うことは何ですか。 次の中から2つまで選んでください。（回答者数=1,534）				
1	火災の発生	23.7%	9	避難場所の安全	8.6%
2	ガス爆発	1.6%	10	家族の安否確認手段	9.5%
3	浸水・津波	34.0%	11	食料・水の確保	21.1%
4	地盤の液状化現象	20.6%	12	医療体制の確保	7.6%
5	建物の倒壊	26.3%	13	家具の転倒	1.2%
6	通行車両による道路の混乱	2.3%	14	その他	1.0%
7	停電・断水・電話の途絶	32.5%	15	特にない	0.5%
8	情報の取得	2.7%		無回答	1.9%

大地震が起きたときに特に不安だと思うことを聞いたところ、「浸水・津波」（34.0%）が3割台半ばで最も多く、次いで「停電・断水・電話の途絶」（32.5%）、「建物の倒壊」（26.3%）と続いている。



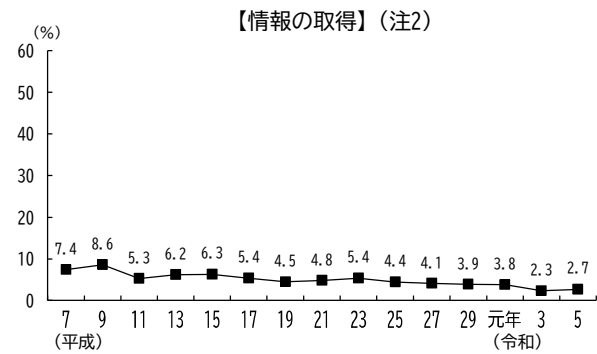
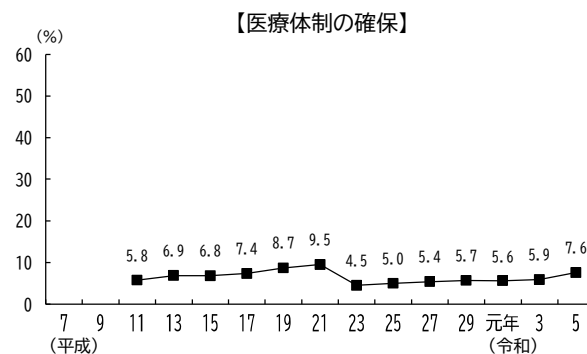
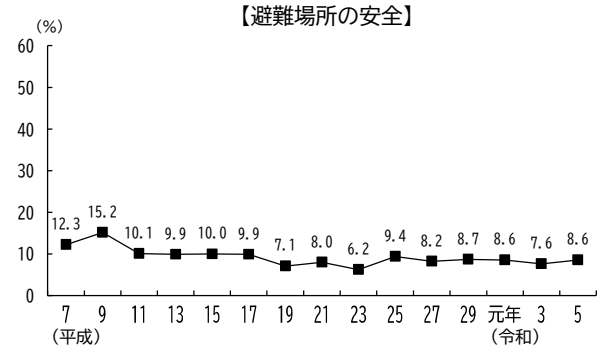
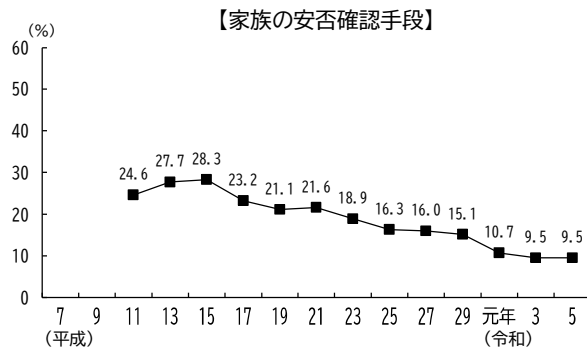
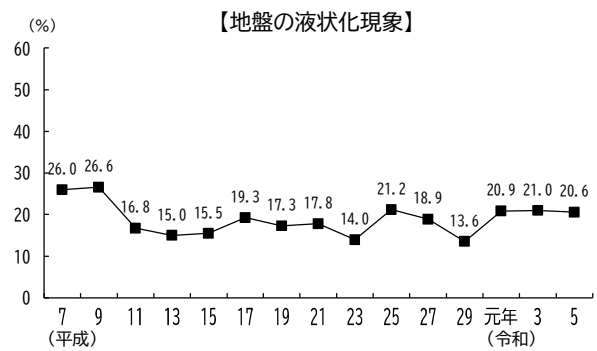
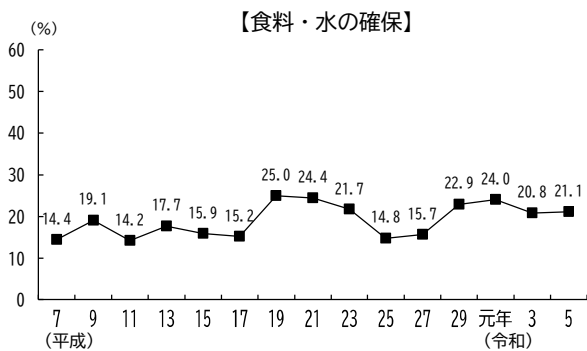
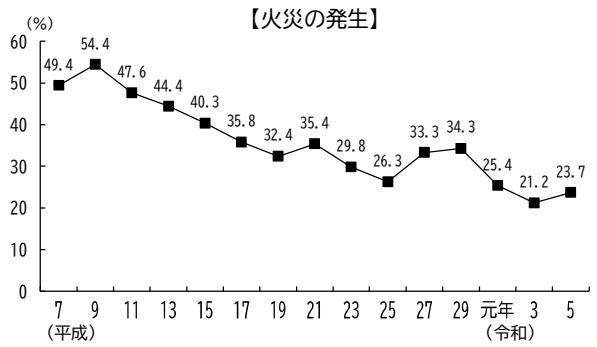
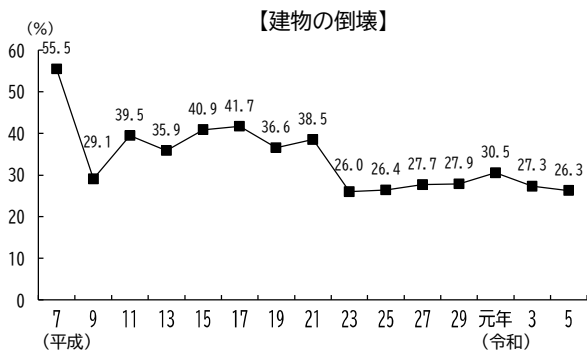
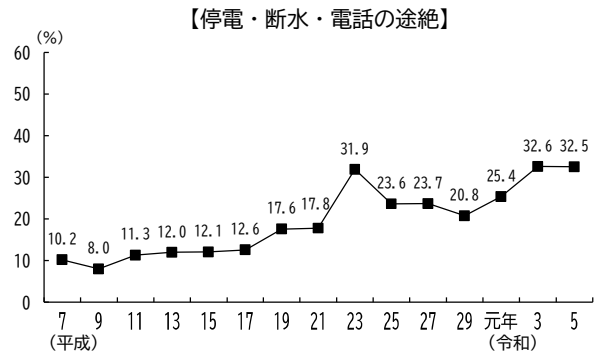
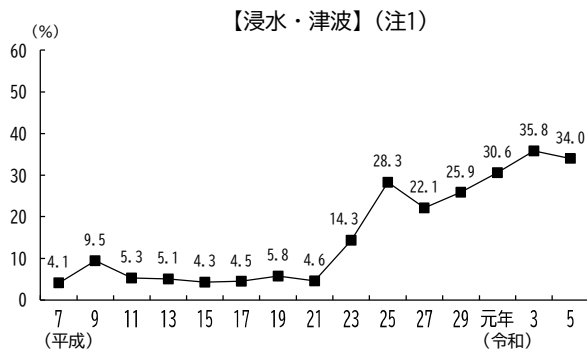
第4章 調査結果の分析〈2 防災対策〉

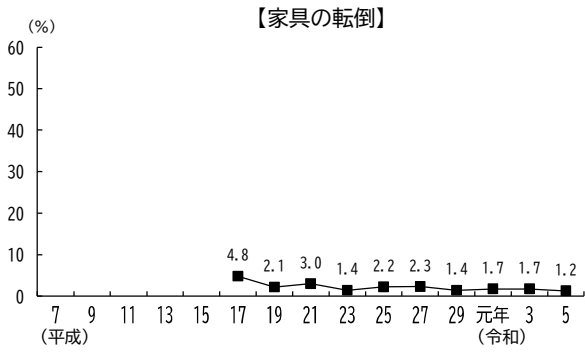
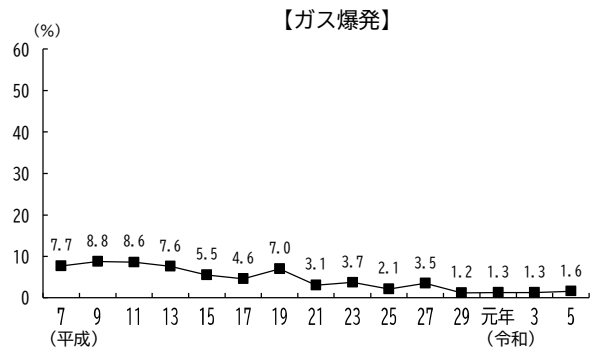
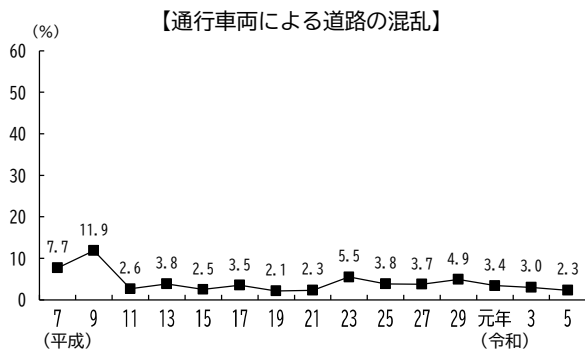
震災時の不安—時系列比較

時系列の変化をみると、前回調査と比べて大きな差はみられず、「浸水・津波」は令和元年以降3割台、「停電・断水・電話の途絶」は前回調査に引き続き3割台となっている。

第4章
調査結果の分析
2 防災対策

震災時の不安—時系列比較





(注1) 平成21年までは「浸水」
 (注2) 平成21年までは「情報の提供」

第4章 調査結果の分析〈2 防災対策〉

震災時の不安－性別／年齢／性別×年齢

性別でみると、「浸水・津波」は男性の方が女性より8ポイント高くなっている。また、男性は「食料・水の確保」が第3位となっている。

性別×年齢でみると、「浸水・津波」は男性の59歳以下、女性の49歳以下で第1位、「停電・断水・電話の途絶」は男性の60歳以上、女性の50歳以上で第1位となっている。「建物の倒壊」は女性の60歳以上で3割台半ばとなっている。

震災時の不安－性別／年齢／性別×年齢（上位5項目）

(%)

	回答者数	1位	2位	3位	4位	5位
全体	1,534	浸水・津波 34.0	停電・断水・電話の途絶 32.5	建物の倒壊 26.3	火災の発生 23.7	食料・水の確保 21.1
性別	男性	浸水・津波 38.5	停電・断水・電話の途絶 30.3	食料・水の確保 24.4	建物の倒壊 24.1	火災の発生 23.1
	女性	停電・断水・電話の途絶 34.7	浸水・津波 30.3	建物の倒壊 28.1	火災の発生 24.3	地盤の液状化現象 19.3
	その他	浸水・津波 80.0	地盤の液状化現象／建物の倒壊／通行車両による道路の混乱／避難場所の安全／食料・水の確保／家具の転倒			
年齢	18～29歳	浸水・津波 50.7	地盤の液状化現象 28.1	停電・断水・電話の途絶 27.4	建物の倒壊 21.9	食料・水の確保 21.2
	30～39歳	浸水・津波 38.9	停電・断水・電話の途絶 32.5	地盤の液状化現象 29.0	建物の倒壊／食料・水の確保 23.4	
	40～49歳	浸水・津波 39.9	停電・断水・電話の途絶 27.4	地盤の液状化現象 25.1	建物の倒壊 23.4	火災の発生 22.1
	50～59歳	浸水・津波 33.9	停電・断水・電話の途絶 33.2	建物の倒壊 25.6	火災の発生 25.2	食料・水の確保 23.3
	60～69歳	停電・断水・電話の途絶 37.9	火災の発生 30.8	建物の倒壊 29.1	浸水・津波 27.5	食料・水の確保 20.3
	70歳以上	停電・断水・電話の途絶 36.2	建物の倒壊 32.0	火災の発生 30.2	浸水・津波 21.9	食料・水の確保 18.0
男性×年齢	18～29歳	浸水・津波 56.1	停電・断水・電話の途絶 28.8	地盤の液状化現象 25.8	建物の倒壊 21.2	食料・水の確保 19.7
	30～39歳	浸水・津波 39.3	地盤の液状化現象／停電・断水・電話の途絶 33.3		建物の倒壊／食料・水の確保 23.1	
	40～49歳	浸水・津波 48.8	食料・水の確保 27.2	地盤の液状化現象 26.4	建物の倒壊 24.0	停電・断水・電話の途絶 22.4
	50～59歳	浸水・津波 34.1	食料・水の確保 32.6	火災の発生 28.1	停電・断水・電話の途絶 27.4	建物の倒壊 24.4
	60～69歳	停電・断水・電話の途絶 37.4	浸水・津波 34.1	火災の発生 30.8	建物の倒壊 22.0	食料・水の確保 20.9
	70歳以上	停電・断水・電話の途絶 34.0	火災の発生 29.1	浸水・津波／建物の倒壊 27.7		食料・水の確保 19.1
女性×年齢	18～29歳	浸水・津波 44.9	地盤の液状化現象 30.8	停電・断水・電話の途絶 26.9	建物の倒壊／食料・水の確保 23.1	
	30～39歳	浸水・津波 38.1	停電・断水・電話の途絶 32.1	地盤の液状化現象 24.6	建物の倒壊／食料・水の確保 23.9	
	40～49歳	浸水・津波 33.3	停電・断水・電話の途絶 31.1	地盤の液状化現象 24.3	火災の発生 23.7	建物の倒壊 23.2
	50～59歳	停電・断水・電話の途絶 38.4	浸水・津波 33.5	建物の倒壊 26.2	火災の発生 22.6	地盤の液状化現象 19.5
	60～69歳	停電・断水・電話の途絶 38.5	建物の倒壊 36.3	火災の発生 30.8	浸水・津波 20.9	食料・水の確保 19.8
	70歳以上	停電・断水・電話の途絶 38.0	建物の倒壊 35.4	火災の発生 31.3	浸水・津波 17.7	食料・水の確保 17.2

震災時の不安－住居形態

住居形態で見ると、「浸水・津波」は持ち家一戸建（自己所有地）、持ち家一戸建（借地）、賃貸集合住宅（民間）で第1位となっている。「停電・断水・電話の途絶」は持ち家集合住宅、賃貸集合住宅（都営等）で第1位、「火災の発生」は寮・社宅で第1位、持ち家一戸建（自己所有地）、持ち家一戸建（借地）で第2位となっている。

震災時の不安－住居形態（上位5項目）

(%)

		回答者数	1位	2位	3位	4位	5位		
全体		1,534	浸水・津波 34.0	停電・断水・電話の途絶 32.5	建物の倒壊 26.3	火災の発生 23.7	食料・水の確保 21.1		
住居形態	持ち家	自己所有地	201	浸水・津波 43.3	火災の発生 32.3	建物の倒壊 29.9	停電・断水・電話の途絶 18.9	食料・水の確保 15.9	
		借地	59	浸水・津波 42.4	火災の発生 40.7	建物の倒壊 27.1	停電・断水・電話の途絶／避難場所の安全 18.6		
		集合住宅	683	停電・断水・電話の途絶 37.5	浸水・津波 31.0	建物の倒壊 24.6	地盤の液状化現象 24.5	食料・水の確保 21.7	
	賃貸	一戸建て	11	浸水・津波／停電・断水・電話の途絶 36.4		火災の発生／建物の倒壊 18.2		地盤の液状化現象／情報の取得／避難場所の安全／医療体制の確保 9.1	
		集合住宅	民間	286	浸水・津波 40.9	停電・断水・電話の途絶 30.1	建物の倒壊 25.9	食料・水の確保 25.5	火災の発生 21.7
			都営等	213	停電・断水・電話の途絶 38.5	建物の倒壊 30.5	浸水・津波 23.5	火災の発生 21.6	食料・水の確保 21.1
		寮・社宅	46	火災の発生 34.8	浸水・津波 32.6	食料・水の確保 26.1	停電・断水・電話の途絶 21.7	地盤の液状化現象 19.6	
		間借り・住み込み	6	浸水・津波／地盤の液状化現象／建物の倒壊／避難場所の安全 33.3				火災の発生／停電・断水・電話の途絶／家族の安否確認手段／医療体制の確保 16.7	
		その他	11	浸水・津波／停電・断水・電話の途絶 45.5		建物の倒壊 27.3	食料・水の確保 18.2	火災の発生／地盤の液状化現象／通行車両による道路の混乱／家具の転倒 9.1	

第4章 調査結果の分析
2 防災対策

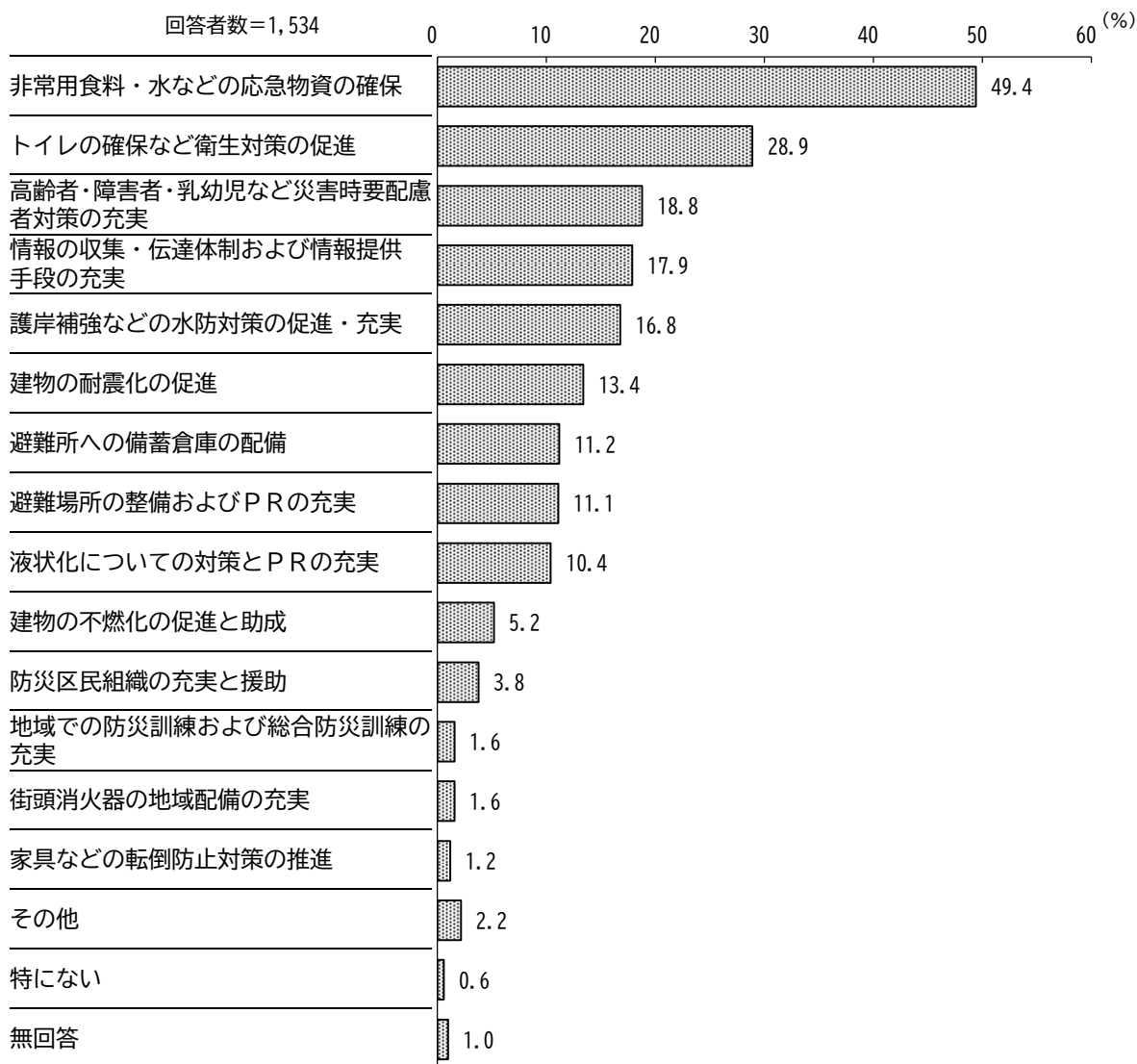
(2) 大地震の際の防災対策への要望

◇「非常用食料・水などの応急物資の確保」がほぼ5割

問4	あなたが、大地震の際の防災対策として、江東区に特に力を入れてほしいことは何ですか。 次の中から2つまで選んでください。(回答者数=1,534)	
1	非常用食料・水などの応急物資の確保	49.4%
2	建物の耐震化の促進	13.4%
3	家具などの転倒防止対策の推進	1.2%
4	避難所への備蓄倉庫の配備	11.2%
5	防災区民組織の充実と援助	3.8%
6	情報の収集・伝達体制および情報提供手段の充実	17.9%
7	建物の不燃化の促進と助成	5.2%
8	地域での防災訓練および総合防災訓練の充実	1.6%
9	街頭消火器の地域配備の充実	1.6%
10	液状化についての対策とPRの充実	10.4%
11	護岸補強などの水防対策の促進・充実	16.8%
12	避難場所の整備およびPRの充実	11.1%
13	高齢者・障害者・乳幼児など災害時要配慮者対策の充実	18.8%
14	トイレの確保など衛生対策の促進	28.9%
15	その他	2.2%
16	特になし	0.6%
	無回答	1.0%

大地震の際の防災対策として江東区に特に力を入れてほしいことは何か聞いたところ、「非常用食料・水などの応急物資の確保」(49.4%)がほぼ5割で最も多く、次いで「トイレの確保など衛生対策の促進」(28.9%)、「高齢者・障害者・乳幼児など災害時要配慮者対策の充実」(18.8%)と続いている。

大地震の際の防災対策への要望（複数回答）※2つまで



第4章
調査結果の分析
2 防災対策

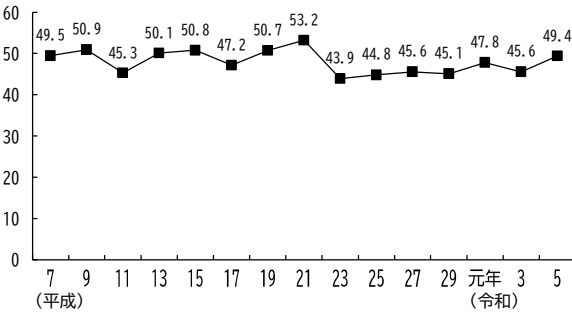
第4章 調査結果の分析〈2 防災対策〉

大地震の際の防災対策への要望－時系列比較

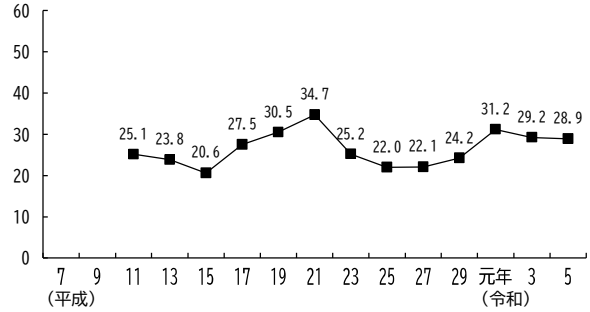
時系列の変化をみると、「高齢者・障害者・乳幼児など災害時要配慮者対策の充実」は前回調査より6ポイント高くなっている。「非常用食料・水などの応急物資の確保」は前回調査より4ポイント高く、「避難所への備蓄倉庫の配備」は前回調査より4ポイント低くなっている。

大地震の際の防災対策への要望－時系列比較

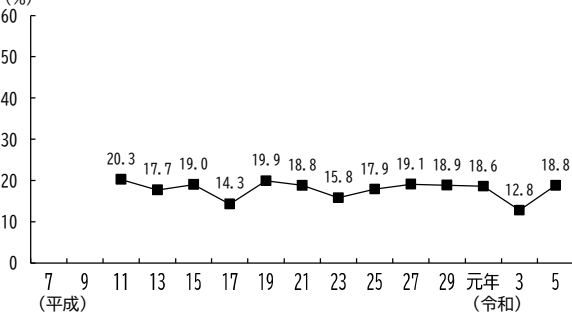
【非常用食料・水などの応急物資の確保】



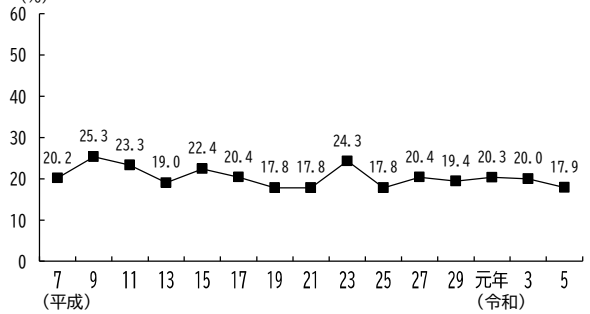
【トイレの確保など衛生対策の促進】



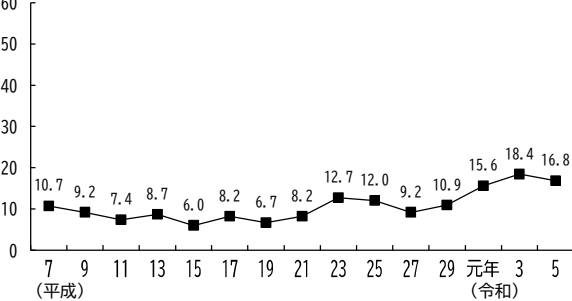
【高齢者・障害者・乳幼児など災害時要配慮者対策の充実】



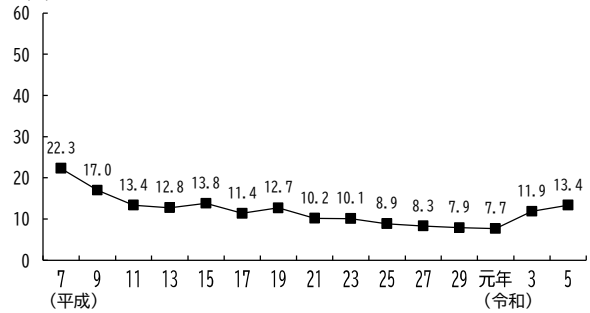
【情報の収集・伝達体制および情報提供手段の充実】



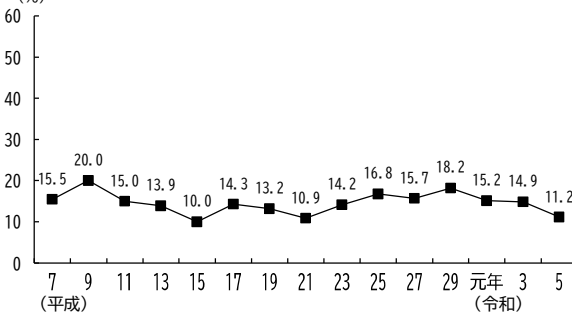
【護岸補強などの水防対策の促進・充実】



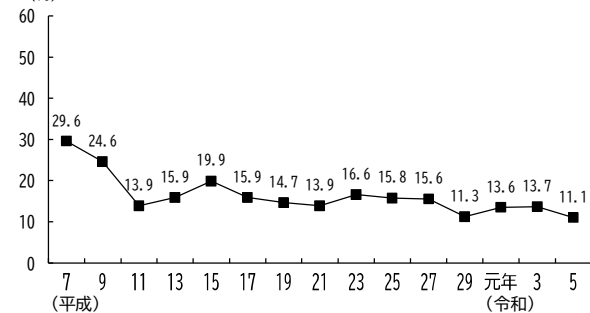
【建物の耐震化の促進】(注)



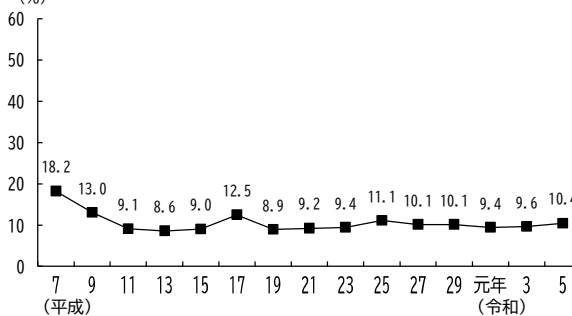
【避難所への備蓄倉庫の配備】



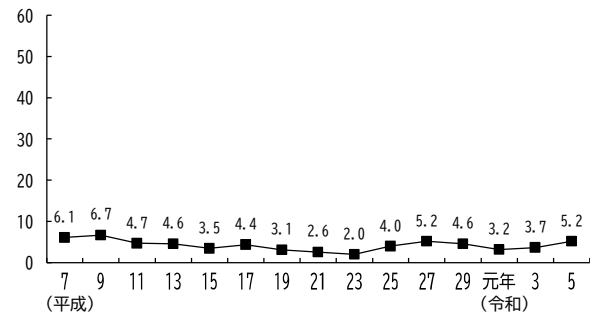
【避難場所の整備およびPRの充実】

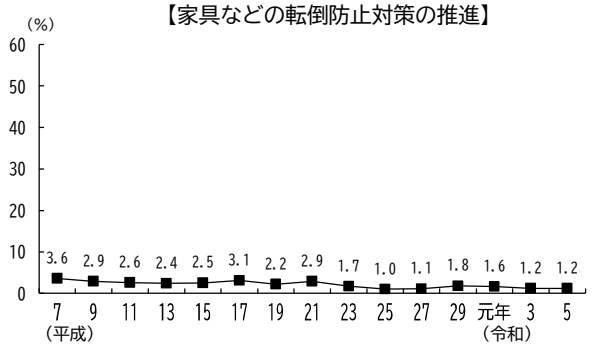
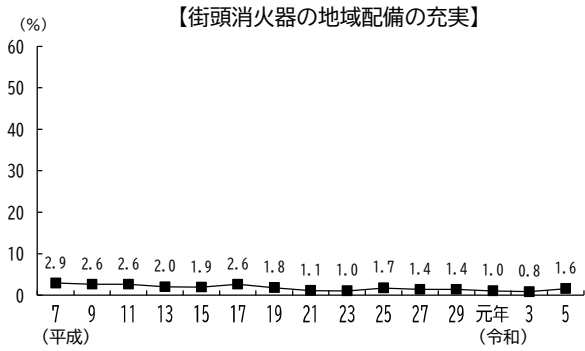
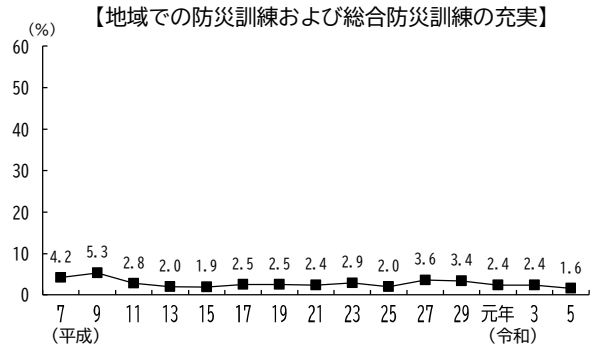
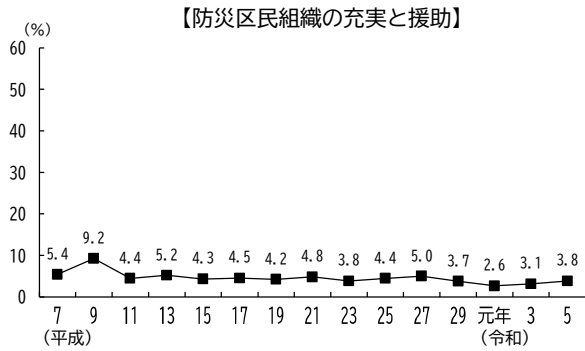


【液状化についての対策とPRの充実】



【建物の不燃化の促進と助成】





(注) 令和元年までは「居住の耐震診断」

第4章 調査結果の分析〈2 防災対策〉

大地震の際の防災対策への要望－性別／年齢／性別×年齢

性別でみると、第1位の「非常用食料・水などの応急物資の確保」は男性の方が女性より5ポイント高く、第2位の「トイレの確保など衛生対策の促進」は女性の方が男性より8ポイント高くなっている。

性別×年齢でみると、女性70歳以上を除くすべての性別×年齢で「非常用食料・水などの応急物資の確保」が4割以上で第1位となっている。女性70歳以上は「高齢者・障害者・乳幼児など災害時要配慮者対策の充実」が第1位でほぼ4割となっている。

大地震の際の防災対策への要望－性別／年齢／性別×年齢（上位5項目）

(%)

		回答者数	1位	2位	3位	4位	5位
全体		1,534	応急物資の確保 49.4	衛生対策の促進 28.9	要配慮者対策の充実 18.8	情報の収集等の充実 17.9	水防対策の促進・充実 16.8
性別	男性	676	応急物資の確保 52.1	衛生対策の促進 24.3	水防対策の促進・充実 20.9	要配慮者対策の充実 17.8	情報の収集等の充実 14.3
	女性	836	応急物資の確保 47.4	衛生対策の促進 32.3	情報の収集等の充実 20.9	要配慮者対策の充実 19.4	建物の耐震化の促進 15.3
	その他	5	応急物資の確保 60.0	水防対策の促進・充実／衛生対策の促進		建物の耐震化の促進／避難所の備蓄倉庫配備／要配慮者対策の充実	20.0
年齢	18～29歳	146	応急物資の確保 50.0	建物の耐震化の促進 26.7	衛生対策の促進 24.7	情報の収集等の充実 19.9	水防対策の促進・充実 19.2
	30～39歳	252	応急物資の確保 52.8	衛生対策の促進 27.0	水防対策の促進・充実 19.0	建物の耐震化の促進 17.9	液状化対策とPRの充実 13.5
	40～49歳	303	応急物資の確保 47.5	衛生対策の促進 32.3	情報の収集等の充実 19.5	水防対策の促進・充実 17.8	避難所の備蓄倉庫配備 13.9
	50～59歳	301	応急物資の確保 52.2	衛生対策の促進 30.2	情報の収集等の充実 18.9	水防対策の促進・充実 18.3	避難場所の整備・PR 15.0
	60～69歳	182	応急物資の確保 51.6	衛生対策の促進 27.5	要配慮者対策の充実 24.2	情報の収集等の充実 20.9	水防対策の促進・充実 16.5
	70歳以上	334	応急物資の確保 44.6	要配慮者対策の充実 39.5	衛生対策の促進 28.1	情報の収集等の充実 17.4	水防対策の促進・充実 12.0
男性×年齢	18～29歳	66	応急物資の確保 43.9	建物の耐震化の促進 24.2	情報の収集等の充実／水防対策の促進・充実		衛生対策の促進 22.7 18.2
	30～39歳	117	応急物資の確保 51.3	水防対策の促進・充実 24.8	衛生対策の促進 23.9	液状化対策とPRの充実 17.9	避難所の備蓄倉庫配備 17.1
	40～49歳	125	応急物資の確保 55.2	衛生対策の促進 28.0	水防対策の促進・充実 22.4	情報の収集等の充実 14.4	避難所の備蓄倉庫配備／液状化対策とPRの充実 13.6
	50～59歳	135	応急物資の確保 51.9	水防対策の促進・充実 20.7	衛生対策の促進 19.3	情報の収集等の充実 18.5	避難場所の整備・PR 17.8
	60～69歳	91	応急物資の確保 52.7	衛生対策の促進 24.2	要配慮者対策の充実 23.1	水防対策の促進・充実 20.9	情報の収集等の充実 15.4
	70歳以上	141	応急物資の確保 53.2	要配慮者対策の充実 38.3	衛生対策の促進 29.1	水防対策の促進・充実 15.6	情報の収集等の充実 11.3
女性×年齢	18～29歳	78	応急物資の確保 55.1	衛生対策の促進 29.5	建物の耐震化の促進 28.2	情報の収集等の充実 17.9	水防対策の促進・充実 15.4
	30～39歳	134	応急物資の確保 53.7	衛生対策の促進 29.9	建物の耐震化の促進 21.6	情報の収集等の充実 16.4	要配慮者対策の充実 14.9
	40～49歳	177	応急物資の確保 41.8	衛生対策の促進 35.0	情報の収集等の充実 23.2	建物の耐震化の促進 16.4	水防対策の促進・充実 14.7
	50～59歳	164	応急物資の確保 53.0	衛生対策の促進 39.0	情報の収集等の充実 19.5	水防対策の促進・充実 16.5	液状化対策とPRの充実 13.4
	60～69歳	91	応急物資の確保 50.5	衛生対策の促進 30.8	情報の収集等の充実 26.4	要配慮者対策の充実 25.3	避難場所の整備・PR 13.2
	70歳以上	192	要配慮者対策の充実 40.6	応急物資の確保 38.5	衛生対策の促進 27.6	情報の収集等の充実 21.9	建物の耐震化の促進 13.5

第4章
調査結果の分析
2 防災対策

(3) 大規模水害の際の防災対策への要望

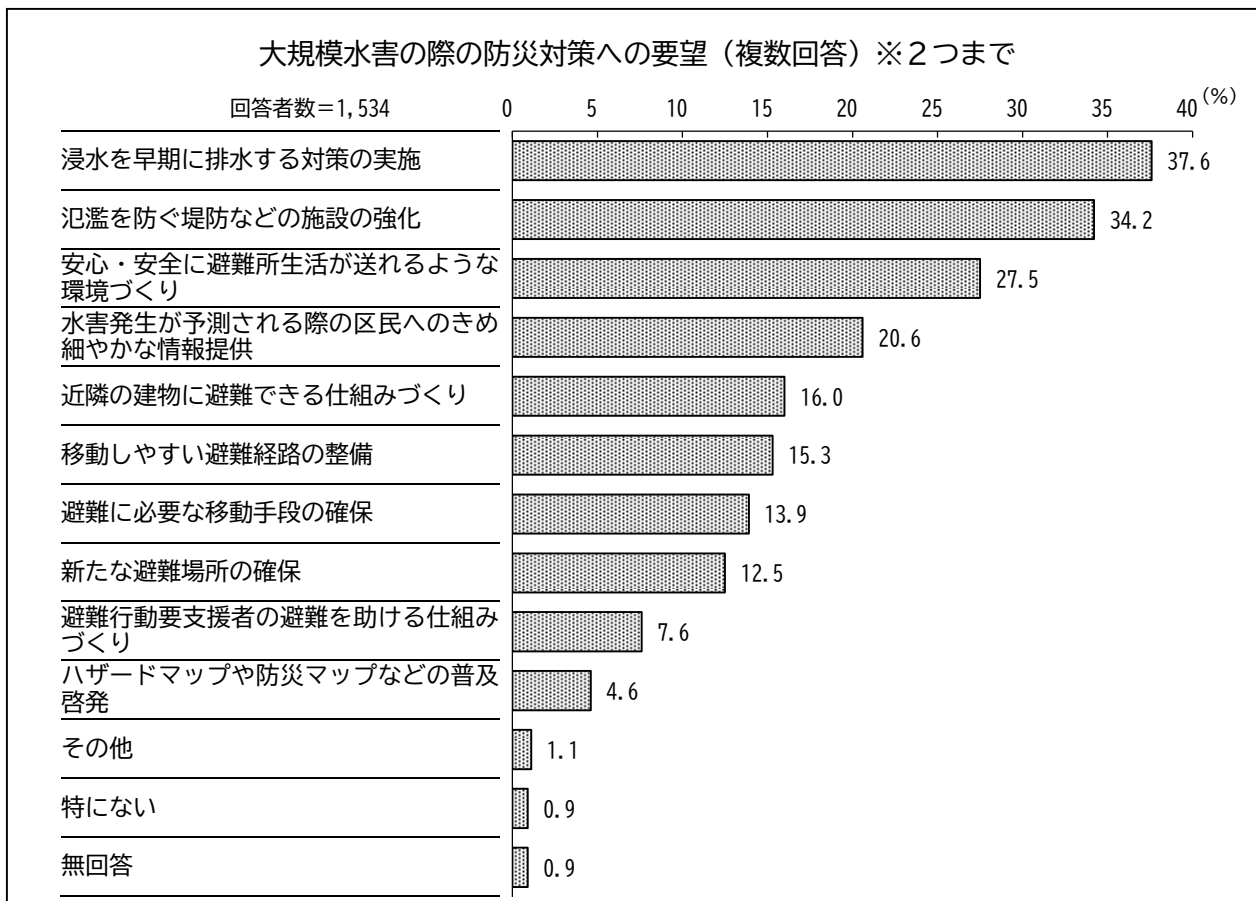
新規

◇「浸水を早期に排水する対策の実施」が4割近く

問5	あなたが、洪水・高潮・内水氾濫などの大規模水害の際の防災対策として、江東区に特に力を入れてほしいことは何ですか。次の中から2つまで選んでください。(回答者数=1,534)	
1	新たな避難場所の確保	12.5%
2	移動しやすい避難経路の整備	15.3%
3	避難に必要な移動手段の確保	13.9%
4	氾濫を防ぐ堤防などの施設の強化	34.2%
5	浸水を早期に排水する対策の実施	37.6%
6	ハザードマップや防災マップなどの普及啓発	4.6%
7	避難行動要支援者の避難を助ける仕組みづくり	7.6%
8	近隣の建物に避難できる仕組みづくり	16.0%
9	安心・安全に避難所生活が送れるような環境づくり	27.5%
10	水害発生が予測される際の区民へのきめ細やかな情報提供	20.6%
11	その他	1.1%
12	特になし	0.9%
	無回答	0.9%

第4章
調査結果の分析
2 防災対策

洪水・高潮・内水氾濫などの大規模水害の際の防災対策として特に力を入れてほしいことは何か聞いたところ、「浸水を早期に排水する対策の実施」（37.6%）が4割近くで最も多く、次いで「氾濫を防ぐ堤防などの施設の強化」（34.2%）、「安心・安全に避難所生活が送れるような環境づくり」（27.5%）と続いている。



第4章 調査結果の分析〈2 防災対策〉

大規模水害の際の防災対策への要望－性別／年齢／性別×年齢

性別でみると、「安心・安全に避難所生活が送れるような環境づくり」は女性の方が男性より6ポイント高くなっている。

性別×年齢でみると、男女とも69歳以下は「浸水を早期に排水する対策の実施」と「氾濫を防ぐ堤防などの施設の強化」が上位2位を占めており、70歳以上は「安心・安全に避難所生活が送れるような環境づくり」が第1位となっている。

大規模水害の際の防災対策への要望－性別／年齢／性別×年齢（上位5項目）

(%)

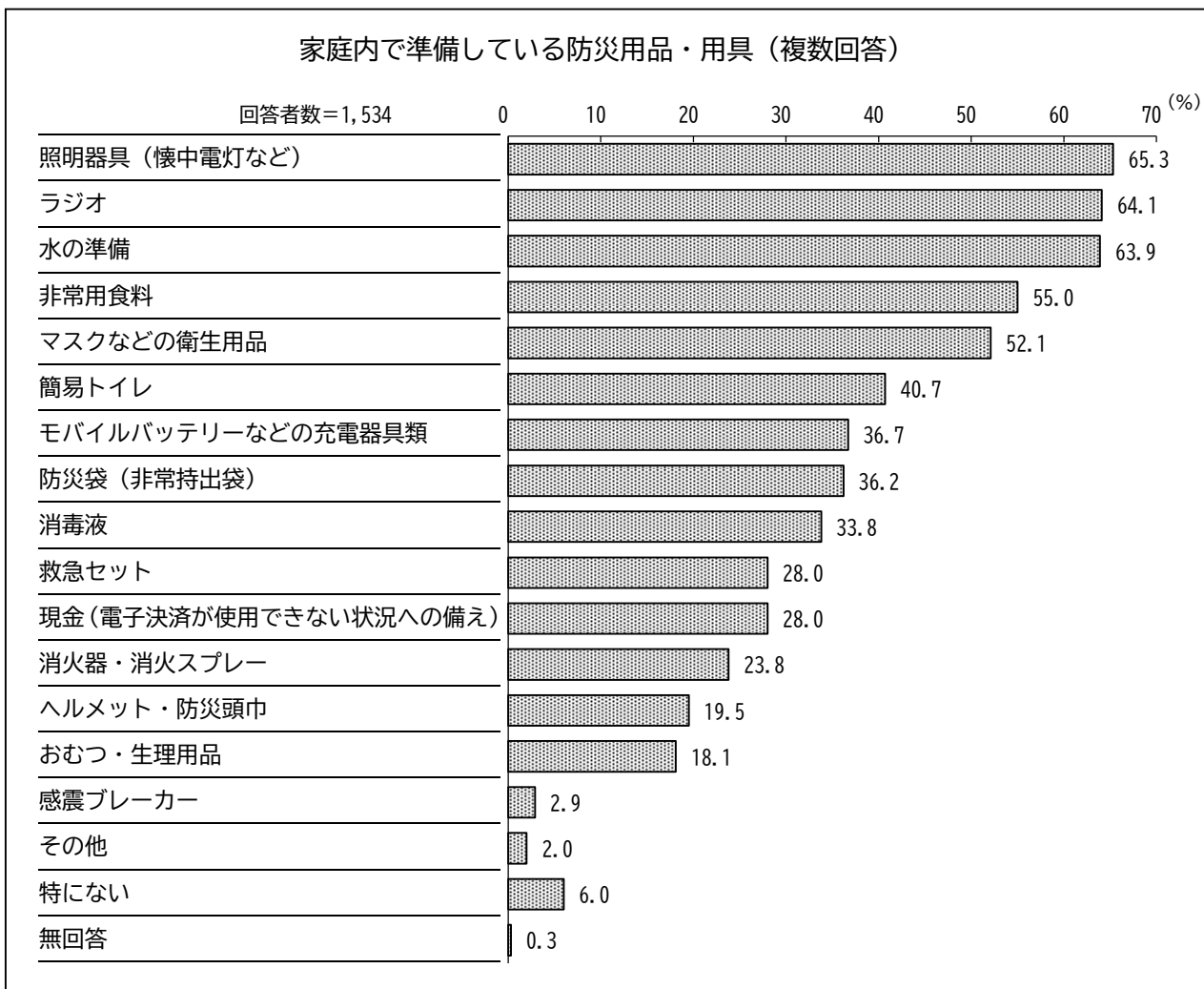
	回答者数	1位	2位	3位	4位	5位
全体	1,534	浸水の早期排水対策の実施 37.6	氾濫を防ぐ堤防等の施設強化 34.2	安心・安全な避難所生活の環境づくり 27.5	水害発生予測の区民への情報提供 20.6	近隣建物への避難の仕組みづくり 16.0
性別	男性	浸水の早期排水対策の実施 38.9	氾濫を防ぐ堤防等の施設強化 35.9	安心・安全な避難所生活の環境づくり 24.4	水害発生予測の区民への情報提供 17.6	新たな避難場所の確保 16.4
	女性	浸水の早期排水対策の実施 36.6	氾濫を防ぐ堤防等の施設強化 32.9	安心・安全な避難所生活の環境づくり 30.1	水害発生予測の区民への情報提供 23.0	近隣建物への避難の仕組みづくり 19.5
	その他	浸水の早期排水対策の実施 60.0	氾濫を防ぐ堤防等の施設強化／水害発生予測の区民への情報提供 40.0	避難に必要な移動手段の確保／近隣建物への避難の仕組みづくり／安心・安全な避難所生活の環境づくり 20.0		
年齢	18～29歳	浸水の早期排水対策の実施 43.2	氾濫を防ぐ堤防等の施設強化 40.4	安心・安全な避難所生活の環境づくり 24.7	移動しやすい避難経路の整備 19.2	避難に必要な移動手段の確保 14.4
	30～39歳	浸水の早期排水対策の実施 43.7	氾濫を防ぐ堤防等の施設強化 39.7	安心・安全な避難所生活の環境づくり 21.4	移動しやすい避難経路の整備 18.3	水害発生予測の区民への情報提供 16.7
	40～49歳	浸水の早期排水対策の実施 43.6	氾濫を防ぐ堤防等の施設強化 40.3	安心・安全な避難所生活の環境づくり 22.8	水害発生予測の区民への情報提供 18.8	近隣建物への避難の仕組みづくり 18.2
	50～59歳	浸水の早期排水対策の実施 38.2	氾濫を防ぐ堤防等の施設強化 35.9	安心・安全な避難所生活の環境づくり 22.9	水害発生予測の区民への情報提供 21.6	移動しやすい避難経路の整備 17.3
	60～69歳	浸水の早期排水対策の実施 37.4	氾濫を防ぐ堤防等の施設強化 33.0	安心・安全な避難所生活の環境づくり 29.7	水害発生予測の区民への情報提供 25.3	移動しやすい避難経路の整備 18.7
	70歳以上	安心・安全な避難所生活の環境づくり 40.7	浸水の早期排水対策の実施 25.1	水害発生予測の区民への情報提供 24.9	氾濫を防ぐ堤防等の施設強化 21.3	近隣建物への避難の仕組みづくり 18.6
男性×年齢	18～29歳	浸水の早期排水対策の実施 45.5	氾濫を防ぐ堤防等の施設強化 39.4	安心・安全な避難所生活の環境づくり 22.7	移動しやすい避難経路の整備 19.7	新たな避難場所の確保 18.2
	30～39歳	浸水の早期排水対策の実施 43.6	氾濫を防ぐ堤防等の施設強化 39.3	移動しやすい避難経路の整備 18.8	新たな避難場所の確保／安心・安全な避難所生活の環境づくり 14.5	
	40～49歳	氾濫を防ぐ堤防等の施設強化 46.4	浸水の早期排水対策の実施 44.0	安心・安全な避難所生活の環境づくり 20.0	新たな避難場所の確保／移動しやすい避難経路の整備 18.4	
	50～59歳	氾濫を防ぐ堤防等の施設強化／浸水の早期排水対策の実施 36.3	安心・安全な避難所生活の環境づくり 22.2	水害発生予測の区民への情報提供 20.7	移動しやすい避難経路の整備 20.0	
	60～69歳	浸水の早期排水対策の実施 41.8	氾濫を防ぐ堤防等の施設強化 34.1	安心・安全な避難所生活の環境づくり 29.7	水害発生予測の区民への情報提供 23.1	移動しやすい避難経路の整備 18.7
	70歳以上	安心・安全な避難所生活の環境づくり 36.2	浸水の早期排水対策の実施 27.7	水害発生予測の区民への情報提供 23.4	氾濫を防ぐ堤防等の施設強化 22.7	避難に必要な移動手段の確保 18.4
女性×年齢	18～29歳	氾濫を防ぐ堤防等の施設強化／浸水の早期排水対策の実施 41.0	安心・安全な避難所生活の環境づくり 25.6	移動しやすい避難経路の整備 19.2	避難に必要な移動手段の確保 17.9	
	30～39歳	浸水の早期排水対策の実施 43.3	氾濫を防ぐ堤防等の施設強化 39.6	安心・安全な避難所生活の環境づくり 27.6	水害発生予測の区民への情報提供 21.6	移動しやすい避難経路の整備 17.9
	40～49歳	浸水の早期排水対策の実施 42.9	氾濫を防ぐ堤防等の施設強化 36.2	安心・安全な避難所生活の環境づくり 24.9	近隣建物への避難の仕組みづくり 24.3	水害発生予測の区民への情報提供 22.6
	50～59歳	浸水の早期排水対策の実施 39.6	氾濫を防ぐ堤防等の施設強化 35.4	安心・安全な避難所生活の環境づくり 23.8	近隣建物への避難の仕組みづくり／水害発生予測の区民への情報提供 22.0	
	60～69歳	浸水の早期排水対策の実施 33.0	氾濫を防ぐ堤防等の施設強化 31.9	安心・安全な避難所生活の環境づくり 29.7	水害発生予測の区民への情報提供 27.5	避難に必要な移動手段の確保 20.9
	70歳以上	安心・安全な避難所生活の環境づくり 44.3	水害発生予測の区民への情報提供 26.0	浸水の早期排水対策の実施 23.4	氾濫を防ぐ堤防等の施設強化／近隣建物への避難の仕組みづくり 20.3	

(4) 家庭内で準備している防災用品・用具

◇「照明器具（懐中電灯など）」と「ラジオ」が6割台半ば

問6	あなたのご家庭で、災害に備えて現在準備している防災用品および用具は何ですか。 次の中からすべて選んでください。(回答者数=1,534)				
1	非常用食料	55.0%	10	おむつ・生理用品	18.1%
2	水の準備	63.9%	11	救急セット	28.0%
3	マスクなどの衛生用品	52.1%	12	防災袋(非常持出袋)	36.2%
4	消毒液	33.8%	13	消火器・消火スプレー	23.8%
5	簡易トイレ	40.7%	14	感震ブレーカー	2.9%
6	ラジオ	64.1%	15	現金(電子決済が使用できない状況への備え)	28.0%
7	照明器具(懐中電灯など)	65.3%	16	その他	2.0%
8	モバイルバッテリーなどの充電器具類	36.7%	17	特にない	6.0%
9	ヘルメット・防災頭巾	19.5%		無回答	0.3%

災害に備えて家庭で準備している防災用品および用具を聞いたところ、「照明器具（懐中電灯など）」（65.3%）と「ラジオ」（64.1%）が6割台半ば、次いで「水の準備」（63.9%）も6割を超えている。



第4章 調査結果の分析〈2 防災対策〉

家庭内で準備している防災用品・用具－性別／年齢／性別×年齢

性別で見ると、上位5項目すべて女性の方が男性より高く、特に「マスクなどの衛生用品」は15ポイント、「照明器具（懐中電灯など）」は14ポイント高くなっている。

性別×年齢で見ると、「モバイルバッテリーなどの充電器具類」は男性の49歳以下で上位5項目に入っており、「簡易トイレ」は女性の30～49歳、「消毒液」は女性18～29歳で上位5項目に入っている。

家庭内で準備している防災用品・用具－性別／年齢／性別×年齢（上位5項目）

		回答者数	(%)				
			1位	2位	3位	4位	5位
全体		1,534	照明器具 65.3	ラジオ 64.1	水の準備 63.9	非常用食料 55.0	マスクなどの衛生用品 52.1
性別	男性	676	ラジオ 60.5	水の準備 60.2	照明器具 57.8	非常用食料 52.5	マスクなどの衛生用品 43.9
	女性	836	照明器具 71.8	水の準備 66.7	ラジオ 66.5	マスクなどの衛生用品 58.6	非常用食料 56.7
	その他	5	非常用食料／ラジオ 80.0		水の準備 60.0	マスクなどの衛生用品／簡易トイレ／モバイルバッテリーなどの充電器具類 40.0	
年齢	18～29歳	146	水の準備 53.4	非常用食料 52.1	照明器具 49.3	マスクなどの衛生用品 41.8	ラジオ／モバイルバッテリーなどの充電器具類 37.7
	30～39歳	252	水の準備 62.7	照明器具 55.6	非常用食料 54.8	マスクなどの衛生用品 52.8	ラジオ 47.2
	40～49歳	303	水の準備 67.7	照明器具 67.0	ラジオ 63.0	非常用食料 60.7	マスクなどの衛生用品 52.5
	50～59歳	301	ラジオ 72.4	照明器具 65.8	水の準備 63.1	非常用食料 53.2	マスクなどの衛生用品 52.8
	60～69歳	182	照明器具 72.0	ラジオ 71.4	水の準備 59.9	マスクなどの衛生用品 54.4	非常用食料 52.2
	70歳以上	334	ラジオ 76.3	照明器具 74.0	水の準備 68.3	非常用食料／マスクなどの衛生用品 53.6	
	男性×年齢	18～29歳	66	照明器具 45.5	水の準備 43.9	非常用食料 42.4	モバイルバッテリーなどの充電器具類 36.4
30～39歳		117	水の準備 65.0	非常用食料 53.0	マスクなどの衛生用品 50.4	照明器具 46.2	ラジオ／モバイルバッテリーなどの充電器具類 41.0
40～49歳		125	非常用食料 65.6	水の準備 64.0	ラジオ 57.6	照明器具 55.2	モバイルバッテリーなどの充電器具類 47.2
50～59歳		135	ラジオ 69.6	水の準備 63.0	照明器具 60.0	非常用食料 50.4	マスクなどの衛生用品 47.4
60～69歳		91	ラジオ 68.1	照明器具 62.6	水の準備 53.8	非常用食料 46.2	マスクなどの衛生用品 41.8
70歳以上		141	ラジオ 77.3	照明器具 70.2	水の準備 62.4	非常用食料 51.1	マスクなどの衛生用品 47.5
女性×年齢		18～29歳	78	水の準備 61.5	非常用食料 59.0	照明器具 53.8	マスクなどの衛生用品 48.7
	30～39歳	134	照明器具 63.4	水の準備 60.4	非常用食料 56.0	簡易トイレ 55.2	マスクなどの衛生用品 54.5
	40～49歳	177	照明器具 75.7	水の準備 70.6	ラジオ 66.7	マスクなどの衛生用品 63.8	簡易トイレ 61.6
	50～59歳	164	ラジオ 75.0	照明器具 71.3	水の準備 63.4	マスクなどの衛生用品 56.7	非常用食料 55.5
	60～69歳	91	照明器具 81.3	ラジオ 74.7	マスクなどの衛生用品 67.0	水の準備 65.9	非常用食料 58.2
	70歳以上	192	照明器具 77.1	ラジオ 76.0	水の準備 72.9	マスクなどの衛生用品 58.3	非常用食料 55.7

家庭内で準備している防災用品・用具－住居形態

住居形態でみると、持ち家集合住宅では「照明器具（懐中電灯など）」、「水の準備」、「ラジオ」が7割を超えている。持ち家一戸建て（自己所有地）と持ち家一戸建て（借地）も「照明器具（懐中電灯など）」、「水の準備」、「ラジオ」が6割台で、賃貸に比べ高くなっている。

家庭内で準備している防災用品・用具－住居形態（上位5項目）

(%)

		回答者数	1位	2位	3位	4位	5位	
全体		1,534	照明器具 65.3	ラジオ 64.1	水の準備 63.9	非常用食料 55.0	マスクなどの衛生用品 52.1	
住居形態	持ち家	一戸建て 自己所有地	201	ラジオ 66.7	水の準備 64.7	照明器具 64.2	マスクなどの衛生用品 49.8	非常用食料 49.3
		一戸建て 借地	59	水の準備 69.5	ラジオ 66.1	非常用食料／照明器具 64.4		マスクなどの衛生用品 40.7
		集合住宅	683	照明器具 73.5	水の準備 71.7	ラジオ 71.2	非常用食料 62.2	マスクなどの衛生用品 59.4
	賃貸	一戸建て	11	水の準備／ラジオ 63.6		マスクなどの衛生用品 54.5	消毒液／照明器具／救急セット 45.5	
		集合住宅 民間	286	水の準備 54.2	照明器具 53.1	ラジオ 47.6	マスクなどの衛生用品 45.5	非常用食料 44.8
		集合住宅 都営等	213	ラジオ 63.4	照明器具 61.0	水の準備 54.5	非常用食料 50.7	マスクなどの衛生用品 45.5
		寮・社宅	46	非常用食料／照明器具 47.8		ラジオ 43.5	簡易トイレ 41.3	水の準備 39.1
		間借り・住み込み	6	水の準備／ラジオ／現金 66.7			非常用食料／マスクなどの衛生用品／簡易トイレ／照明器具／消火器・消火スプレー 50.0	
	その他	11	ラジオ／照明器具 63.6		非常用食料／マスクなどの衛生用品／現金 54.5			

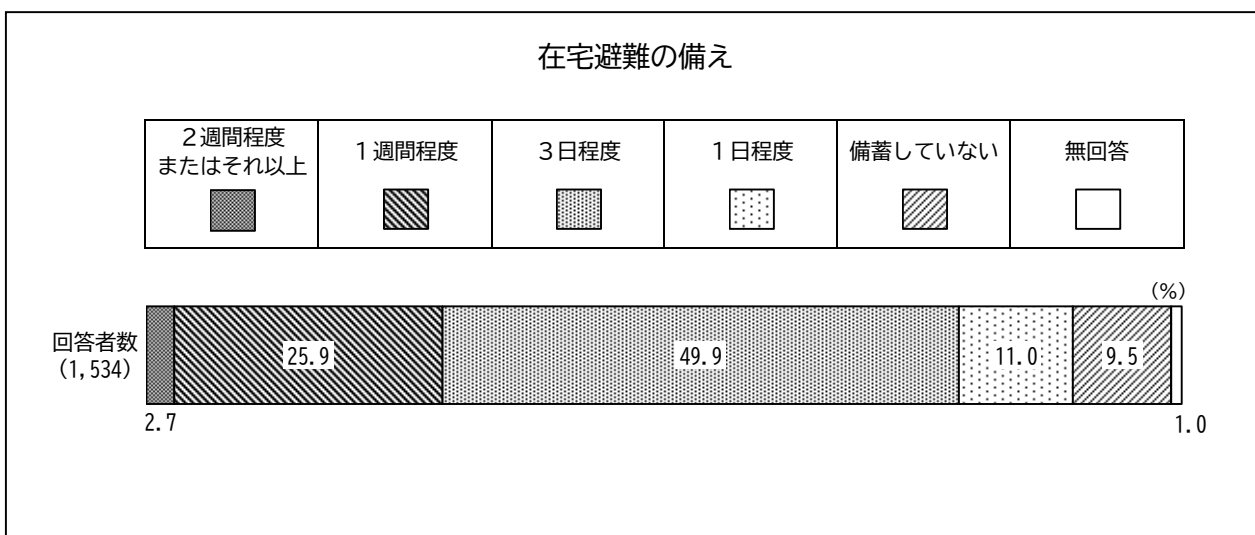
(5) 在宅避難の備え

新規

◇「3日程度」が5割

問7	災害により自宅で孤立し、電気・ガス・水道などのライフラインが使えず、食料などの支援が届かない場合、あなたのご家庭では、どの程度の避難生活を耐えられる備え（水や食料品の備蓄）をしていますか。次の中からもっとも近いものを1つだけ選んでください。（回答者数=1,534）				
1	2週間程度またはそれ以上	2.7%	4	1日程度	11.0%
2	1週間程度	25.9%	5	備蓄していない	9.5%
3	3日程度	49.9%		無回答	1.0%

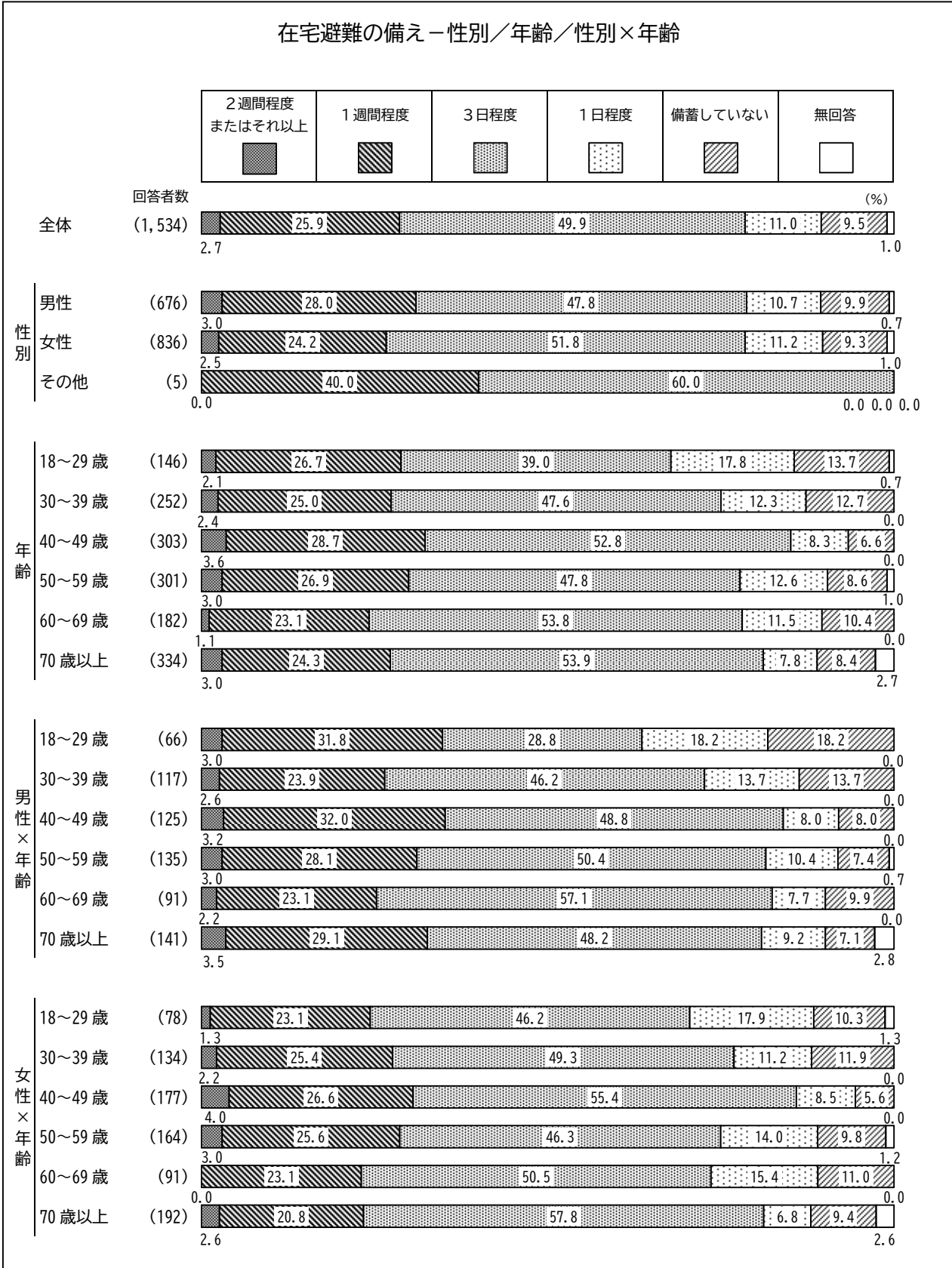
災害により自宅で孤立した場合、どの程度の避難生活を耐えられる備えをしているか聞いたところ、「3日程度」（49.9%）が5割で最も多く、次いで「1週間程度」（25.9%）、「1日程度」（11.0%）と続いている。



在宅避難の備え－性別／年齢／性別×年齢

性別で見ると、「1週間程度」は男性の方が女性より4ポイント高く、「3日程度」は女性の方が男性より4ポイント高くなっている。

性別×年齢で見ると、「1週間程度」は男性18～29歳、男性40～49歳が3割を超え、「3日程度」は男性60～69歳、女性70歳以上で6割近くとなっている。3日以上上の備えは男女とも40～49歳で8割台半ばとなっている。一方、「備蓄していない」は男性18～29歳が2割近くとなっている。



第4章
調査結果の分析
2 防災対策

3 ごみ・リサイクル

-
- (1) ごみを減らすために行っている取り組み
 - (2) 食品ロス削減のために取り組んでいること、取り組みたいこと
-

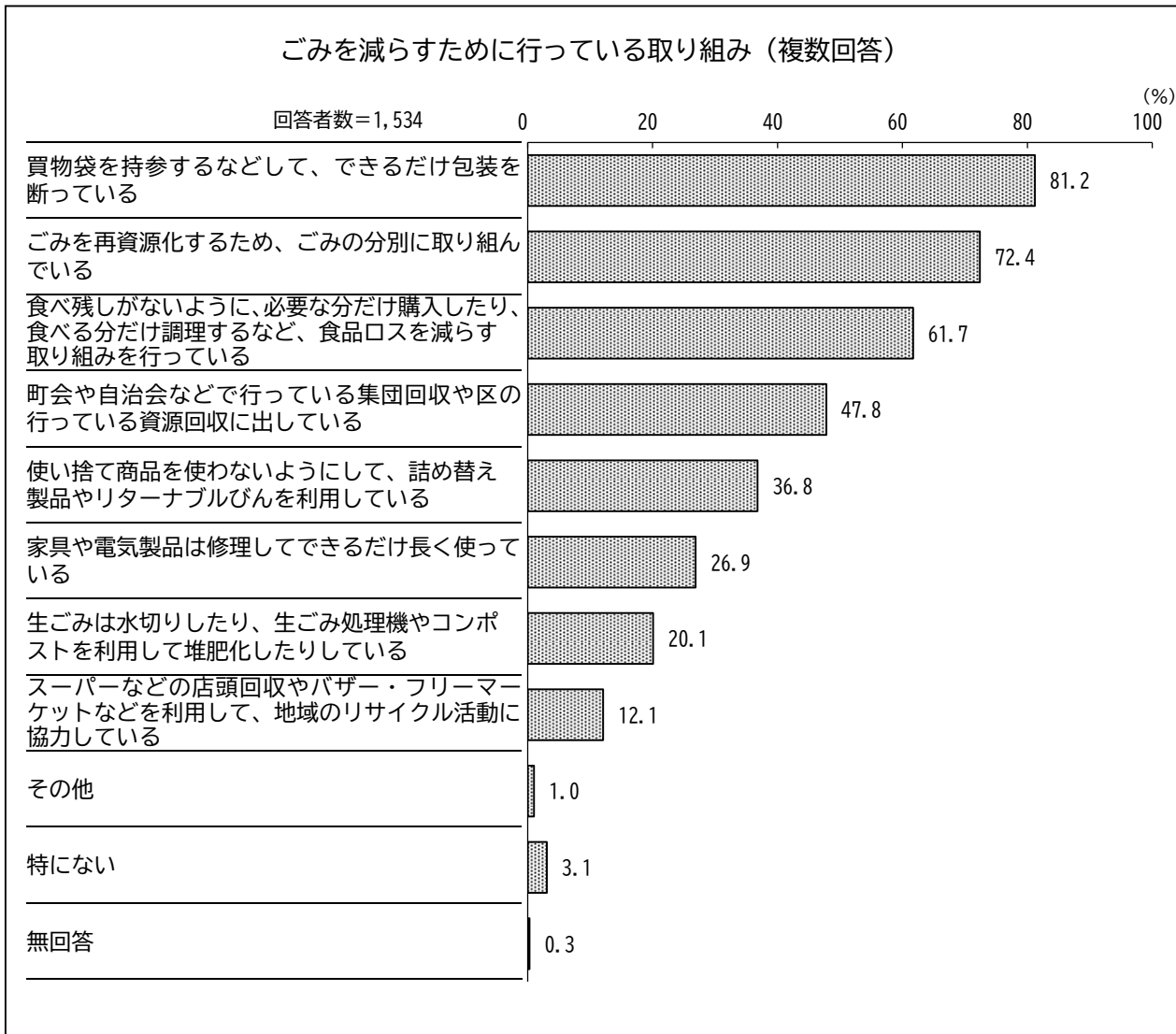
3 ごみ・リサイクル

(1) ごみを減らすために行っている取り組み

◇「買物袋を持参するなどして、できるだけ包装を断っている」が8割を超える

問8	あなたは、ごみを減らすために、どのような取り組みをなさっていますか。 次の中から当てはまるものをすべて選んでください。(回答者数=1,534)	
1	買物袋を持参するなどして、できるだけ包装を断っている	81.2%
2	食べ残しがないように、必要な分だけ購入したり、食べる分だけ調理するなど、食品ロスを減らす取り組みを行っている	61.7%
3	使い捨て商品を使わないようにして、詰め替え製品やリターナブルびんを利用している	36.8%
4	町会や自治会などで行っている集団回収や区で行っている資源回収に出している	47.8%
5	家具や電気製品は修理してできるだけ長く使っている	26.9%
6	生ごみは水切りしたり、生ごみ処理機やコンポストを利用して堆肥化したりしている	20.1%
7	スーパーなどの店頭回収やバザー・フリーマーケットなどを利用して、地域のリサイクル活動に協力している	12.1%
8	ごみを再資源化するため、ごみの分別に取り組んでいる	72.4%
9	その他	1.0%
10	特にない	3.1%
	無回答	0.3%

ごみを減らすために行っている取り組みを聞いたところ、「買物袋を持参するなどして、できるだけ包装を断っている」（81.2%）が8割を超えて最も多く、次いで「ごみを再資源化するため、ごみの分別に取り組んでいる」（72.4%）、「食べ残しがないように、必要な分だけ購入したり、食べる分だけ調理するなど、食品ロスを減らす取り組みを行っている」（61.7%）と続いている。



ごみを減らすために行っている取り組み－地区

地区で見ると、「買物袋を持参するなどして、できるだけ包装を断っている」は白河・小松橋地区で8割台半ば、その他の地区も8割前後となっている。「ごみを再資源化するため、ごみの分別に取り組んでいる」は砂町地区を除くすべての地区で7割台、「町会や自治会などで行っている集団回収や区で行っている資源回収に出している」は白河・小松橋地区が5割台半ばで最も高く、富岡・東陽地区、大島地区、砂町地区も5割台となっている。

ごみを減らすために行っている取り組み－地区（上位5項目）

		(%)				
	回答者数	1位	2位	3位	4位	5位
全体	1,534	買物袋の持参等で包装を断る 81.2	再資源化のためにごみを分別する 72.4	食品ロス削減の取り組みを行う 61.7	集団回収や区の資源回収に出す 47.8	詰め替え製品やリターナブルびんを利用する 36.8
地区	白河・小松橋	買物袋の持参等で包装を断る 84.8	再資源化のためにごみを分別する 76.4	食品ロス削減の取り組みを行う 63.5	集団回収や区の資源回収に出す 55.5	詰め替え製品やリターナブルびんを利用する 39.5
	富岡・東陽	買物袋の持参等で包装を断る 81.8	再資源化のためにごみを分別する 71.9	食品ロス削減の取り組みを行う 64.5	集団回収や区の資源回収に出す 52.4	詰め替え製品やリターナブルびんを利用する 40.7
	豊洲	買物袋の持参等で包装を断る 79.0	再資源化のためにごみを分別する 72.5	食品ロス削減の取り組みを行う 63.1	詰め替え製品やリターナブルびんを利用する 36.2	集団回収や区の資源回収に出す 35.9
	亀戸	買物袋の持参等で包装を断る 81.4	再資源化のためにごみを分別する 72.3	食品ロス削減の取り組みを行う 59.3	集団回収や区の資源回収に出す 45.8	詰め替え製品やリターナブルびんを利用する 37.9
	大島	買物袋の持参等で包装を断る 80.7	再資源化のためにごみを分別する 72.2	食品ロス削減の取り組みを行う 54.5	集団回収や区の資源回収に出す 50.6	詰め替え製品やリターナブルびんを利用する 36.4
	砂町	買物袋の持参等で包装を断る 80.1	再資源化のためにごみを分別する 67.9	食品ロス削減の取り組みを行う 61.5	集団回収や区の資源回収に出す 50.2	詰め替え製品やリターナブルびんを利用する 32.6
	南砂	買物袋の持参等で包装を断る 82.3	再資源化のためにごみを分別する 73.8	食品ロス削減の取り組みを行う 62.4	集団回収や区の資源回収に出す 44.7	詰め替え製品やリターナブルびんを利用する 33.3

第4章 調査結果の分析 <3 ごみ・リサイクル>

ごみを減らすために行っている取り組み－性別／年齢／性別×年齢

性別でみると、上位5項目すべて女性の方が男性より高く、特に「使い捨て商品を使わないようにして、詰め替え製品やリターナブルびんを利用している」は16ポイント高くなっている。

性別×年齢でみると、「買物袋を持参するなどして、できるだけ包装を断っている」は男性18～29歳を除くすべての性別×年齢で第1位となっており、男性18～29歳は「食べ残しがないように、必要な分だけ購入したり、食べる分だけ調理するなど、食品ロスを減らす取り組みを行っている」が第1位となっている。「町会や自治会などで行っている集団回収や区の行っている資源回収に出している」は女性70歳以上で7割を超えている。

ごみを減らすために行っている取り組み－性別／年齢／性別×年齢（上位5項目） (%)

	回答者数	1位	2位	3位	4位	5位
全体	1,534	買物袋の持参等で包装を断る 81.2	再資源化のためにごみを分別する 72.4	食品ロス削減の取り組みを行う 61.7	集団回収や区の資源回収に出す 47.8	詰め替え製品やリターナブルびんを利用する 36.8
性別	男性	買物袋の持参等で包装を断る 75.1	再資源化のためにごみを分別する 68.6	食品ロス削減の取り組みを行う 59.9	集団回収や区の資源回収に出す 42.8	詰め替え製品やリターナブルびんを利用する 28.0
	女性	買物袋の持参等で包装を断る 86.2	再資源化のためにごみを分別する 75.4	食品ロス削減の取り組みを行う 63.0	集団回収や区の資源回収に出す 51.3	詰め替え製品やリターナブルびんを利用する 44.0
	その他	買物袋の持参等で包装を断る 100.0	食品ロス削減の取り組みを行う／再資源化のためにごみを分別する	80.0	集団回収や区の資源回収に出す／家具や電気製品を修理して長く使う	60.0
年齢	18～29歳	買物袋の持参等で包装を断る 71.9	食品ロス削減の取り組みを行う 61.0	再資源化のためにごみを分別する 54.8	集団回収や区の資源回収に出す 26.0	詰め替え製品やリターナブルびんを利用する 25.3
	30～39歳	買物袋の持参等で包装を断る 74.6	再資源化のためにごみを分別する 61.1	食品ロス削減の取り組みを行う 58.7	詰め替え製品やリターナブルびんを利用する 36.5	集団回収や区の資源回収に出す／家具や電気製品を修理して長く使う 25.8
	40～49歳	買物袋の持参等で包装を断る 78.2	再資源化のためにごみを分別する 70.6	食品ロス削減の取り組みを行う 60.1	集団回収や区の資源回収に出す 41.6	詰め替え製品やリターナブルびんを利用する 39.3
	50～59歳	買物袋の持参等で包装を断る 83.4	再資源化のためにごみを分別する 76.7	食品ロス削減の取り組みを行う 62.1	集団回収や区の資源回収に出す 53.2	詰め替え製品やリターナブルびんを利用する 37.5
	60～69歳	買物袋の持参等で包装を断る 90.1	再資源化のためにごみを分別する 84.6	食品ロス削減の取り組みを行う 67.6	集団回収や区の資源回収に出す 59.9	詰め替え製品やリターナブルびんを利用する 42.9
	70歳以上	買物袋の持参等で包装を断る 86.5	再資源化のためにごみを分別する 79.3	集団回収や区の資源回収に出す 66.8	食品ロス削減の取り組みを行う 62.3	詰め替え製品やリターナブルびんを利用する 35.6
性別×年齢	18～29歳	食品ロス削減の取り組みを行う 59.1	買物袋の持参等で包装を断る 57.6	再資源化のためにごみを分別する 45.5	集団回収や区の資源回収に出す 21.2	家具や電気製品を修理して長く使う 16.7
	30～39歳	買物袋の持参等で包装を断る 68.4	食品ロス削減の取り組みを行う／再資源化のためにごみを分別する 59.8	詰め替え製品やリターナブルびんを利用する 30.8	家具や電気製品を修理して長く使う 29.9	
	40～49歳	買物袋の持参等で包装を断る 73.6	再資源化のためにごみを分別する 63.2	食品ロス削減の取り組みを行う 56.0	集団回収や区の資源回収に出す 37.6	詰め替え製品やリターナブルびんを利用する 31.2
	50～59歳	買物袋の持参等で包装を断る 77.8	再資源化のためにごみを分別する 72.6	食品ロス削減の取り組みを行う 58.5	集団回収や区の資源回収に出す 50.4	詰め替え製品やリターナブルびんを利用する 29.6
	60～69歳	買物袋の持参等で包装を断る 85.7	再資源化のためにごみを分別する 83.5	食品ロス削減の取り組みを行う 65.9	集団回収や区の資源回収に出す 51.6	詰め替え製品やリターナブルびんを利用する 34.1
	70歳以上	買物袋の持参等で包装を断る 80.9	再資源化のためにごみを分別する 78.0	食品ロス削減の取り組みを行う 61.0	集団回収や区の資源回収に出す 59.6	家具や電気製品を修理して長く使う 32.6
女性×年齢	18～29歳	買物袋の持参等で包装を断る 83.3	食品ロス削減の取り組みを行う／再資源化のためにごみを分別する 61.5	詰め替え製品やリターナブルびんを利用する 34.6	集団回収や区の資源回収に出す 29.5	
	30～39歳	買物袋の持参等で包装を断る 79.9	再資源化のためにごみを分別する 61.9	食品ロス削減の取り組みを行う 57.5	詰め替え製品やリターナブルびんを利用する 41.0	生ごみの水切りや生ごみ処理機等で堆肥化する 29.1
	40～49歳	買物袋の持参等で包装を断る 81.4	再資源化のためにごみを分別する 75.7	食品ロス削減の取り組みを行う 62.7	詰め替え製品やリターナブルびんを利用する 45.2	集団回収や区の資源回収に出す 44.1
	50～59歳	買物袋の持参等で包装を断る 87.8	再資源化のためにごみを分別する 80.5	食品ロス削減の取り組みを行う 65.2	集団回収や区の資源回収に出す 54.9	詰め替え製品やリターナブルびんを利用する 43.9
	60～69歳	買物袋の持参等で包装を断る 94.5	再資源化のためにごみを分別する 85.7	食品ロス削減の取り組みを行う 69.2	集団回収や区の資源回収に出す 68.1	詰め替え製品やリターナブルびんを利用する 51.6
	70歳以上	買物袋の持参等で包装を断る 91.1	再資源化のためにごみを分別する 80.7	集団回収や区の資源回収に出す 72.4	食品ロス削減の取り組みを行う 63.0	詰め替え製品やリターナブルびんを利用する 45.3

第4章 調査結果の分析 <3> ごみ・リサイクル

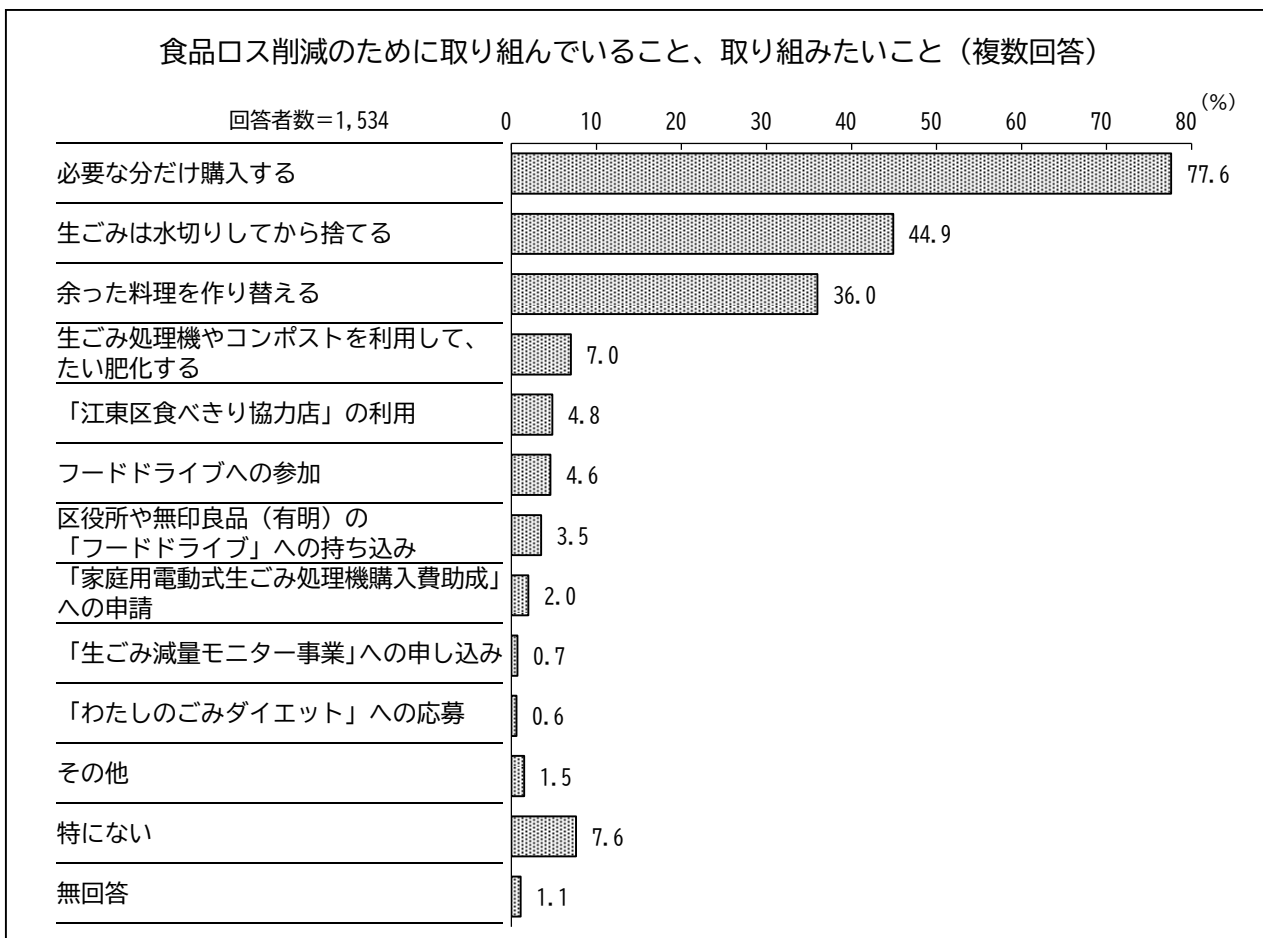
(2) 食品ロス削減のために取り組んでいること、取り組みたいこと

新規

◇「必要な分だけ購入する」が8割近く

問9	あなたが、食品ロス削減のために、取り組んでいるもしくは取り組みたいことはありますか。次の中から当てはまるものをすべて選んでください。(回答者数=1,534)
1	「江東区食べきり協力店」の利用 4.8%
2	区役所や無印良品(有明)の「フードドライブ」への持ち込み 3.5%
3	「生ごみ減量モニター事業」への申し込み 0.7%
4	「わたしのごみダイエット」への応募 0.6%
5	「家庭用電動式生ごみ処理機購入費助成」への申請 2.0%
6	必要な分だけ購入する 77.6%
7	余った料理を作り替える 36.0%
8	フードドライブへの参加 4.6%
9	生ごみ処理機やコンポストを利用して、たい肥化する 7.0%
10	生ごみは水切りしてから捨てる 44.9%
11	その他 1.5%
12	特にない 7.6%
	無回答 1.1%

食品ロス削減のために取り組んでいるもしくは取り組みたいことを聞いたところ、「必要な分だけ購入する」(77.6%)が8割近くで最も多く、次いで「生ごみは水切りしてから捨てる」(44.9%)、「余った料理を作り替える」(36.0%)と続いている。



第4章 調査結果の分析〈3 ごみ・リサイクル〉

食品ロス削減のために取り組んでいること、取り組みたいこと－地区

地区で見ると、上位3項目はすべての地区で同じ項目となっている。「『江東区食べきり協力店』の利用」は富岡・東陽地区が他の地区よりやや高くなっている。

食品ロス削減のために取り組んでいること、取り組みたいこと－地区（上位5項目）

(%)

	回答者数	1位	2位	3位	4位	5位
全体	1,534	必要な分だけ購入する 77.6	生ごみは水切りしてから捨てる 44.9	余った料理を作り替える 36.0	生ごみ処理機やコンポストでたい肥化する 7.0	「江東区食べきり協力店」の利用 4.8
地区	白河・小松橋	必要な分だけ購入する 80.2	生ごみは水切りしてから捨てる 46.0	余った料理を作り替える 35.0	生ごみ処理機やコンポストでたい肥化する 6.1	「江東区食べきり協力店」の利用 5.3
	富岡・東陽	必要な分だけ購入する 77.5	生ごみは水切りしてから捨てる 45.9	余った料理を作り替える 35.5	「江東区食べきり協力店」の利用／フードドライブへの参加 7.8	
	豊洲	必要な分だけ購入する 76.4	生ごみは水切りしてから捨てる 38.5	余った料理を作り替える 35.9	生ごみ処理機やコンポストでたい肥化する 9.7	フードドライブへの参加 6.8
	亀戸	必要な分だけ購入する 76.3	生ごみは水切りしてから捨てる 40.7	余った料理を作り替える 36.2	生ごみ処理機やコンポストでたい肥化する 7.3	「江東区食べきり協力店」の利用 4.0
	大島	必要な分だけ購入する 78.4	生ごみは水切りしてから捨てる 44.3	余った料理を作り替える 34.7	生ごみ処理機やコンポストでたい肥化する 7.4	「江東区食べきり協力店」の利用 4.0
	砂町	必要な分だけ購入する 80.5	生ごみは水切りしてから捨てる 52.0	余った料理を作り替える 36.2	生ごみ処理機やコンポストでたい肥化する 4.5	「江東区食べきり協力店」の利用 4.1
	南砂	必要な分だけ購入する 74.5	生ごみは水切りしてから捨てる 47.5	余った料理を作り替える 41.1	生ごみ処理機やコンポストでたい肥化する 8.5	「江東区食べきり協力店」の利用 4.3

第4章 調査結果の分析〈3 ごみ・リサイクル〉

食品ロス削減のために取り組んでいること、取り組みたいこと－性別／年齢／性別×年齢

性別で見ると、第5位は男性が「『江東区食べきり協力店』の利用」、女性が「フードドライブへの参加」となっている。

性別×年齢で見ると、「必要な分だけ購入する」はすべての性別×年齢で上位2位以内に入っている。「生ごみは水切りしてから捨てる」は女性70歳以上で8割近く、男性70歳以上、女性60～69歳も6割台と高くなっている。

食品ロス削減のために取り組んでいること、取り組みたいこと－性別／年齢／性別×年齢（上位5項目）
(%)

	回答者数	1位	2位	3位	4位	5位	
全体	1,534	必要な分だけ購入する 77.6	生ごみは水切りしてから捨てる 44.9	余った料理を作り替える 36.0	生ごみ処理機やコンポストでたい肥化する 7.0	「江東区食べきり協力店」の利用 4.8	
性別	男性	676	必要な分だけ購入する 75.7	生ごみは水切りしてから捨てる 35.5	余った料理を作り替える 26.3	生ごみ処理機やコンポストでたい肥化する 5.8	「江東区食べきり協力店」の利用 3.8
	女性	836	必要な分だけ購入する 79.7	生ごみは水切りしてから捨てる 52.4	余った料理を作り替える 44.0	生ごみ処理機やコンポストでたい肥化する 8.0	フードドライブへの参加 6.8
	その他	5	必要な分だけ購入する 60.0	余った料理を作り替える 60.0	「家庭用電動式生ごみ処理機購入費助成」への申請／生ごみ処理機やコンポストでたい肥化する／生ごみは水切りしてから捨てる		20.0
年齢	18～29歳	146	必要な分だけ購入する 82.2	余った料理を作り替える 32.9	生ごみは水切りしてから捨てる 30.1	生ごみ処理機やコンポストでたい肥化する 7.5	フードドライブへの参加 4.1
	30～39歳	252	必要な分だけ購入する 75.0	余った料理を作り替える 34.9	生ごみは水切りしてから捨てる 25.4	生ごみ処理機やコンポストでたい肥化する 11.1	「江東区食べきり協力店」の利用 7.9
	40～49歳	303	必要な分だけ購入する 74.3	生ごみは水切りしてから捨てる 38.0	余った料理を作り替える 34.0	生ごみ処理機やコンポストでたい肥化する 7.9	フードドライブへの参加 6.3
	50～59歳	301	必要な分だけ購入する 79.7	生ごみは水切りしてから捨てる 40.5	余った料理を作り替える 37.2	「江東区食べきり協力店」の利用 6.6	生ごみ処理機やコンポストでたい肥化する 6.3
	60～69歳	182	必要な分だけ購入する 83.0	生ごみは水切りしてから捨てる 55.5	余った料理を作り替える 36.3	生ごみ処理機やコンポストでたい肥化する 8.2	フードドライブへの参加 4.4
	70歳以上	334	必要な分だけ購入する 76.9	生ごみは水切りしてから捨てる 70.1	余った料理を作り替える 39.2	生ごみ処理機やコンポストでたい肥化する 3.0	フードドライブへの参加 2.7
	男性×年齢	18～29歳	66	必要な分だけ購入する 69.7	余った料理を作り替える 30.3	生ごみは水切りしてから捨てる 18.2	生ごみ処理機やコンポストでたい肥化する 9.1
30～39歳		117	必要な分だけ購入する 74.4	余った料理を作り替える 27.4	生ごみは水切りしてから捨てる 16.2	生ごみ処理機やコンポストでたい肥化する 6.0	「江東区食べきり協力店」の利用 5.1
40～49歳		125	必要な分だけ購入する 72.0	生ごみは水切りしてから捨てる 34.4	余った料理を作り替える 25.6	「江東区食べきり協力店」の利用 5.6	フードドライブへの参加／生ごみ処理機やコンポストでたい肥化する 3.2
50～59歳		135	必要な分だけ購入する 75.6	生ごみは水切りしてから捨てる 28.9	余った料理を作り替える 20.0	生ごみ処理機やコンポストでたい肥化する 7.4	「江東区食べきり協力店」の利用 4.4
60～69歳		91	必要な分だけ購入する 82.4	生ごみは水切りしてから捨てる 46.2	余った料理を作り替える 27.5	生ごみ処理機やコンポストでたい肥化する 8.8	フードドライブへの参加 3.3
70歳以上		141	必要な分だけ購入する 78.7	生ごみは水切りしてから捨てる 60.3	余った料理を作り替える 29.1	「家庭用電動式生ごみ処理機購入費助成」への申請／生ごみ処理機やコンポストでたい肥化する	2.8
女性×年齢		18～29歳	78	必要な分だけ購入する 92.3	生ごみは水切りしてから捨てる 41.0	余った料理を作り替える 34.6	生ごみ処理機やコンポストでたい肥化する 6.4
	30～39歳	134	必要な分だけ購入する 76.1	余った料理を作り替える 41.8	生ごみは水切りしてから捨てる 33.6	生ごみ処理機やコンポストでたい肥化する 14.9	「江東区食べきり協力店」の利用 10.4
	40～49歳	177	必要な分だけ購入する 75.7	生ごみは水切りしてから捨てる 40.7	余った料理を作り替える 39.5	生ごみ処理機やコンポストでたい肥化する 11.3	フードドライブへの参加 8.5
	50～59歳	164	必要な分だけ購入する 83.5	余った料理を作り替える 51.2	生ごみは水切りしてから捨てる 50.0	フードドライブへの参加 9.1	「江東区食べきり協力店」の利用 8.5
	60～69歳	91	必要な分だけ購入する 83.5	生ごみは水切りしてから捨てる 64.8	余った料理を作り替える 45.1	生ごみ処理機やコンポストでたい肥化する 7.7	フードドライブへの参加 5.5
	70歳以上	192	生ごみは水切りしてから捨てる 77.1	必要な分だけ購入する 75.5	余った料理を作り替える 46.9	フードドライブへの参加／生ごみ処理機やコンポストでたい肥化する	3.1

第4章
調査結果の分析
3 ごみ・リサイクル

4 交通

-
- (1) 区内の公共交通機関で不便や不満を感じること
 - (2) 移動手段で重視するもの
 - (3) 自転車利用について区が取り組むべき施策
-

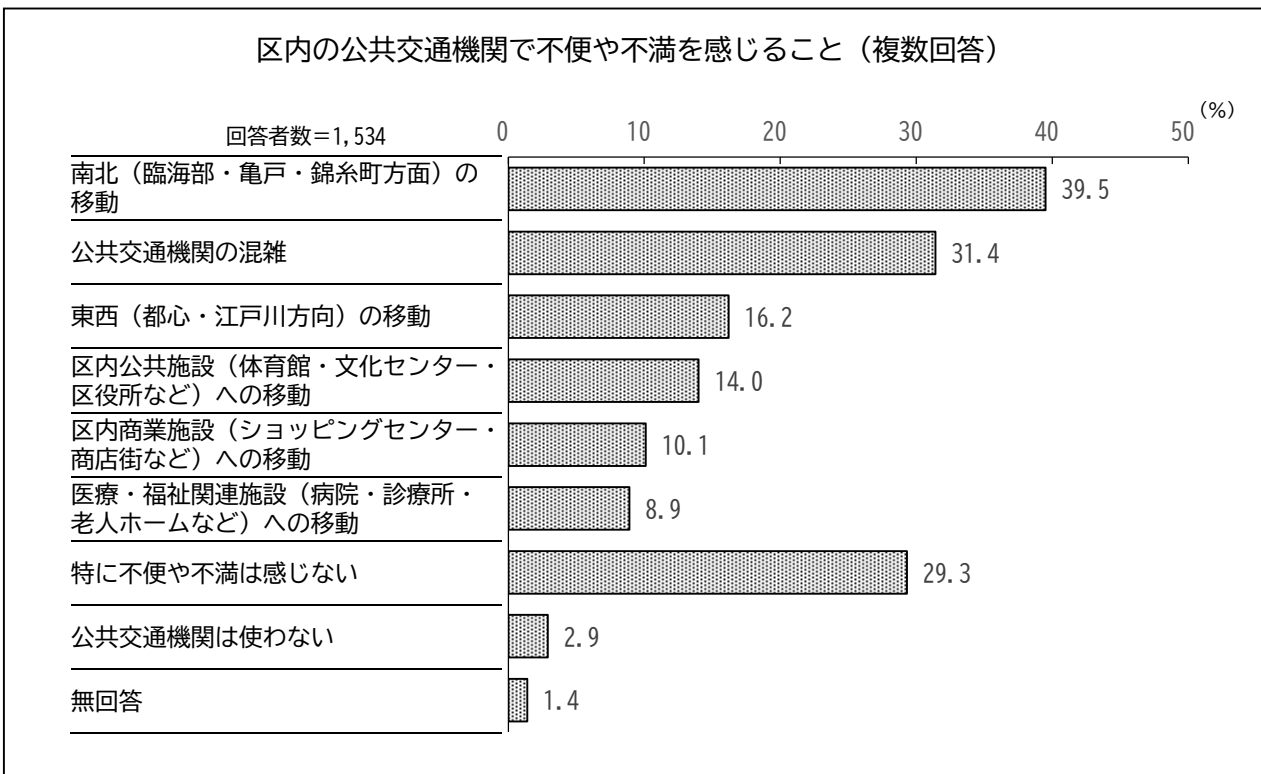
4 交通

(1) 区内の公共交通機関で不便や不満を感じること

◇「南北（臨海部・亀戸・錦糸町方面）の移動」が4割

問10	あなたは、区内の鉄道・バスなどの公共交通機関について不便や不満を感じることはありますか。次の中から当てはまるものをすべて選んでください。（回答者数=1,534）	
1	東西（都心・江戸川方向）の移動	16.2%
2	南北（臨海部・亀戸・錦糸町方面）の移動	39.5%
3	区内公共施設（体育館・文化センター・区役所など）への移動	14.0%
4	医療・福祉関連施設（病院・診療所・老人ホームなど）への移動	8.9%
5	区内商業施設（ショッピングセンター・商店街など）への移動	10.1%
6	公共交通機関の混雑	31.4%
7	特に不便や不満は感じない	29.3%
8	公共交通機関は使わない	2.9%
	無回答	1.4%

区内の鉄道・バスなどの公共交通機関について不便や不満を感じることを聞いたところ、「南北（臨海部・亀戸・錦糸町方面）の移動」（39.5%）が4割で最も多く、次いで「公共交通機関の混雑」（31.4%）、「東西（都心・江戸川方向）の移動」（16.2%）と続いている。一方、「特に不便や不満は感じない」（29.3%）はほぼ3割となっている。



第4章 調査結果の分析〈4 交通〉

区内の公共交通機関で不便や不満を感じること－地区

地区でみると、「公共交通機関の混雑」は南砂地区で5割近くとなっている。「南北（臨海部・亀戸・錦糸町方面）の移動」は亀戸地区と南砂地区で4割台半ば、豊洲地区と大島地区も4割を超えている。「特に不便や不満は感じない」は白河・小松橋地区で3割台半ばとなっている。

区内の公共交通機関で不便や不満を感じること－地区（上位5項目）

(%)

	回答者数	1位	2位	3位	4位	5位	不便や不満は感じない	公共交通機関は使わない
全体	1,534	南北の移動 39.5	公共交通機関の混雑 31.4	東西の移動 16.2	区内公共施設への移動 14.0	区内商業施設への移動 10.1	29.3	2.9
地区	白河・小松橋	南北の移動 32.7	公共交通機関の混雑 24.0	区内公共施設への移動 17.9	東西の移動 13.3	区内商業施設への移動 12.9	36.1	3.4
	富岡・東陽	公共交通機関の混雑 39.0	南北の移動 34.6	東西の移動 12.6	区内商業施設への移動 11.3	区内公共施設への移動 10.8	29.9	3.9
	豊洲	南北の移動 43.4	公共交通機関の混雑 29.1	東西の移動 24.3	区内公共施設への移動 20.1	医療・福祉関連施設への移動 11.0	24.3	1.3
	亀戸	南北の移動 44.6	公共交通機関の混雑 31.1	区内公共施設への移動 15.8	東西の移動 9.6	医療・福祉関連施設への移動 7.9	28.8	3.4
	大島	南北の移動 43.2	公共交通機関の混雑 26.7	東西の移動 15.9	区内公共施設への移動／区内商業施設への移動 11.9		28.4	1.7
	砂町	南北の移動 37.1	公共交通機関の混雑 29.9	東西の移動 16.7	医療・福祉関連施設への移動 11.8	区内公共施設への移動／区内商業施設への移動 7.7	30.3	4.5
	南砂	公共交通機関の混雑 48.2	南北の移動 45.4	東西の移動 18.4	区内商業施設への移動 9.9	区内公共施設への移動 9.2	24.1	0.7

区内の公共交通機関で不便や不満を感じること－性別／年齢／性別×年齢

性別でみると、「南北（臨海部・亀戸・錦糸町方面）の移動」は男性の方が女性より9ポイント高くなっている。

性別×年齢でみると、「南北（臨海部・亀戸・錦糸町方面）の移動」はすべての性別×年齢で2位以内に入っており、男性40～49歳で5割台半ば、男性50～59歳で5割を超えている。「公共交通機関の混雑」は女性18～29歳で5割近くとなっている。

区内の公共交通機関で不便や不満を感じること－性別／年齢／性別×年齢（上位5項目）

(%)

	回答者数	1位	2位	3位	4位	5位	不便や不満は感じない	公共交通機関は使わない	
全体	1,534	南北の移動 39.5	公共交通機関の混雑 31.4	東西の移動 16.2	区内公共施設への移動 14.0	区内商業施設への移動 10.1	29.3	2.9	
性別	男性	676	南北の移動 44.5	公共交通機関の混雑 32.0	東西の移動 14.8	区内公共施設への移動 12.3	区内商業施設への移動 8.0	27.8	3.7
	女性	836	南北の移動 35.5	公共交通機関の混雑 31.2	東西の移動 17.2	区内公共施設への移動 15.2	区内商業施設への移動 11.5	30.3	2.0
	その他	5	東西の移動／南北の移動／区内公共施設への移動 40.0			医療・福祉関連施設への移動／区内商業施設への移動／公共交通機関の混雑 20.0		20.0	0.0
年齢	18～29歳	146	公共交通機関の混雑 41.8	南北の移動 34.2	東西の移動 18.5	区内公共施設への移動 9.6	区内商業施設への移動 8.9	25.3	2.1
	30～39歳	252	南北の移動 43.3	公共交通機関の混雑 39.3	東西の移動 23.4	区内公共施設への移動 16.3	区内商業施設への移動 9.1	21.8	2.0
	40～49歳	303	南北の移動 48.2	公共交通機関の混雑 35.0	東西の移動 15.8	区内公共施設への移動 14.9	区内商業施設への移動 11.2	25.7	2.6
	50～59歳	301	南北の移動 46.2	公共交通機関の混雑 37.5	東西の移動 15.3	区内公共施設への移動 14.3	医療・福祉関連施設への移動 9.3	21.9	3.3
	60～69歳	182	南北の移動 41.8	公共交通機関の混雑 27.5	東西の移動 15.4	区内公共施設への移動 14.3	区内商業施設への移動 9.3	31.3	2.2
	70歳以上	334	南北の移動 24.0	医療・福祉関連施設への移動／公共交通機関の混雑 15.0		区内公共施設への移動 12.9	東西の移動 11.4	44.6	3.6
	男性×年齢	18～29歳	66	南北の移動 36.4	公共交通機関の混雑 34.8	東西の移動 12.1	区内公共施設への移動／区内商業施設への移動 6.1		30.3
30～39歳		117	南北の移動 47.9	公共交通機関の混雑 42.7	東西の移動 24.8	区内公共施設への移動 15.4	区内商業施設への移動 8.5	18.8	1.7
40～49歳		125	南北の移動 54.4	公共交通機関の混雑 34.4	東西の移動 14.4	区内公共施設への移動 10.4	区内商業施設への移動 9.6	24.0	3.2
50～59歳		135	南北の移動 51.1	公共交通機関の混雑 40.0	区内公共施設への移動 13.3	東西の移動 12.6	医療・福祉関連施設への移動 10.4	18.5	5.9
60～69歳		91	南北の移動 48.4	公共交通機関の混雑 26.4	区内公共施設への移動 17.6	東西の移動 16.5	医療・福祉関連施設への移動／区内商業施設への移動 8.8	29.7	4.4
70歳以上		141	南北の移動 27.7	公共交通機関の混雑 15.6	医療・福祉関連施設への移動 13.5	区内公共施設への移動 9.9	東西の移動 9.2	45.4	3.5
女性×年齢		18～29歳	78	公共交通機関の混雑 47.4	南北の移動 32.1	東西の移動 24.4	区内公共施設への移動／区内商業施設への移動 11.5		21.8
	30～39歳	134	南北の移動 39.6	公共交通機関の混雑 36.6	東西の移動 22.4	区内公共施設への移動 17.2	区内商業施設への移動 9.7	23.9	2.2
	40～49歳	177	南北の移動 44.1	公共交通機関の混雑 35.6	区内公共施設への移動 18.1	東西の移動 16.4	区内商業施設への移動 12.4	27.1	2.3
	50～59歳	164	南北の移動 41.5	公共交通機関の混雑 35.4	東西の移動 17.1	区内公共施設への移動 14.6	区内商業施設への移動 10.4	25.0	1.2
	60～69歳	91	南北の移動 35.2	公共交通機関の混雑 28.6	東西の移動 14.3	区内公共施設への移動 11.0	区内商業施設への移動 9.9	33.0	0.0
	70歳以上	192	南北の移動 21.4	医療・福祉関連施設への移動 16.1	区内公共施設への移動 15.1	公共交通機関の混雑 14.6	区内商業施設への移動 13.5	44.3	3.6

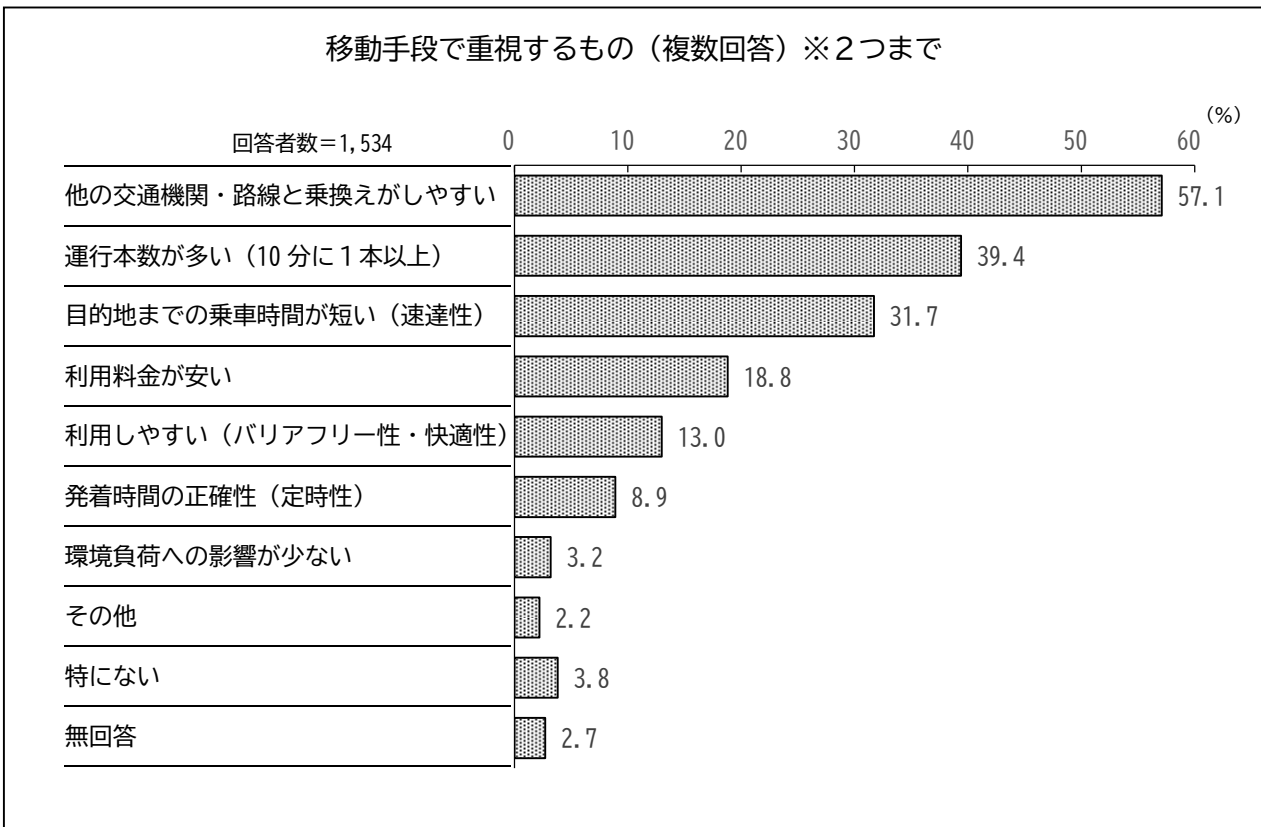
(2) 移動手段で重視するもの

新規

◇「他の交通機関・路線と乗換えがしやすい」が6割近く

問11	区では、「快適に移動できるネットワーク都市」をまちづくりのテーマの1つに掲げ、交通利便性の向上に取り組んでいます。あなたが、移動手段に関して特に重視するものを、次の中から <u>2つ</u> まで選んでください。(回答者数=1,534)	
1	他の交通機関・路線と乗換えがしやすい	57.1%
2	目的地までの乗車時間が短い(速達性)	31.7%
3	運行本数が多い(10分に1本以上)	39.4%
4	発着時間の正確性(定時性)	8.9%
5	利用料金が安い	18.8%
6	利用しやすい(バリアフリー性・快適性)	13.0%
7	環境負荷への影響が少ない	3.2%
8	その他	2.2%
9	特にない	3.8%
	無回答	2.7%

移動手段に関して特に重視するものを聞いたところ、「他の交通機関・路線と乗換えがしやすい」(57.1%)が6割近くで最も多く、次いで「運行本数が多い(10分に1本以上)」(39.4%)、「目的地までの乗車時間が短い(速達性)」(31.7%)と続いている。



移動手段で重視するもの－地区

地区で見ると、「他の交通機関・路線と乗換えがしやすい」は南砂地区で6割台半ば、大島地区で6割を超え、白河・小松橋地区で6割となっている。「運行本数が多い（10分に1本以上）」は南砂地区で4割台半ばとなっている。

移動手段で重視するもの－地区（上位5項目）

（%）

	回答者数	1位	2位	3位	4位	5位
全体	1,534	他の交通機関・路線と乗換えがしやすい 57.1	運行本数が多い（10分に1本以上） 39.4	目的地までの乗車時間が短い（速達性） 31.7	利用料金が安い 18.8	利用しやすい（バリアフリー性・快適性） 13.0
地区	白河・小松橋	他の交通機関・路線と乗換えがしやすい 60.1	運行本数が多い（10分に1本以上） 35.7	目的地までの乗車時間が短い（速達性） 29.7	利用料金が安い 21.3	利用しやすい（バリアフリー性・快適性） 12.5
	富岡・東陽	他の交通機関・路線と乗換えがしやすい 56.7	運行本数が多い（10分に1本以上） 41.6	目的地までの乗車時間が短い（速達性） 32.9	利用料金が安い 20.8	利用しやすい（バリアフリー性・快適性） 13.4
	豊洲	他の交通機関・路線と乗換えがしやすい 55.3	運行本数が多い（10分に1本以上） 40.1	目的地までの乗車時間が短い（速達性） 37.2	利用料金が安い 17.2	利用しやすい（バリアフリー性・快適性） 13.3
	亀戸	他の交通機関・路線と乗換えがしやすい 54.2	運行本数が多い（10分に1本以上） 40.1	目的地までの乗車時間が短い（速達性） 33.3	利用料金が安い 20.9	利用しやすい（バリアフリー性・快適性） 13.6
	大島	他の交通機関・路線と乗換えがしやすい 62.5	運行本数が多い（10分に1本以上） 35.2	目的地までの乗車時間が短い（速達性） 34.1	利用料金が安い 20.5	利用しやすい（バリアフリー性・快適性） 15.9
	砂町	他の交通機関・路線と乗換えがしやすい 50.7	運行本数が多い（10分に1本以上） 41.6	目的地までの乗車時間が短い（速達性） 23.5	利用料金が安い 17.2	発着時間の正確性（定時性） 10.4
	南砂	他の交通機関・路線と乗換えがしやすい 66.0	運行本数が多い（10分に1本以上） 44.0	目的地までの乗車時間が短い（速達性） 30.5	利用しやすい（バリアフリー性・快適性） 13.5	利用料金が安い 12.8

第4章 調査結果の分析〈4 交通〉

移動手段で重視するもの－性別／年齢／性別×年齢

性別でみると、大きな差はみられない。

性別×年齢でみると、「他の交通機関・路線と乗換えがしやすい」は女性 40～49 歳で7割近く、男性 50～59 歳で6割台半ばとなっている。「目的地までの乗車時間が短い（速達性）」は女性 30～39 歳で5割を超え、男性 30～39 歳で5割近くとなっている。「運行本数が多い(10分に1本以上)」は女性 18～29 歳で5割近くとなっている。

移動手段で重視するもの－性別／年齢／性別×年齢（上位5項目）

(%)

	回答者数	1位	2位	3位	4位	5位
全体	1,534	他の交通機関・路線と乗換えがしやすい 57.1	運行本数が多い(10分に1本以上) 39.4	目的地までの乗車時間が短い(速達性) 31.7	利用料金が安い 18.8	利用しやすい(バリアフリー性・快適性) 13.0
性別	男性	676 他の交通機関・路線と乗換えがしやすい 55.8	運行本数が多い(10分に1本以上) 39.6	目的地までの乗車時間が短い(速達性) 32.7	利用料金が安い 18.5	利用しやすい(バリアフリー性・快適性) 12.0
	女性	836 他の交通機関・路線と乗換えがしやすい 58.6	運行本数が多い(10分に1本以上) 39.6	目的地までの乗車時間が短い(速達性) 31.3	利用料金が安い 19.0	利用しやすい(バリアフリー性・快適性) 13.6
	その他	5 他の交通機関・路線と乗換えがしやすい 80.0	運行本数が多い(10分に1本以上)／利用料金が安い 40.0			利用しやすい(バリアフリー性・快適性)／環境負荷への影響が少ない 20.0
年齢	18～29歳	146 他の交通機関・路線と乗換えがしやすい 50.7	運行本数が多い(10分に1本以上) 43.8	目的地までの乗車時間が短い(速達性) 37.0	利用料金が安い 24.0	発着時間の正確性(定時性)／利用しやすい(バリアフリー性・快適性) 11.6
	30～39歳	252 他の交通機関・路線と乗換えがしやすい 51.6	目的地までの乗車時間が短い(速達性) 50.4	運行本数が多い(10分に1本以上) 43.3	利用料金が安い 15.1	利用しやすい(バリアフリー性・快適性) 14.7
	40～49歳	303 他の交通機関・路線と乗換えがしやすい 61.4	運行本数が多い(10分に1本以上) 42.6	目的地までの乗車時間が短い(速達性) 38.6	利用料金が安い 18.2	利用しやすい(バリアフリー性・快適性) 10.9
	50～59歳	301 他の交通機関・路線と乗換えがしやすい 60.8	運行本数が多い(10分に1本以上) 43.9	目的地までの乗車時間が短い(速達性) 31.2	利用料金が安い 21.9	利用しやすい(バリアフリー性・快適性) 10.3
	60～69歳	182 他の交通機関・路線と乗換えがしやすい 61.0	運行本数が多い(10分に1本以上) 40.1	利用料金が安い 24.2	目的地までの乗車時間が短い(速達性) 20.9	利用しやすい(バリアフリー性・快適性) 13.2
	70歳以上	334 他の交通機関・路線と乗換えがしやすい 56.0	運行本数が多い(10分に1本以上) 28.1	利用しやすい(バリアフリー性・快適性) 16.2	目的地までの乗車時間が短い(速達性) 15.9	利用料金が安い 14.7
性別×年齢	18～29歳	66 他の交通機関・路線と乗換えがしやすい 56.1	運行本数が多い(10分に1本以上) 39.4	目的地までの乗車時間が短い(速達性) 37.9	利用料金が安い 19.7	利用しやすい(バリアフリー性・快適性) 13.6
	30～39歳	117 他の交通機関・路線と乗換えがしやすい 50.4	目的地までの乗車時間が短い(速達性) 47.9	運行本数が多い(10分に1本以上) 44.4	利用料金が安い 16.2	利用しやすい(バリアフリー性・快適性) 10.3
	40～49歳	125 他の交通機関・路線と乗換えがしやすい 52.0	運行本数が多い(10分に1本以上) 42.4	目的地までの乗車時間が短い(速達性) 41.6	利用料金が安い 18.4	発着時間の正確性(定時性) 11.2
	50～59歳	135 他の交通機関・路線と乗換えがしやすい 65.9	運行本数が多い(10分に1本以上) 41.5	目的地までの乗車時間が短い(速達性) 34.8	利用料金が安い 20.0	利用しやすい(バリアフリー性・快適性) 10.4
	60～69歳	91 他の交通機関・路線と乗換えがしやすい 59.3	運行本数が多い(10分に1本以上) 40.7	利用料金が安い 24.2	目的地までの乗車時間が短い(速達性) 23.1	利用しやすい(バリアフリー性・快適性) 11.0
	70歳以上	141 他の交通機関・路線と乗換えがしやすい 51.8	運行本数が多い(10分に1本以上) 31.2	利用しやすい(バリアフリー性・快適性) 17.0	利用料金が安い 14.9	目的地までの乗車時間が短い(速達性) 14.2
女性×年齢	18～29歳	78 運行本数が多い(10分に1本以上) 48.7	他の交通機関・路線と乗換えがしやすい 44.9	目的地までの乗車時間が短い(速達性) 37.2	利用料金が安い 25.6	発着時間の正確性(定時性) 14.1
	30～39歳	134 目的地までの乗車時間が短い(速達性) 53.0	他の交通機関・路線と乗換えがしやすい 52.2	運行本数が多い(10分に1本以上) 42.5	利用しやすい(バリアフリー性・快適性) 18.7	利用料金が安い 14.2
	40～49歳	177 他の交通機関・路線と乗換えがしやすい 67.8	運行本数が多い(10分に1本以上) 42.4	目的地までの乗車時間が短い(速達性) 36.7	利用料金が安い 18.1	利用しやすい(バリアフリー性・快適性) 11.9
	50～59歳	164 他の交通機関・路線と乗換えがしやすい 57.3	運行本数が多い(10分に1本以上) 45.7	目的地までの乗車時間が短い(速達性) 28.7	利用料金が安い 23.2	利用しやすい(バリアフリー性・快適性) 9.8
	60～69歳	91 他の交通機関・路線と乗換えがしやすい 62.6	運行本数が多い(10分に1本以上) 39.6	利用料金が安い 24.2	目的地までの乗車時間が短い(速達性) 18.7	利用しやすい(バリアフリー性・快適性) 15.4
	70歳以上	192 他の交通機関・路線と乗換えがしやすい 59.4	運行本数が多い(10分に1本以上) 26.0	目的地までの乗車時間が短い(速達性) 17.2	利用しやすい(バリアフリー性・快適性) 15.6	発着時間の正確性(定時性)／利用料金が安い 14.6

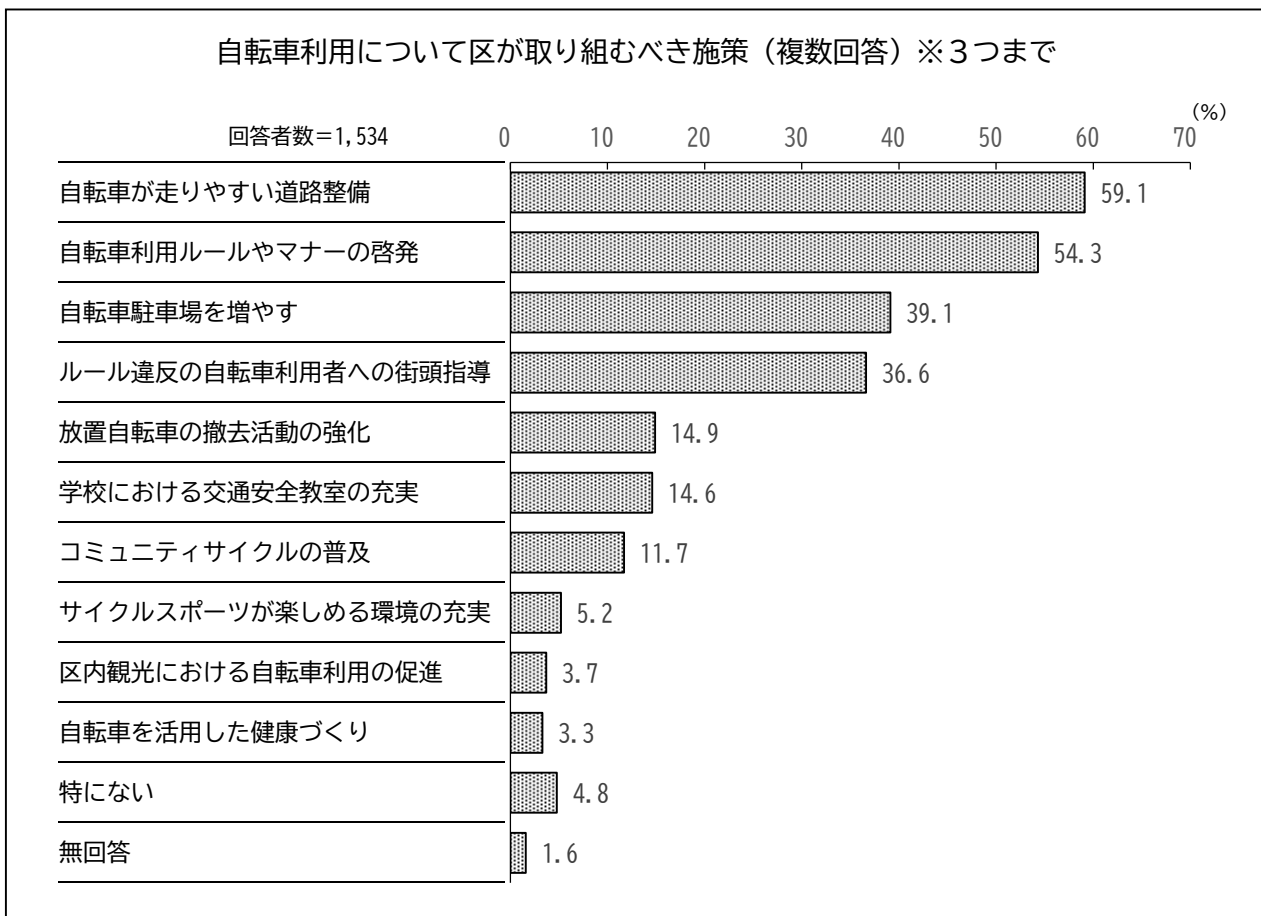
第4章 調査結果の分析
4 交通

(3) 自転車利用について区が取り組むべき施策

◇「自転車が走りやすい道路整備」がほぼ6割

問12	あなたが、自転車利用に関して、区で重点的に取り組むべきだと思う施策は何ですか。 次の中から3つまで選んでください。(回答者数=1,534)				
1	自転車利用ルールやマナーの啓発	54.3%	7	コミュニティサイクルの普及	11.7%
2	学校における交通安全教室の充実	14.6%	8	自転車を活用した健康づくり	3.3%
3	ルール違反の自転車利用者への街頭指導	36.6%	9	サイクルスポーツが楽しめる環境の充実	5.2%
4	自転車が走りやすい道路整備	59.1%	10	区内観光における自転車利用の促進	3.7%
5	自転車駐車を増やす	39.1%	11	特にない	4.8%
6	放置自転車の撤去活動の強化	14.9%		無回答	1.6%

自転車利用に関して区で重点的に取り組むべきだと思う施策について聞いたところ、「自転車が走りやすい道路整備」(59.1%)がほぼ6割で最も多く、次いで「自転車利用ルールやマナーの啓発」(54.3%)、「自転車駐車を増やす」(39.1%)と続いている。



第4章 調査結果の分析〈4 交通〉

自転車利用について区が取り組むべき施策－地区

地区で見ると、「自転車が走りやすい道路整備」はすべての地区で5割以上となっている。「自転車利用ルールやマナーの啓発」は大島地区、南砂地区で6割を超え、「自転車駐車を増やす」は白河・小松橋地区、富岡・東陽地区、亀戸地区で4割を超え、大島で4割となっている。「ルール違反の自転車利用者への街頭指導」は砂町地区で4割を超えている。

自転車利用について区が取り組むべき施策－地区（上位5項目）

		(%)				
	回答者数	1位	2位	3位	4位	5位
全体	1,534	自転車が走りやすい道路整備 59.1	自転車利用ルールやマナーの啓発 54.3	自転車駐車を増やす 39.1	ルール違反利用者への街頭指導 36.6	放置自転車の撤去活動の強化 14.9
地区	白河・小松橋	自転車が走りやすい道路整備 60.8	自転車利用ルールやマナーの啓発 49.0	自転車駐車を増やす 41.1	ルール違反利用者への街頭指導 35.7	学校における交通安全教室の充実 14.4
	富岡・東陽	自転車が走りやすい道路整備 61.9	自転車利用ルールやマナーの啓発 54.5	自転車駐車を増やす 42.4	ルール違反利用者への街頭指導 37.7	放置自転車の撤去活動の強化 14.7
	豊洲	自転車が走りやすい道路整備 54.0	自転車利用ルールやマナーの啓発 53.1	自転車駐車を増やす 37.5	ルール違反利用者への街頭指導 35.9	コミュニティサイクルの普及 18.1
	亀戸	自転車が走りやすい道路整備 63.8	自転車利用ルールやマナーの啓発 49.2	自転車駐車を増やす 42.9	ルール違反利用者への街頭指導 33.9	放置自転車の撤去活動の強化 19.2
	大島	自転車が走りやすい道路整備 63.1	自転車利用ルールやマナーの啓発 61.9	自転車駐車を増やす 40.3	ルール違反利用者への街頭指導 35.2	学校における交通安全教室の充実 14.8
	砂町	自転車利用ルールやマナーの啓発 57.5	自転車が走りやすい道路整備 54.8	ルール違反利用者への街頭指導 42.5	自転車駐車を増やす 34.4	学校における交通安全教室の充実 15.8
	南砂	自転車利用ルールやマナーの啓発 61.0	自転車が走りやすい道路整備 58.9	ルール違反利用者への街頭指導／自転車駐車を増やす		学校における交通安全教室の充実 20.6
						34.8

自転車利用について区が取り組むべき施策－性別／年齢／性別×年齢

性別でみると、「自転車駐車を増やす」は女性の方が男性より10ポイント高く、「ルール違反の自転車利用者への街頭指導」は男性の方が女性より10ポイント高くなっている。

性別×年齢でみると、「自転車が走りやすい道路整備」は男性の49歳以下、女性の59歳以下で6割台となっている。一方、「自転車利用ルールやマナーの啓発」は男性の50歳以上、女性の60歳以上で6割台となっている。「自転車駐車を増やす」は女性18～29歳、女性40～49歳で5割台、「ルール違反の自転車利用者への街頭指導」は男性の60歳以上で5割台半ばとなっている。

自転車利用について区が取り組むべき施策－性別／年齢／性別×年齢（上位5項目）

(%)

	回答者数	1位	2位	3位	4位	5位
全体	1,534	自転車が走りやすい道路整備 59.1	自転車利用ルールやマナーの啓発 54.3	自転車駐車を増やす 39.1	ルール違反利用者への街頭指導 36.6	放置自転車の撤去活動の強化 14.9
性別	男性	自転車が走りやすい道路整備 58.1	自転車利用ルールやマナーの啓発 55.5	ルール違反利用者への街頭指導 42.2	自転車駐車を増やす 33.6	放置自転車の撤去活動の強化 17.2
	女性	自転車が走りやすい道路整備 60.0	自転車利用ルールやマナーの啓発 53.8	自転車駐車を増やす 43.3	ルール違反利用者への街頭指導 32.5	学校における交通安全教室の充実 16.0
	その他	自転車が走りやすい道路整備／自転車駐車を増やす 80.0		自転車利用ルールやマナーの啓発 40.0	学校における交通安全教室の充実／ルール違反利用者への街頭指導／サイクルスポーツが楽しめる環境の充実	20.0
年齢	18～29歳	自転車が走りやすい道路整備 68.5	自転車駐車を増やす 45.2	自転車利用ルールやマナーの啓発 44.5	ルール違反利用者への街頭指導 24.0	コミュニティサイクルの普及 17.8
	30～39歳	自転車が走りやすい道路整備 68.7	自転車駐車を増やす 47.2	自転車利用ルールやマナーの啓発 44.4	ルール違反利用者への街頭指導 31.0	コミュニティサイクルの普及 15.5
	40～49歳	自転車が走りやすい道路整備 67.0	自転車駐車を増やす 51.2	自転車利用ルールやマナーの啓発 48.8	ルール違反利用者への街頭指導 30.4	コミュニティサイクルの普及 16.2
	50～59歳	自転車が走りやすい道路整備 57.1	自転車利用ルールやマナーの啓発 55.8	自転車駐車を増やす 40.2	ルール違反利用者への街頭指導 37.5	コミュニティサイクルの普及 16.6
	60～69歳	自転車利用ルールやマナーの啓発 67.0	自転車が走りやすい道路整備 51.6	ルール違反利用者への街頭指導 47.8	自転車駐車を増やす 32.4	放置自転車の撤去活動の強化 19.2
	70歳以上	自転車利用ルールやマナーの啓発 63.8	自転車が走りやすい道路整備 47.0	ルール違反利用者への街頭指導 46.1	自転車駐車を増やす 22.2	放置自転車の撤去活動の強化 18.9
男性×年齢	18～29歳	自転車が走りやすい道路整備 69.7	自転車利用ルールやマナーの啓発 42.4	自転車駐車を増やす 37.9	ルール違反利用者への街頭指導 24.2	コミュニティサイクルの普及 22.7
	30～39歳	自転車が走りやすい道路整備 69.2	自転車駐車を増やす 45.3	自転車利用ルールやマナーの啓発 43.6	ルール違反利用者への街頭指導 35.0	コミュニティサイクルの普及 18.8
	40～49歳	自転車が走りやすい道路整備 67.2	自転車利用ルールやマナーの啓発／自転車駐車を増やす 46.4	ルール違反利用者への街頭指導 31.2	ルール違反利用者への街頭指導 31.2	コミュニティサイクルの普及 17.6
	50～59歳	自転車利用ルールやマナーの啓発 60.7	自転車が走りやすい道路整備 53.3	ルール違反利用者への街頭指導 43.7	自転車駐車を増やす 35.6	コミュニティサイクルの普及 17.8
	60～69歳	自転車利用ルールやマナーの啓発 67.0	ルール違反利用者への街頭指導 56.0	自転車が走りやすい道路整備 47.3	自転車駐車を増やす／放置自転車の撤去活動の強化 24.2	
	70歳以上	自転車利用ルールやマナーの啓発 67.4	ルール違反利用者への街頭指導 56.0	自転車が走りやすい道路整備 47.5	放置自転車の撤去活動の強化 19.1	学校における交通安全教室の充実 15.6
女性×年齢	18～29歳	自転車が走りやすい道路整備 67.9	自転車駐車を増やす 51.3	自転車利用ルールやマナーの啓発 44.9	ルール違反利用者への街頭指導 23.1	学校における交通安全教室の充実／コミュニティサイクルの普及 14.1
	30～39歳	自転車が走りやすい道路整備 67.9	自転車駐車を増やす 48.5	自転車利用ルールやマナーの啓発 45.5	ルール違反利用者への街頭指導 27.6	学校における交通安全教室の充実 19.4
	40～49歳	自転車が走りやすい道路整備 66.7	自転車駐車を増やす 54.2	自転車利用ルールやマナーの啓発 50.8	ルール違反利用者への街頭指導 29.9	学校における交通安全教室の充実／コミュニティサイクルの普及 15.3
	50～59歳	自転車が走りやすい道路整備 60.4	自転車利用ルールやマナーの啓発 51.8	自転車駐車を増やす 43.3	ルール違反利用者への街頭指導 32.3	コミュニティサイクルの普及 15.9
	60～69歳	自転車利用ルールやマナーの啓発 67.0	自転車が走りやすい道路整備 56.0	自転車駐車を増やす 40.7	ルール違反利用者への街頭指導 39.6	学校における交通安全教室の充実 20.9
	70歳以上	自転車利用ルールやマナーの啓発 61.5	自転車が走りやすい道路整備 46.9	ルール違反利用者への街頭指導 39.1	自転車駐車を増やす 27.6	放置自転車の撤去活動の強化 18.8

5 選挙

-
- (1) 江東区議会議員選挙・江東区長選挙の投票の有無
 - (2) 候補者を選ぶのに役立ったと思うもの
 - (3) 投票しなかった理由
 - (4) 「選挙公報」の閲読状況
-

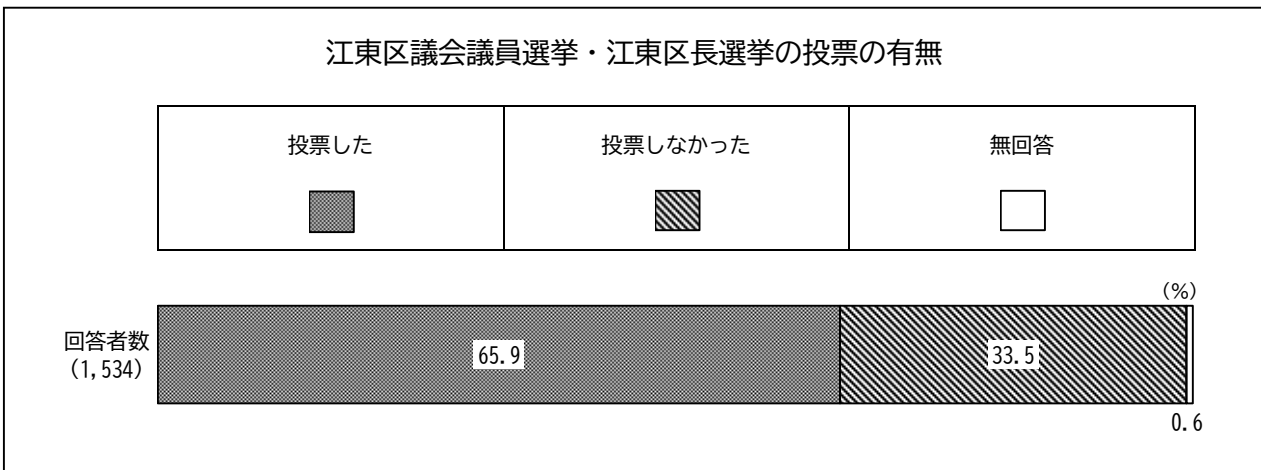
5 選挙

(1) 江東区議会議員選挙・江東区長選挙の投票の有無

◇「投票した」が6割台半ば

問13	令和5年4月23日は、江東区議会議員選挙・江東区長選挙の投票日でしたが、あなたは投票しましたか。次の中から1つだけ選んでください。(回答者数=1,534)				
1	投票した	65.9%	2	投票しなかった	33.5%
				無回答	0.6%

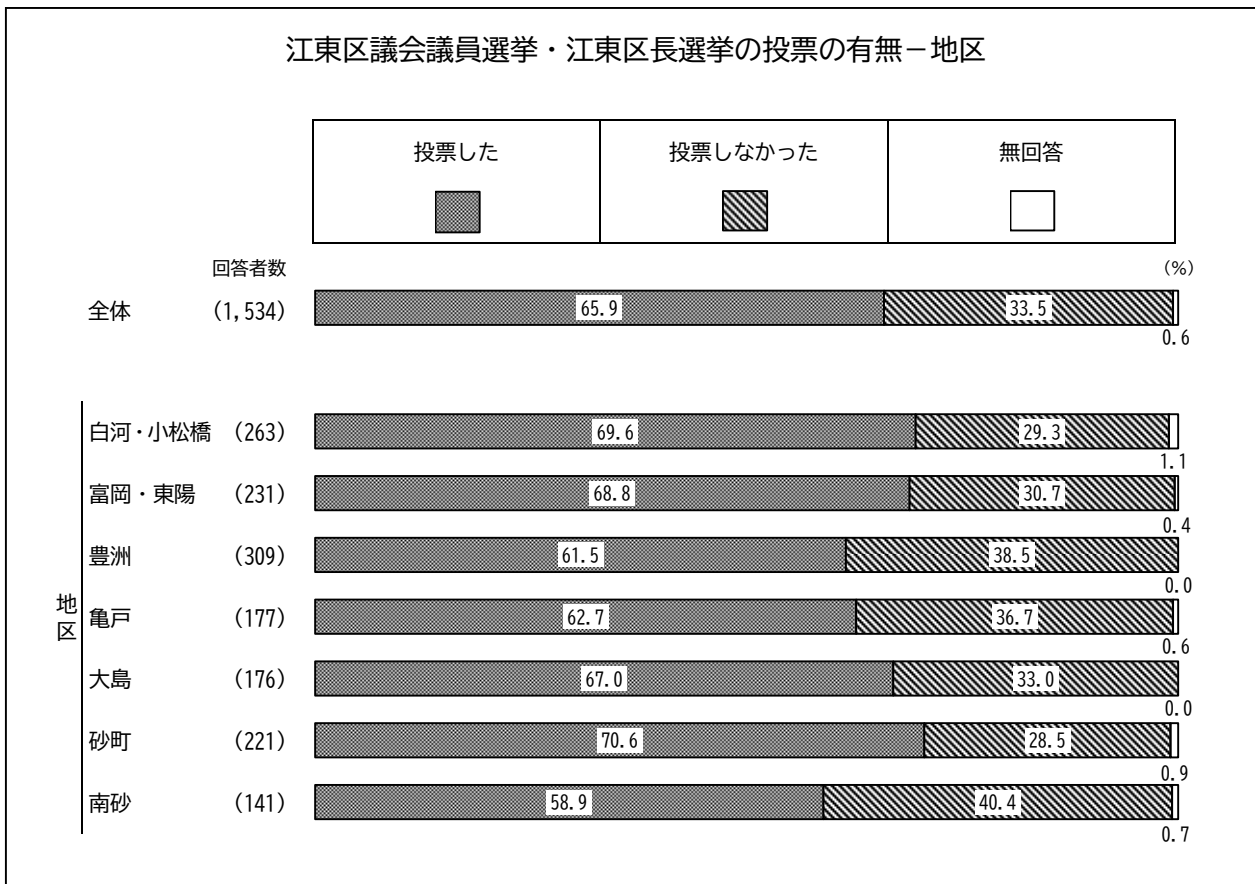
令和5年4月23日の江東区議会議員選挙・江東区長選挙に投票したかを聞いたところ、「投票した」(65.9%)は6割台半ばとなっている。なお、実際の江東区議会議員選挙の投票率は48.87%、江東区長選挙の投票率は48.86%であった。



第4章 調査結果の分析〈5 選挙〉

江東区議会議員選挙・江東区長選挙の投票の有無－地区

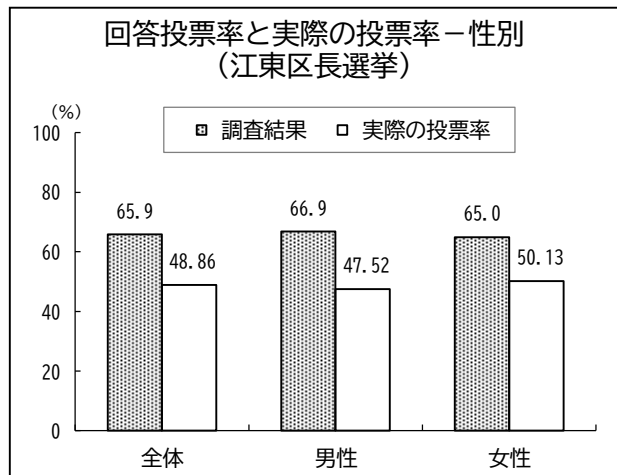
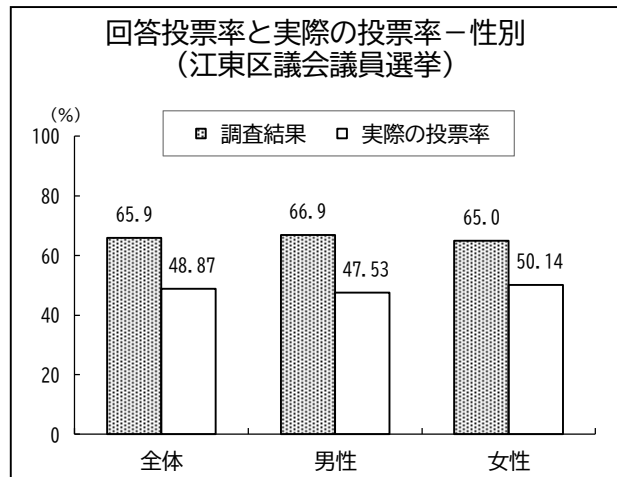
地区でみると、「投票した」は砂町地区でほぼ7割、白河・小松橋地区で7割、富岡・東陽地区、大島地区で7割近くとなっている。一方、「投票しなかった」は南砂地区で4割となっている。



回答投票率と実際の投票率－性別

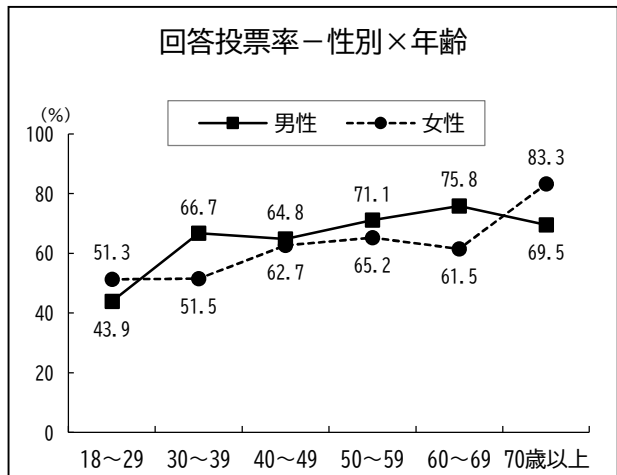
性別で見ると、実際の投票率は女性の方が男性より3ポイント高いが、調査結果は男女で大きな差はみられない。

実際の投票率の平均をみると、江東区議会議員選挙は男性47.53%、女性50.14%、江東区長選挙は男性47.52%、女性50.13%となっている。



回答投票率－性別×年齢

性別×年齢で見ると、30～69歳は男性の方が女性より投票率が高く、特に30～39歳と60～69歳では男性の方が女性より14ポイント以上高くなっている。一方、18～29歳と70歳以上は女性の方が男性より高く、70歳以上は女性の方が14ポイント高くなっている。



第4章 調査結果の分析〈5 選挙〉

調査結果による推定投票率－性別×年齢

実際の平均投票率は江東区議会議員選挙が48.87%、江東区長選挙が48.86%であり、今回の調査結果（65.9%）とは17ポイントの差がある。

このような形式の質問で、回答が実際の結果と差異が生じることが多いのは、世論調査の回答者は、世論調査に協力しなかった人に比べて区政への関心度が相対的に高いと考えられるため、回答者全体に占める投票した人の割合も高くなるのが要因のひとつと考えられる。これらの要因は世論調査では避けがたいものであるが、結果の数値を一定の値としてみる限り、大きな支障はないと考えられる。そこで、性別×年齢による分析を正確にするため、下記の式による補正係数を算出した。

実際の投票率との比較と補正係数（江東区議会議員選挙）

	全 体	■補正係数 = 実際の投票率 ÷ 回答投票率	
調査結果による投票率	65.9 %	男性 0.7105	47.53%
		女性 0.7714	50.14%
実際の投票率	48.87%	全体 0.7416	48.87%
			65.9%

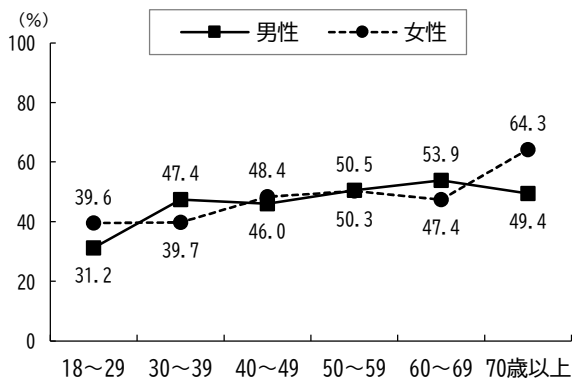
実際の投票率との比較と補正係数（江東区長選挙）

	全 体	■補正係数 = 実際の投票率 ÷ 回答投票率	
調査結果による投票率	65.9 %	男性 0.7103	47.52%
		女性 0.7712	50.13%
実際の投票率	48.86%	全体 0.7414	48.86%
			65.9%

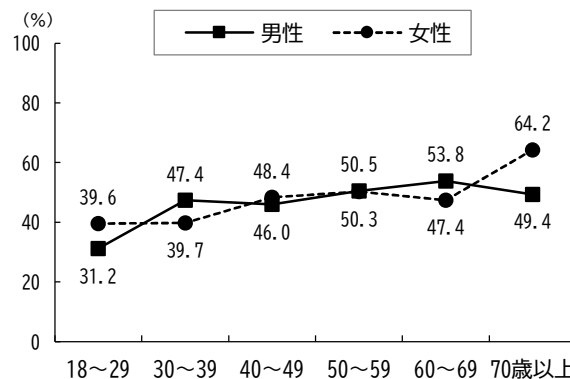
それぞれの性別の補正係数を各年齢層に掛け合わせて、性別×年齢の推定投票率を求めると以下のようなになる。なお、グラフ中の数値については、小数点第2位を四捨五入した。

推定投票率をみると、男性18～29歳で最も低く両選挙とも31.2%、女性70歳以上で最も高く江東区議会議員選挙で64.3%、江東区長選挙で64.2%となっている。

調査結果による推定投票率－性別×年齢
（江東区議会議員選挙）



調査結果による推定投票率－性別×年齢
（江東区長選挙）

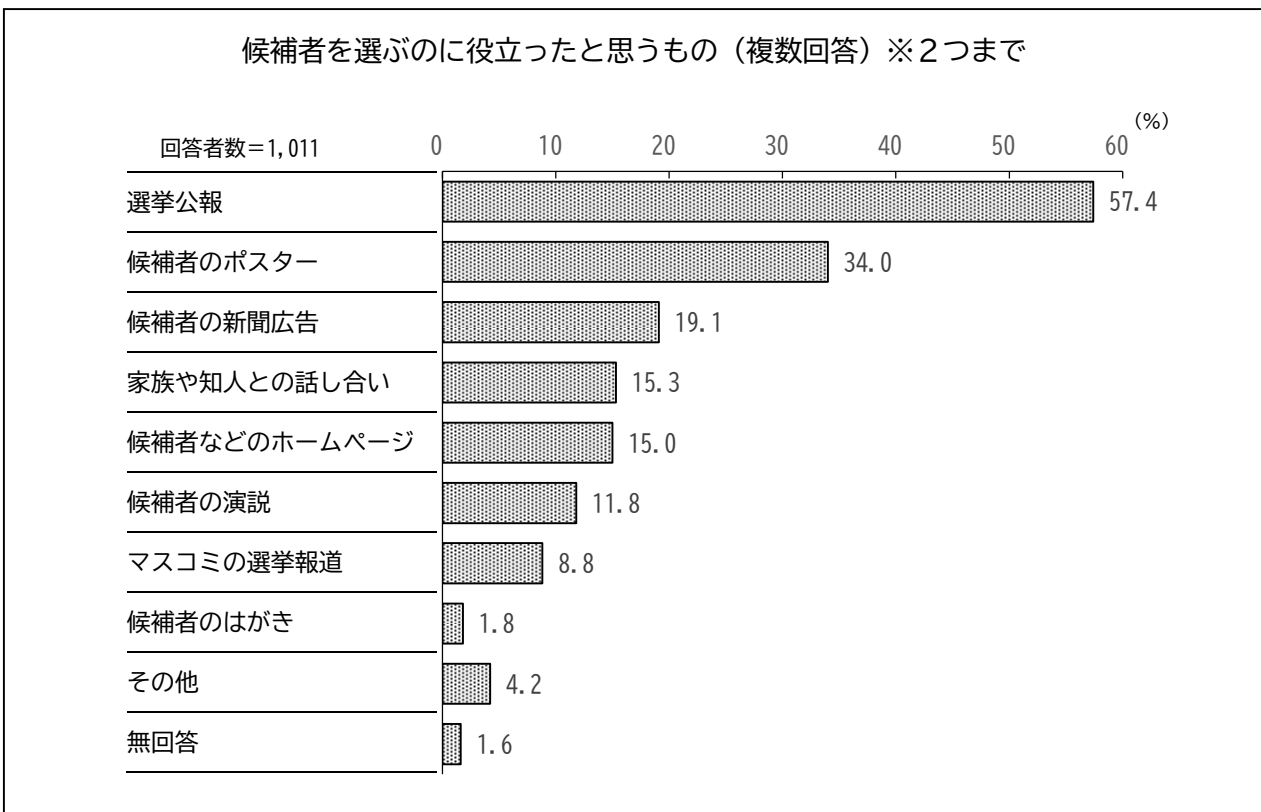


(2) 候補者を選ぶのに役立ったと思うもの

◇「選挙公報」が6割近く

問13-1	(問13で、「1 投票した」とお答えの方に) あなたが、候補者を選ぶのに役立ったと思うものは何ですか。 次の中から2つまで選んでください。(回答者数=1,011)				
1	選挙公報	57.4%	6	マスコミの選挙報道	8.8%
2	候補者のポスター	34.0%	7	家族や知人との話し合い	15.3%
3	候補者のはがき	1.8%	8	候補者などのホームページ	15.0%
4	候補者の演説	11.8%	9	その他	4.2%
5	候補者の新聞広告	19.1%		無回答	1.6%

令和5年4月に行われた江東区議会議員選挙・江東区長選挙に「投票した」と答えた方(1,011人)に、候補者を選ぶのに役立ったと思うものは何か聞いたところ、「選挙公報」(57.4%)が6割近くで最も多く、次いで「候補者のポスター」(34.0%)、「候補者の新聞広告」(19.1%)と続いている。



第4章 調査結果の分析〈5 選挙〉

候補者を選ぶのに役立ったと思うもの－性別／年齢／性別×年齢

性別でみると、男性は「候補者などのホームページ」が第3位となっている。

性別×年齢でみると、女性 18～29 歳は「候補者のポスター」が6割近くで第1位となっている。その他の性別×年齢は「選挙公報」が第1位で、女性 60～69 歳で7割近くとなっている。「候補者などのホームページ」は女性 30～39 歳で3割を超えている。

候補者を選ぶのに役立ったと思うもの－性別／年齢／性別×年齢（上位5項目）

(%)

	回答者数	1位	2位	3位	4位	5位
全体	1,011	選挙公報 57.4	候補者のポスター 34.0	候補者の新聞広告 19.1	家族や知人との話し合い 15.3	候補者などのホームページ 15.0
性別	男性	452 選挙公報 60.4	候補者のポスター 34.3	候補者などのホームページ 17.3	候補者の新聞広告 15.5	家族や知人との話し合い 12.4
	女性	543 選挙公報 55.2	候補者のポスター 33.9	候補者の新聞広告 21.9	家族や知人との話し合い 17.7	候補者の演説 13.6
	その他	4	選挙公報／候補者の新聞広告／候補者などのホームページ 50.0			
年齢	18～29歳	71 候補者のポスター 47.9	選挙公報 45.1	家族や知人との話し合い 22.5	候補者の新聞広告 21.1	候補者などのホームページ 16.9
	30～39歳	148 選挙公報 50.0	候補者などのホームページ 27.0	候補者のポスター 25.7	候補者の新聞広告 18.2	家族や知人との話し合い 14.9
	40～49歳	192 選挙公報 57.8	候補者のポスター 35.4	候補者などのホームページ 19.8	候補者の新聞広告 18.8	家族や知人との話し合い 12.5
	50～59歳	205 選挙公報 61.0	候補者のポスター 35.6	候補者の新聞広告 21.5	候補者などのホームページ 14.6	候補者の演説／家族や知人との話し合い 12.7
	60～69歳	125 選挙公報 64.0	候補者のポスター 36.0	候補者の新聞広告 17.6	家族や知人との話し合い／候補者などのホームページ 17.8	候補者の演説 13.6
	70歳以上	258 選挙公報 59.3	候補者のポスター 31.4	家族や知人との話し合い 18.2	候補者の新聞広告 17.8	候補者の演説 17.1
男性×年齢	18～29歳	29 選挙公報 65.5	候補者のポスター 37.9	候補者などのホームページ 24.1	家族や知人との話し合い 20.7	候補者の新聞広告 13.8
	30～39歳	78 選挙公報 52.6	候補者のポスター 26.9	候補者などのホームページ 20.5	家族や知人との話し合い 15.4	候補者の新聞広告 14.1
	40～49歳	81 選挙公報 61.7	候補者のポスター 37.0	候補者などのホームページ 23.5	候補者の新聞広告 14.8	家族や知人との話し合い 8.6
	50～59歳	96 選挙公報 60.4	候補者のポスター 33.3	候補者の新聞広告 20.8	候補者などのホームページ 16.7	候補者の演説 13.5
	60～69歳	69 選挙公報 60.9	候補者のポスター 44.9	候補者などのホームページ 21.7	家族や知人との話し合い 14.5	候補者の演説 11.6
	70歳以上	98 選挙公報 63.3	候補者のポスター 30.6	マスコミの選挙報道 23.5	候補者の新聞広告 16.3	家族や知人との話し合い 11.2
女性×年齢	18～29歳	40 候補者のポスター 57.5	選挙公報 30.0	候補者の新聞広告／家族や知人との話し合い 25.0		候補者の演説／候補者などのホームページ 10.0
	30～39歳	69 選挙公報 47.8	候補者などのホームページ 33.3	候補者のポスター 24.6	候補者の新聞広告 23.2	家族や知人との話し合い 14.5
	40～49歳	111 選挙公報 55.0	候補者のポスター 34.2	候補者の新聞広告 21.6	候補者などのホームページ 17.1	家族や知人との話し合い 15.3
	50～59歳	107 選挙公報 60.7	候補者のポスター 38.3	候補者の新聞広告 21.5	家族や知人との話し合い 15.0	候補者などのホームページ 13.1
	60～69歳	56 選挙公報 67.9	候補者の新聞広告 28.6	候補者のポスター 25.0	候補者の演説／家族や知人との話し合い 12.5	
	70歳以上	160 選挙公報 56.9	候補者のポスター 31.9	家族や知人との話し合い 22.5	候補者の演説 21.3	候補者の新聞広告 18.8

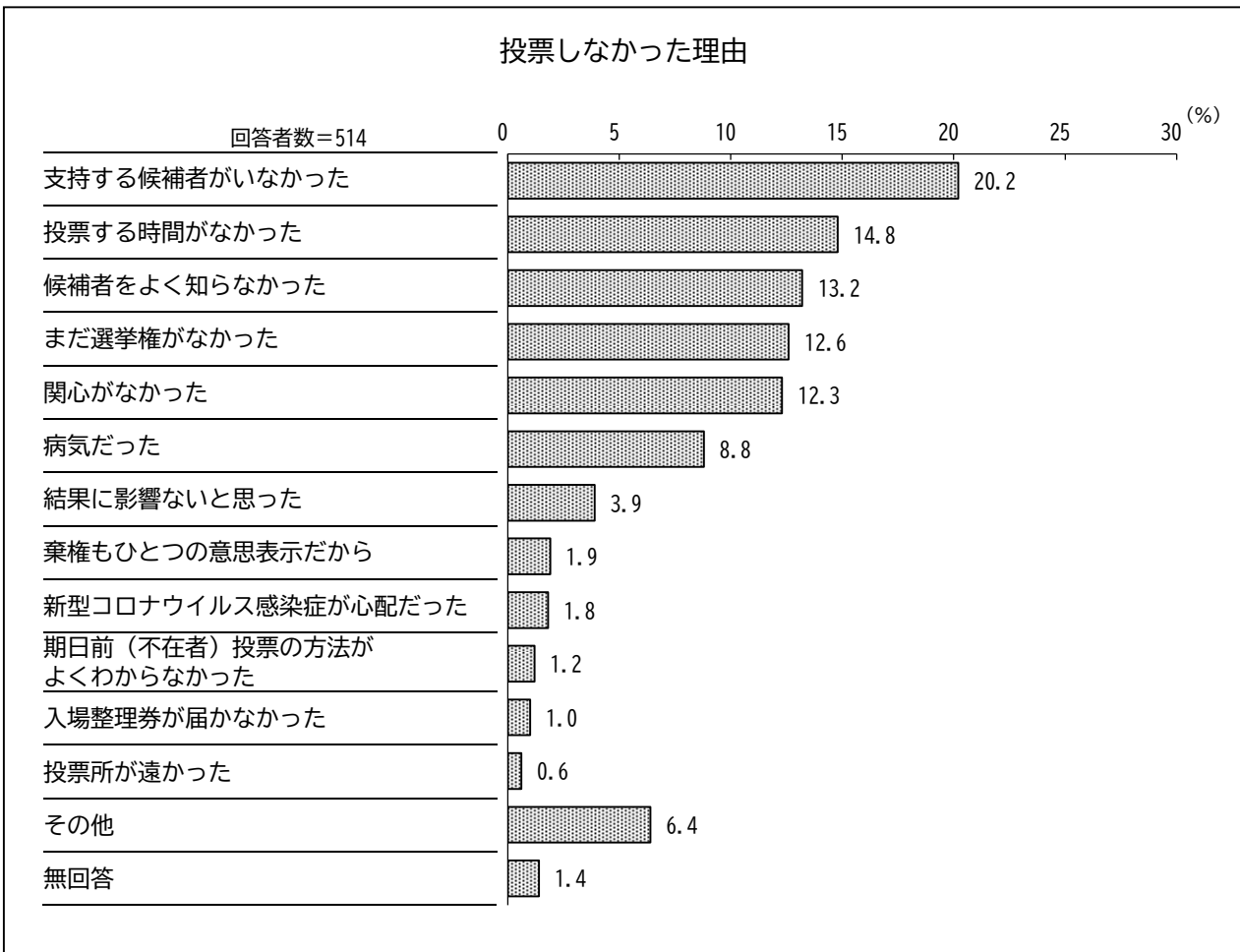
5 選挙
第4章
調査結果の分析

(3) 投票しなかった理由

◇「支持する候補者がいなかった」が2割

問13-2	(問13で、「2 投票しなかった」とお答えの方に) あなたが、江東区議会議員選挙・江東区長選挙で投票しなかった主な理由は何ですか。 次の中から1つだけ選んでください。(回答者数=514)				
1	支持する候補者がいなかった	20.2%	8	投票所が遠かった	0.6%
2	候補者をよく知らなかった	13.2%	9	関心がなかった	12.3%
3	結果に影響ないと思った	3.9%	10	期日前(不在者)投票の方法 がよくわからなかった	1.2%
4	棄権もひとつの意思表示だから	1.9%	11	入場整理券が届かなかった	1.0%
5	投票する時間がなかった	14.8%	12	まだ選挙権がなかった	12.6%
6	病気だった	8.8%	13	その他	6.4%
7	新型コロナウイルス感染症が心配 だった	1.8%		無回答	1.4%

令和5年4月に行われた江東区議会議員選挙・江東区長選挙に「投票しなかった」と答えた方(514人)に、その理由を聞いたところ、「支持する候補者がいなかった」(20.2%)が2割で最も多く、次いで「投票する時間がなかった」(14.8%)、「候補者をよく知らなかった」(13.2%)と続いている。



第4章 調査結果の分析〈5 選挙〉

投票しなかった理由－性別／年齢／性別×年齢

性別でみると、「支持する候補者がいなかった」は男性の方が女性より6ポイント高くなっている。

年齢でみると、「支持する候補者がいなかった」は40～69歳で第1位となっており、60～69歳は3割を超えている。39歳以下は「まだ選挙権がなかった」が第1位、70歳以上は「病気だった」が第1位となっている。

投票しなかった理由－性別／年齢／性別×年齢（上位5項目）

		回答者数	1位	2位	3位	4位	5位
全体		514	支持する候補者がいなかった 20.2	投票する時間がなかった 14.8	候補者をよく知らなかった 13.2	まだ選挙権がなかった 12.6	関心がなかった 12.3
性別	男性	223	支持する候補者がいなかった 23.3	投票する時間がなかった 13.9	候補者をよく知らなかった 13.0	まだ選挙権がなかった 12.6	関心がなかった 12.1
	女性	286	支持する候補者がいなかった 17.8	投票する時間がなかった 15.4	候補者をよく知らなかった 13.3	まだ選挙権がなかった 12.9	関心がなかった 12.6
	その他	1	投票する時間がなかった 100.0				
年齢	18～29歳	74	まだ選挙権がなかった 24.3	関心がなかった 21.6	投票する時間がなかった 16.2	支持する候補者がいなかった／候補者をよく知らなかった 12.5	関心がなかった 8.1
	30～39歳	104	まだ選挙権がなかった 25.0	投票する時間がなかった 20.2	関心がなかった 13.5	候補者をよく知らなかった 12.5	支持する候補者がいなかった 7.7
	40～49歳	109	支持する候補者がいなかった 23.9	投票する時間がなかった 19.3	候補者をよく知らなかった 12.8	関心がなかった 12.8	まだ選挙権がなかった 11.0
	50～59歳	95	支持する候補者がいなかった 27.4	投票する時間がなかった 17.9	候補者をよく知らなかった 13.7	関心がなかった 12.6	結果に影響ないと思った 6.3
	60～69歳	57	支持する候補者がいなかった 31.6	候補者をよく知らなかった／病気だった 15.8	関心がなかった 15.8	関心がなかった／まだ選挙権がなかった 12.6	結果に影響ないと思った 7.0
	70歳以上	71	病気だった 28.2	支持する候補者がいなかった 26.8	候補者をよく知らなかった 16.9	棄権もひとつの意思表示だから／関心がなかった 12.6	結果に影響ないと思った 4.2
男性×年齢	18～29歳	37	まだ選挙権がなかった 27.0	関心がなかった 18.9	支持する候補者がいなかった 13.5	投票する時間がなかった 10.8	結果に影響ないと思った 8.1
	30～39歳	39	まだ選挙権がなかった 25.6	投票する時間がなかった 20.5	候補者をよく知らなかった 17.9	支持する候補者がいなかった／関心がなかった 10.3	結果に影響ないと思った 10.3
	40～49歳	44	支持する候補者がいなかった 31.8	投票する時間がなかった／関心がなかった 15.9	まだ選挙権がなかった 11.4	候補者をよく知らなかった 6.8	結果に影響ないと思った 7.7
	50～59歳	39	支持する候補者がいなかった 25.6	投票する時間がなかった 23.1	関心がなかった 15.4	候補者をよく知らなかった 10.3	結果に影響ないと思った 7.7
	60～69歳	22	支持する候補者がいなかった 31.8	候補者をよく知らなかった 22.7	結果に影響ないと思った 13.6	関心がなかった／まだ選挙権がなかった 10.3	結果に影響ないと思った 9.1
	70歳以上	42	支持する候補者がいなかった／病気だった 28.6	候補者をよく知らなかった 19.0	棄権もひとつの意思表示だから／投票する時間がなかった 19.0	関心がなかった 10.8	結果に影響ないと思った 4.8
女性×年齢	18～29歳	37	関心がなかった 24.3	投票する時間がなかった 21.6	候補者をよく知らなかった 10.8	支持する候補者がいなかった 2.7	投票する時間がなかった／まだ選挙権がなかった 2.7
	30～39歳	65	まだ選挙権がなかった 24.6	投票する時間がなかった 20.0	関心がなかった 15.4	候補者をよく知らなかった 9.2	投票する時間がなかった／まだ選挙権がなかった 9.2
	40～49歳	64	投票する時間がなかった 20.3	支持する候補者がいなかった 18.8	候補者をよく知らなかった 17.2	関心がなかった 10.9	投票する時間がなかった 10.9
	50～59歳	56	支持する候補者がいなかった 28.6	候補者をよく知らなかった 16.1	投票する時間がなかった 14.3	関心がなかった 10.7	病気だった 7.1
	60～69歳	35	支持する候補者がいなかった 31.4	病気だった 22.9	候補者をよく知らなかった 11.4	新型コロナウイルス感染症が心配だった 8.6	投票する時間がなかった／関心がなかった 5.7
	70歳以上	29	病気だった 27.6	支持する候補者がいなかった 24.1	候補者をよく知らなかった 13.8	関心がなかった 13.8	投票する時間がなかった 6.9

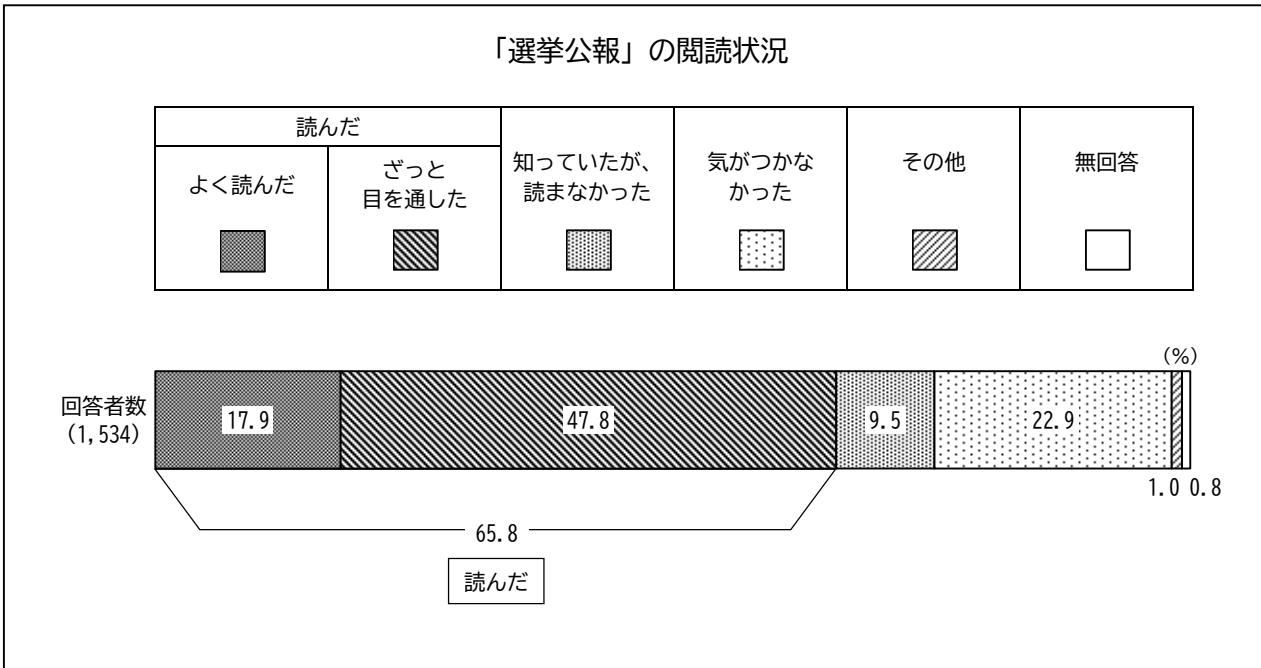
5 選挙 第4章 調査結果の分析

(4) 「選挙公報」の閲読状況

◇「読んだ」は6割台半ば

問14	区の選挙管理委員会では、江東区議会議員選挙・江東区長選挙の「選挙公報」を各戸配布し、また、区内各施設や区内各駅に公報スタンドを設置しましたが、あなたはお読みになりましたか。次の中から1つだけ選んでください。(回答者数=1,534)				
1	よく読んだ	17.9%	4	気がつかなかった	22.9%
2	ざっと目を通した	47.8%	5	その他	1.0%
3	知っていたが、読まなかった	9.5%		無回答	0.8%

江東区議会議員選挙・江東区長選挙の「選挙公報」を読んだか聞いたところ、「よく読んだ」(17.9%)と「ざっと目を通した」(47.8%)の2つを合わせた「読んだ」(65.8%)は6割台半ばとなっている。一方、「知っていたが、読まなかった」(9.5%)は1割未満、「気がつかなかった」(22.9%)は2割を超えている。

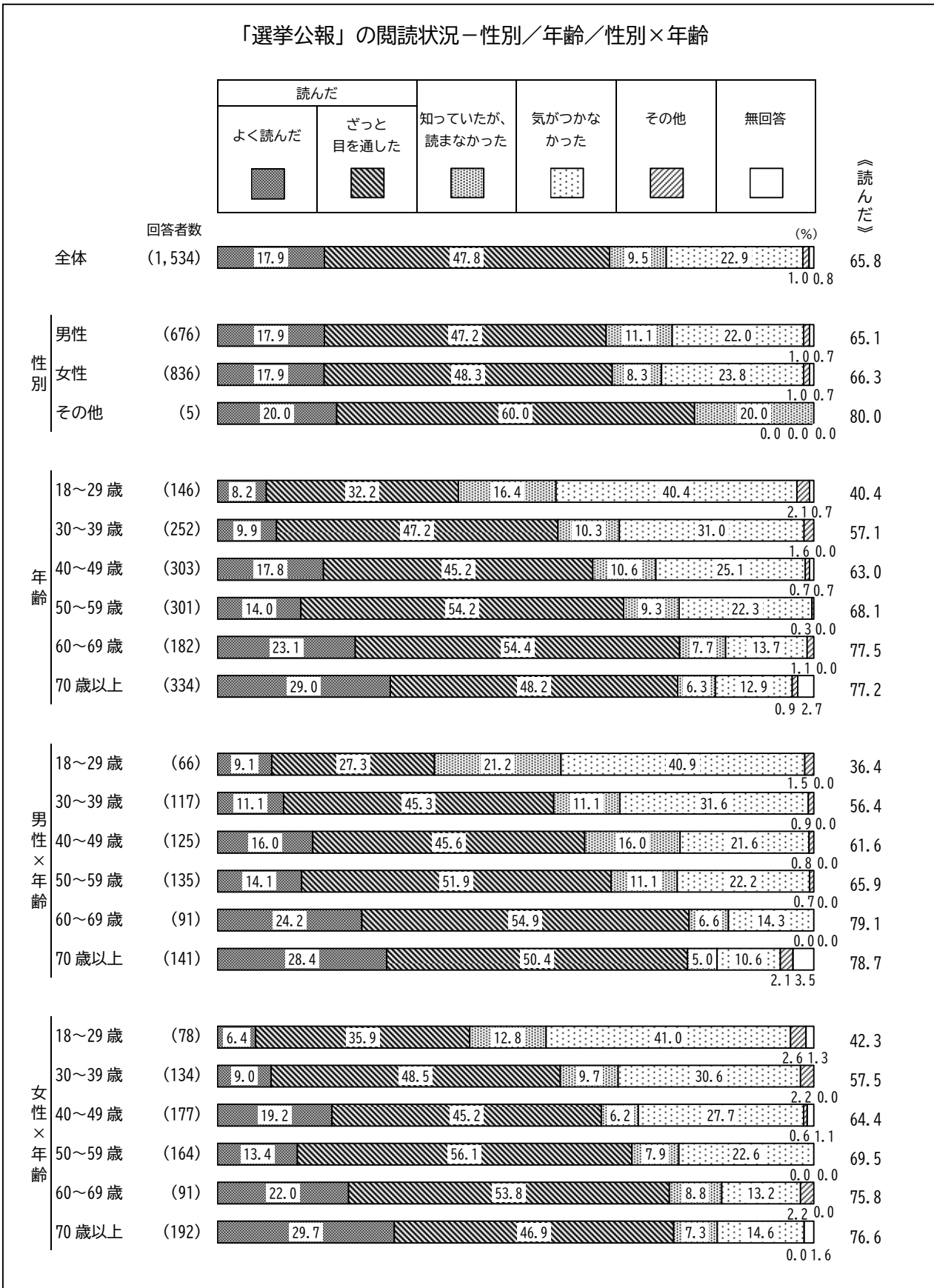


第4章 調査結果の分析〈5 選挙〉

「選挙公報」の閲読状況－性別／年齢／性別×年齢

性別でみると、男女による差はみられない。

性別×年齢でみると、「読んだ」は男女ともおおむね高い年齢ほど割合が高く、男性 60～69 歳でほぼ 8 割、男女とも 70 歳以上で 8 割近くとなっている。一方、「気がつかなかった」は女性 18～29 歳で 4 割を超え、男性 18～29 歳でほぼ 4 割となっている。



第4章 調査結果の分析
5 選挙